第八師團長陸軍中將 男爵山根武亮 同上 柴田房吉
侍從武官 同上 久野宮次郎
知事以下縣高等官 同上 醫王寺

御立寄仰出さる 皇太子嘉仁親王明九日拂曉御泊所三好小學校御發師團對抗演習御覽御歸途名古屋陸軍地方幼年學校へ御立寄在らせらるべき旨仰出され、十一月八日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

十一月九日 演習結了後御歸還の鹵簿（御乘車）

竹森大尉 ― 瀧憲兵少佐 ― 憲兵卒一 ― 警部 ― 殿下 ― 東宮武官長及供奉員

知事 ― 警察部長 ― 警保局書記官 ― 憲兵卒二 ― 警務課長 ― 憲兵下士一、卒一

雨中の御觀戰 九日午前五時三十分御駐泊所御出門、村木東宮武官長以下の隨員を從へさせられ、折から降りしきる雨を冒させ給ひ、勿体なくも泥路を御徒歩にて御野立所なる三好村大字三好字大慈山に成らせ給ふ。御着の頃は雨愈よ繁く、御着用の外套よりは雫流れ、陪觀の諸員何れも恐懼せしが毫も御厭ひの御氣色無く、雨に打たれ風に飜る統監旗の南方に直立御觀戰遊ばさる午前六時頃に至り雨は稍や衰へたるも戰鬪は愈よ酣となり、砲聲銃聲交々相起りて殷々轟々山岳爲に鳴動す。皇太子には雨の稍や小降りとなるや御外套を外させ給ひ、望遠鏡を手にさせられ、移り行く戰況をいと熱心に御觀望あらせらる、かくて午前六時四十八分休戰喇叭の鳴り響く迄、一時間餘の長時間に亘りて雨中御觀戰あらせ給ふ。御身体に御障りありてもと、程近き處に天幕に張り、其下に卓子椅子等を配備し參らせしも、閑院宮及び大島大將等と共に終始御野立のまま御觀戰あり、一度も御椅子に倚らせ給はざりき。

休戰後統監部にては兩軍の將校を召集し、御野立所附近の松林中に於て今回の演習に關する講評を開始せり。皇太子には閑院宮と共に中央に立たせ給ひ統監の講評を聞召されたる上、午前九時三十分還啓仰せ出さる。

大慈山御野立所 三好村大字三好字大慈山二十五番地にあり、御假泊所と

なれる學校より西南六七町の地點なり、御野立所阯に北面して高十三尺・幅三尺一寸五分・厚五寸五分の碑を建て、左の文字を刻す。

鶴駕之迹

愛知縣知事從三位勳二等深野一三題

（裏面）

明治四十三年十一月尾三ノ野ニ於テ第三第十五師團臨時對抗演習ニ際シ
皇太子殿下見學ノ爲メ行啓同月八日三好尋常高等小學校ニ御假泊翌九日長クモ玆ニ臺臨親ク戰況御觀覽尋テ統監長谷川陸軍大將ノ講評ヲ聞召サルル村民永ク其光榮ヲ傳ントシ記事ヲ余ニ需ム仍テ其事蹟ヲ叙スルコト爾

愛知縣西加茂郡長正六位勳五等　井深基

名古屋陸軍地方幼年學校御立寄

御豫定の演習御覽を終へさせられ、九日午前九時三十五分御料の人力車に召され、村木武官長以下の供奉員を從へ、大慈山より大字三好を經て岡崎街道に出で、愛知郡東郷村・日進村より天白村大字平針に入り、飯田街道を名古屋市に向はせらる、此時夜來の雨全く晴れ渡り一天拭へるが如く、沿道の拜觀者は到る處堵をなせり。鹵簿は駿河町通りを竪杉之町に出で、片端町より折れ一旦偕行社に還啓ありしも、御降車もあらせられず直に折返して御出門、東外堀町通りを經て正午名古屋陸軍地方幼年學校に成らせられ、正門內右側に整列する職員生徒の奉迎を受けさせられ、階上會議室なる便殿に入御あり、同所に於て御晝餐を召させられたる上、午後零時三十分佐藤校長以下高等官十餘名に拜謁仰付られ、それより扈從の大島大將・渡邊第三師團長・豊島中將等に謁を賜ひ、佐藤校長を近く御前に御召あり、同校の近況を御尋ねあらせらる。同校長は委細奉答し午後一時より先づ階上第三學年第二學年の自習室及び寢室を御覽あり、次いで杉田教授の第一學年歷史教授、齋藤教授の第二學年第二學班獨語教授を御覽あり、それより武術室にて第二學年の劍術・柔術等臺覽の上玉歩を校庭に移させ給ひ、同學年の機械体操御覽、再び屋內に入らせられ、井上教授の第二學年第一學班佛語教授、山村教授の第三學年幾何教授を御覽あらせられ次いで便殿に入御、豫め陳列しありし左記成績品を御覽あり、午後二時御機嫌麗はしく偕行社に還啓遊ばさる。

一、第一學年	臨	寫一	一、第三學年
一、第二學年	寫	生一	一、第二學年
一、第二學年	淨	書一	一、第一學年

一、第一學年	寫	生一	一、第一學年　選奬作文一
一、第二學年	習	字一	一、第二學年　選奬作文一
一、第二學年	淨	書一	一、第三學年　選奬作文一

以上（全部御持歸り相成る）

行啓仰出さる

皇太子嘉仁親王には明十日及び明後十一日左の個所へ行啓在らせらる可き旨仰出され、十一月九日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣

知事深野一三宛通牒せらる。

十一月十日

午前八時　御出門
名古屋陸軍兵器支廠
歩兵第三十三聯隊
歩兵第六聯隊　御晝餐
野砲兵第三聯隊
還　御

名古屋陸軍兵器支廠行啓　三日間に亘る演習御見學に御疲勞の御模樣もあらせられず、十日午前八時偕行社御出門、渡邊第三師團長・黒澤第五旅團長及び村木武官長以下隨員を從へさせられ、御料人力車に召し給ひ、橋本警視御前驅・鈴木警部の後驅にて、片端通りを竪杉之町へ、長塀町通りを一直線に東區古出來町を經て、鍋屋上野なる兵器支廠へ向はせらる。

折しも細雨降り注ぐ中を厭はせられず、御召人力車の幌を撤して沿道垣を作れる拜觀者に御會釋を賜ひつつ、午前八時三十分兵器支廠に着御あらせらる。

同廠にては九日午前九時師團司令部より、明十日行啓在らせらるゝ旨通

同　十一日

午前八時　御出門
工兵第三大隊
輜重兵第三大隊
騎兵第三聯隊
還　御

報に接するや、徹宵之が準備に從事し、十日午前八時十分辛ふじて完了す、御座所は應接室に設け、供奉員控室は第二野戰係室を充當せり。午前八時二十分となるや支廠長小林砲兵中佐以下將校、同相當官は表門内に整列して迎へ奉る程に着御あり。

かくて支廠長の御先導にて設けの便殿に入らせられ、御少憩の上支廠長以下將校、同相當官に拜謁仰付けられたる後、小林支廠長の言上せる支廠内の狀況を熟心に聞召され、同支廠長の御案内にて細雨霏々として降る中を、外套さへ召し給はず玉歩を運ばせられ第一・第二・第三兵器庫・第二・第一銃器庫・第九・第十一・第七・第六兵器庫を巡覽あらせられ、午前九時三十分還啓仰出され歩兵第三十三聯隊へ向はせ給ふ。

歩兵第三十三聯隊行啓　兵器支廠より東春日井郡守山村なる歩兵第三十三聯隊に至る御道筋に沿へる各戸にては、國旗軒燈を掲揚して敬意を表し兩側の路傍には在鄉軍人・小學校兒童・一般拜觀者整列せり。第三十三聯隊にては正門に大國旗を交叉し、將校集會所の一室を清掃して御座所に充て奉り、岡野聯隊長は將校一同を引率して正門内右側に、下士卒は曹長の指揮により將校の列後より集會所前迄に整列し迎へ奉る。かくて午前九時五十分着御、諸員の

最敬禮を受けさせられつゝ、御座所に入らせられ、渡邊師團長、黑澤旅團長等に更に拜謁を賜ひ、それより同隊附將校佐官は一人毎に、尉官及び相當官は整列の上拜謁を賜ひたる後、岡野聯隊長を御前に召されて同隊の近況を聞召され聯隊長の御案内にて第一・第二兩中隊の營舍を御覽あり、次で室内に於ける各個教練、將校以下の銃劍術を御巡覽同隊へ最近御撮影の御寫眞を下し賜ひ聯隊長へ服地を御下賜あり、午前十一時還啓仰出され名古屋へ向け御發車あらせらる。

步兵第六聯隊行啓　御歸還の途次御列の矢田橋御通過の頃より雨再び繁くなりしより漸く御召車に幌を掛けさせ給ひ、先年御立寄あらせられし六鄕尋常小學校前に同校兒童の雨中に濡れて奉迎せるを憐はし、擧手の答禮を賜ひ、赤塚町より長塀町へ折れ、地方幼年學校前を清水御門より、步兵第六聯隊へ成らせらる。時に午前十一時五十分なり。

武内聯隊長は將校一同を率ひて正門内に奉迎し、又同聯隊附梨本中佐宮には將校集會所入口にて奉迎あり、聯隊長の御案内にて直に集會所に附屬せる貴賓室に入らせられ、御晝餐を召されたる後、梨本中佐宮と御對談あり、武内聯隊長以下將校一同に拜謁仰付けられ、拜謁後武内聯隊長は御前に伺候して同聯隊の近況を言上せしに、一々御首肯あり、それより梨本中佐宮と共に下士集會所に入らせられ、中島大尉が下士に斥候に關する學科を教授するを御參觀あらせられ、次に將校の軍刀術、下士卒の銃劍術を御覽の上、第九中隊の營舍を御巡覽あらせ給ひ、同隊へ最近御撮影の御寫眞を御下賜あり、黑澤第五旅團長武内聯隊長に服地壹着宛を下し賜ひ、午後二時十分還啓仰出され、野砲兵第三聯隊へ向け御發車あらせらる。

野砲兵第三聯隊行啓　午後二時十五分野砲兵第三聯隊に成らせらる。正門内に整列せる藤室聯隊長以下將校下士卒の奉迎を受けさせられ、聯隊長の御案内にて御座所に充てたる將校集會所に入御、御少憩の上聯隊長以下各將校に拜謁仰付られ、聯隊長より言上せる同隊の近況を聞召され、聯隊長の御案内にて同隊所屬の厩舍及び砲廠を御覽あり、夫より砲廠の前に立たせ給ひ、第六中隊長土肥大尉の指揮せる野砲四門より編成の一個中隊の部隊教練を御覽あらせられ、同聯隊へ御寫眞壹葉、聯隊長へ服地壹着を御下賜遊ばされし上、午後三時十分還啓仰出され御機嫌麗はしく偕行社へ還御あらせ給ふ。

工兵第三大隊行啓　十一月十一日御豫定の如く午前八時御料馬藤園に召させられ、村木武官長・田内侍從・渡邊第三師團長其他を從へさせられ、御駐泊所

偕行社御出門、片端町通りを經て本町御門より第三師團廓内なる工兵第三大隊へ行啓あらせらる。

同隊にては森田大隊長以下將校・同相當官全部營門内に整列して奉迎し、大隊長の御先導にて將校集會所なる御休憩所に入御、暫時御休憩の後大隊長以下將校一同に拜謁仰付けられ、森田大隊長より言上せる同隊の狀況を聞召されし上、同隊へ最近御撮影の御寫眞並に大隊長へ服地の御下賜あり。夫より營庭に於て第一中隊の手榴彈投擲、第三中隊の突撃演習を御覽あり、次に第二中隊舍内を御巡視の後還啓仰出され、午前八時五十分輜重兵第三大隊へ向はせ給ふ。

輜重兵第三大隊行啓　午前九時輜重兵第三大隊に成らせられ大隈大隊長以下の奉迎を受けさせ給ひ、大隊長の御先導にて貴賓室に入御御少憩の後大隊長以下將校一同に拜謁仰付けられ大隊長より言上せる同隊の狀況を聞召され、夫より西營庭松樹の下にて約十五分間第一中隊長佐藤大尉、第二中隊長松田大尉の指揮せる梱包積載教練を臺覽あらせられ、次に第三厩舍及び第二中隊兵舍を御巡覽の上將校下士卒二十餘名の劍術を御覽あり、同隊へ最近御撮影の御寫眞一葉、大隈大隊長へ服地を御下賜相成りたる後、午前十時還啓仰

出され、御愛馬藤園に御騎乘御英姿颯爽として騎兵第三聯隊に向はせらる。

騎兵第三聯隊行啓　騎兵第三聯隊にては小崎聯隊長以下將校同相當官は營門内に、各中隊は岸本特務曹長の指揮のもとに營庭に、徒歩横隊に整列奉迎する程に着御あり、聯隊長の御先導にて御座所に充てたる將校集會所に入御同所に於て聯隊長以下將校同相當官に拜謁を賜り、聯隊長より言上せる同隊の狀況を聞召されたる後、同隊へ御寫眞一葉聯隊長へ服地一着を御下賜ありて十時三十分より中庭に於て玉村中尉の指揮する兵卒の馬術、矢野大尉の指揮する下士の馬術森田少佐の指揮する將校の馬術、玉置中尉の遊動障碍飛越を臺覽の上、第三中隊厩舍、第二中隊兵舍を御巡視あらせられ、右終て還啓仰出され午前十一時御機嫌麗はしく偕行社に還啓相成りたり。

御奉迎仰出さる　明十一日名古屋御着輦に付　皇太子嘉仁親王午後二時十分御出門名古屋停車場に於て御奉迎、引續き名古屋離宮へ御參在らせらるる可き旨仰出され、十一月十日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

三重縣下行啓日御治定　皇太子嘉仁親王來る十二日名古屋御發、三重縣下行啓、御發着割左記の通御治定相成し旨、十一月十日東宮大夫男爵村木雅美よ

り愛知縣知事深野一三宛通達あり、御發着割次の如し。

御發着割

十一月十二日

午前十時五十五分　名古屋御旅館御出門
同　十一時二十分　名古屋停車場御發車臨時汽車

御發輦に付御奉送仰出さる　明十二日名古屋御發輦に付　皇太子嘉仁親王午前六時四十分御出門、名古屋停車場に於て御奉送在らせらる可き旨仰出され、十一月十一日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

明治天皇御着輦に付御奉迎　明治天皇第十七師團管下に於ける特別大演習御統裁の爲大禮を進めさせらるゝ、御途次、十一日午後二時四十分名古屋驛御着の御豫定にて、名古屋離宮に御泊あらせらるるに付、御駐泊中の　皇太子には村木武官長以下の隨員を從へさせられ、午後二時十分偕行社御出門御料の人力車にて名古屋驛に成らせられ、貴賓室にて御少憩の上、東プラツトホームにて御父　明治天皇を御待受けあらせらる。

程もなく鳳車の徐々として構内に進み、特別出入口の正面に停車するや、飯

午後一時二十七分　津停車場御着車
御旅館安濃津倶樂部御着　御滯留

田驛長は進みて恭しく御扉を開き奉れば　天皇には龍顏最も麗はしく東プラトホームに御降車、御出迎の　東宮に御會釋を賜ひ、それより鹵簿は御順路を午後三時名古屋離宮に御着あらせ給ふ。　皇太子の御列は十五分を隔てて聖輦の御跡に引續き離宮に御參あらせられ、直に御對顏あらせられぬ。

明治天皇御發輦に付御奉送　十二日名古屋離宮御發輦、午前七時二十分名古屋驛御發車岡山縣下へ向はせらるるにつき、　皇太子には村木武官長以下を從へさせられ、午前六時三十分御料人力車に召され同驛へ行啓あらせ給ひ貴賓室にて御少憩の上、プラツトホームにて御着驛あらせられし　天皇には龍顏いよいよ麗はしくプラツトホームに進ませられ　皇太子に御會釋あり、直に鳳車に御搭乘あらせらるるや、　皇太子には靜々鳳車前に御歩を進め給ひ親しく御告別あらせ給ふ。かくて鳳車御見送りを終へさせられし後、直ちに階行社に還啓あらせらる。

三重縣下行啓　一旦偕行社へ御歸還あらせられし　皇太子には御豫定の如く午前十時五十五分再び御旅館御出門、村木武官長以下の供奉員を從へさせられ名古屋驛御着、同十一時二十分發關西線臨時列車にて三重縣下へ行啓あらせらる。

同驛構内には御先着の梨本宮を始め奉り、渡邊第三師團長・深野知事以下文武高等官・愛國婦人會員等西側プラットホームに整列して見送り奉る。尚ほ御道筋には各學校職員生徒等整列して奉送せり。

名古屋偕行社御滯留御治定　皇太子嘉仁親王明十六日午前七時津停車場御發車、龜山・四日市御立寄、午後四時三十三分名古屋停車場御着車、御旅館名古屋偕行社御着、御滯留の事に御治定あらせられし旨、村木東宮大夫より愛知縣知事宛十五日午後七時五十六分着電報を以て通達せらる。

名古屋偕行社へ還啓　御豫定の如く十六日午後四時三十三分名古屋驛着列車にて還啓あらせらる。名古屋停車場構内プラットホームには德川義親侯渡邊第三師團長・黑澤第五旅團長・西川參謀長等整列し、又待合室左側には武官右側には文官及び愛國婦人會員等整列奉迎すれば、皇太子には村木武官長と共に御降車あり、德川侯爵始め奉迎者一同に御會釋を賜はりつつ、御車寄にて待ち受け奉りし御料の人力車に召され橋本警視の御前驅にて廣小路通りを本町に折れ、片端通りより御旅館偕行社に着御あらせ給ふ。當日深野愛知縣知事は四日市迄出頭お召列車に扈從して歸名せり。

御巡覽仰出さる　皇太子嘉仁親王明十七日午前八時御旅館御出門、左記の

通、御巡覽在らせらる可旨仰出され、十六日東宮大夫男爵村木雅美より、愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

十一月十七日　木曜

午前八時　名古屋偕行社御出門
- 愛知縣廳
- 縣立高等女學校
- 同　第一中學校
- 第一師範學校
- 市立名古屋商業學校

御晝餐

午後　大曾根驛（電鐵）午後零時五十分御發
- 瀨戸驛
- 瀨戸砂防工事
- 町立瀨戸陶器學校

瀨戸驛（電鐵）
大曾根驛

還御

愛知縣廳行啓　御豫定の如く十七日午前八時偕行社御出門、橋本警視の御前驅にて村木武官長以下供奉員・高橋内務部長・東園警察部長・加藤市長等を隨へさせられ御料の人力車に召され、同八時十分愛知縣廳に成らせられ、玄關左右兩側に整列せる縣高等官の奉迎をうけさせ給ひ、直ちに階上知事室を以て充て參らせたる御座所に入御御少憩の後、德川義親侯・深野知事・藤田控訴院長・松田檢事正・深野裁判所長・高橋事務官・東園警察部長・石原内務省書記官以下有位有勳者・貴衆兩院議員・縣會正副議長・縣下各郡市長（豐橋、渥美を除く）八十餘名に拜謁仰付られ、次に左記二十六名の縣下篤行者に謁を賜ひ、村木武官長を經

て有難き御沙汰ありて後御紋章入紅白の御菓子を賜ふ。終つて深野知事より縣政要覽・尾三實測圖・尾三名勝誌・商工統計表・愛知縣統計表等を捧呈し縣治の大要を言上すれば　皇太子には商工業に關し綿密なる御下問ありて後、御座所の北方會議室に陳列せる、縣下重要物産十七種、出品者百五名、百九十四點を御覽あらせられ左記二十五名、三十七點、價格二百七十七圓五十九錢を御買上相成り、午前九時五分縣廳御出門縣立高等女學校へ成らせらる。

篤行者人名

實業奬勵	名古屋市鐵砲町	岡谷惣助	
織物改良事業	名古屋市本町	祖父江重兵衞	
同	中島郡起町	山本直右衞門	
織物製造事業	名古屋市島崎町	豊田佐吉	
綿毛布改良事業	名古屋市玉屋町	吉村富三郎	
毛織物改良事業	海東郡津島町	片岡孫三郎	
木綿絣改良事業	愛知郡愛知町	佐々成晴	
清酒醸造事業	知多郡龜崎町	伊藤七郎衛	
七寶製造事業	海東郡七寶村	林小傳治	
時計事業	名古屋市本町	林市兵衛	
水產事業	知多郡豊濱町	石黒禮吉	
同	幡豆郡幡豆村	三浦源助	
同	渥美郡高師村	吉原祐太郎	
開拓事業	名古屋市鐵砲町	神野金之助	
同	海西郡飛島村	大河内庄五郎	
園藝作物改良事業	海東郡甚目寺村	舘助左衛門	
產業改良事業	知多郡八幡村	鰐部與三郎	
教育事業	知多郡篠島村	出村鉄	
同	碧部郡刈谷町	黒田定衛	
同	八名郡山吉田村	本田清七	
公同事業	中島郡大和村	森東一郎	
同	八名郡山吉田村	鈴木傳治	

育兒事業	名古屋市矢場町	荒谷性顯	
同	豊橋市東田	青山衞天	
慈恵救濟事業	葉栗郡淺井町	森林平	
土木事業	碧海郡新川町	服部長七	

御買上品

一、大島紬絣	名古屋市	荒川合名會社	
一、嘉壽美織セル袴地	中島郡	鈴木鎌次郎	
一、すかれ御召	中島郡	清輝社	
一、毛斯大小莫三浦紫絞	名古屋市	富田臺次郎	
一、丹縮緬鹿子清海波絞	名古屋市	久野萬太郎	
一、シルケット千鳥絞工妙絞	知多郡	久田伊左衛門	
一、絹紅梅織絞シルケット絞	知多郡	竹田嘉兵衛	
一、大三浦絞杢目絞	知多郡	久田千次郎	
一、お雲絞	知多郡	山中四郎兵衛	
一、莨壺、紅茶六人具、陸海軍食器八點、花入	愛知郡	日本陶器合名會社	
一、陶磁器製造順序、磁土原料、釉藥原料	東春日井郡	加藤光太郎	
一、七寶山水書小筥	名古屋市	權田廣助	
一、紙製張貫洗朱塗蒔繪付手箱	名古屋市	黒田忠譲	
一、紙製張貫艶引塗蒔繪付手筥	同	上	
一、七寶硯箱	名古屋市	成田久助	
一、桐蒔繪吳服盆	名古屋市	黒田茂助	
一、火鉢	名古屋市	岡谷惣助	
一、黄銅菊花瓶	名古屋市	宮部鈴三郎	
一、筑羽根	名古屋市	石黒鐘次郎	
一、菓子（蒸菓子干菓子取合せ）菊羊羹	名古屋市	三輪萬助	
一、落花豆、三つの詠	名古屋市	栗本久吉	
一、燭臺	名古屋市	鈴木寅松	
一、造花電氣入櫻木鉢植	名古屋市	下澤善吉	
一、金城形箱、半數取玉	名古屋市	河村治助	
一、張子太皷	名古屋市	岩田つね	
一、特製二號ヴアイオリン、七號ヴアイオリン	名古屋市	鈴木政吉	

縣立高等女學校行啓　村木東宮武官長を始め、供奉員一同を從へ給ひ、御料の御車にて門前に整列せる生徒の奉迎を受けさせられ、午前九時十分校門に入御あり、門内の右側には同校職員列を正して奉迎し玄關には校長恭しく迎へ奉る　皇太子には是等奉迎者に對して一々御會釋を賜はり、直に階上の御座所に入らせらる。

御座所は新築校舍階上の第一應接室を充てたり。此室は建設後一度も使用せざりしものなるを今度始めて御座所となせしものにて、間口奥行共に四間床には「ソノリウム」を敷き詰めたり、此の日御用品として備へられたるは檜材にて新調せる御卓・御帽子臺及び花臺の三點なり、數双の金屏風及び廣口に松と千両を活けたる一瓶を備へ極めて壯嚴に裝飾す、御着に先たち宮内省より錦の御卓掛、並に御帽子臺覆、御差し廻しあり、御用の御卓上には黑塗御紋章付御煙草入及び銀製御灰皿を置かせらる。

鵜飼校長は深野知事を經て、學校職員名簿・教授學科目・學校概覽・拜謁者名簿を捧呈、暫くして村木東宮武官長より深野知事を經て　殿下の御寫眞御下賜あり、校長恭しく之を拜受し豫て設けたる奉安室に移し奉る。かくて校長鵜飼金三郎・教諭野田與三治郎・同長谷部愛治に拜謁を賜ひたる後、知事の御先導にて各室の御巡覽を賜はり、成績品陳列室に成らせらるるや、一々御目を留めさせられ、之は何流なるや、何學年のものなるやなど有難き御言葉さへあり、又當校編纂の尾三婦女善行錄につき深野知事より恭しく其の由來を言上に及べば一々御うなづきあらせ給ふ。斯くて裁縫科・家事・理科・体操科の御順序にて實地授業を熱心に御巡覽あらせられし上、午前九時三十五分還啓仰出され職員生徒の奉送を受けさせられ、鹵簿肅々第一中學校に向はせ給ふ。

臺覽に供せし成績品

一、尾三善行婦女肖像額面　二面
一、尾三婦女善行錄　一部
修身科（作法）　三點
國語科（作文　二點／習字　六點）
圖畫科　八點
地理科　三點
英語科　一點
裁縫科　一四點
手藝科（造花　六點／刺繍　五點／編物　五點）

尾三婦女善行錄は豫て同校に於て、明治九年以來其筋より表彰せられたる縣下の善行ある婦女壹百名の傳記を蒐集編纂せしものにて、深野知事の傳獻にて捧呈。尚知事を經て生徒成績品を御手許に差出すべき旨御沙汰あり、作文・習字・圖畫四十二名の成績を一帖に纏め獻納す。

臺覽を賜はりし教授要項

本科第四學年
技藝專修科第三學年

裁縫科　　教諭　森井貞

題目

本科第四學年　「シャツ」の袖の縫方附方肩當及身返しの附方單衣重の袖の附方
技藝專修科第三學年　附方綿入二枚重の衽の附方

教授の方法

針を点撿し、其他の器具を整頓せしめて、後左の事項を教授す。

本科第四學年　に對しては、袖は縫縮めたる袖口に、袖口袋を縫附け、袖口袋の幅を半分に折りて、端を縫ひ、表に返し、正しくなし、袖口の返りに「ミシン」を掛くべく、一分程内側に、下縫をなさしめ、既に肩當に「ミシン」を掛けたるものは、袖の山と、身頃の肩の山とを合せ、袖の袋を二分程出して、袖付の下縫をなさしむ、肩當は、身頃の脊に作りたる「ヒタ」と、肩當の幅の眞中とを合せ、身頃と肩當との衿肩を合せ、糸にて縫ひ、夫れより肩當の幅を二分程づつ折りて、前後とも正しく身頃に當て、下縫をなさしめ「ミシン」をかけしむ。

身返しは、上前は身頃の裏と、身返しの表とを合せ下前は、身頃の表と、身返しの裏とを合せ、「身返しの内側の端衿肩に揃ふ様にす」下縫をなし、「ミシン」を掛け、上前は表に下前は裏に身返しを附け、下縫をなし、其内側に「ミシン」を掛けしむ。

技藝專修科第三學年　に對しては單衣重の袖の附方は袖の幅を五厘廣くはかりて折りをつけ、上着と下着と、別々に單衣の如く附け、夫れより上着と下着とを合せて、袖附及八つ口の留をなし、袖幅をよく揃へて、八つ口を綴合さしむ、袖幅狹くして、既に八つ口を袷の如く縫置きたるものは、袷の如く、袖附を留め、後袖を附けしむ、綿入二枚重の衽の附方は、上着の表身頃の前幅をはかりて折りをつけ、衽には衽附の折りを付け、身頃と衽との裾を揃へ、衽下りの篦と、衽丈の篦とを合せ、よく引合せて、衽を附け、裾の方は、眞直に、衽の方は少し斜に、返し留をなさしむ、仝裏身頃は、前幅を裾にて一分抱にて

五厘狹くして折りをつけ、表と同様に衽を附けしめ特に裾口二三寸の間を、細かに縫はしむ。

下着の表身頃は、上着の表身頃よりも、前幅を二分狹く、抱の幅は、上着と同様にはかりて、前幅の折をつけ衽と引合す時、裾の方はよく揃へ、衽先の方は、衽下りの篦と、衽丈の篦より、一分下りたるところを合せて、上着と同様に、衽を附けしむ、仝裏身頃は、幅を裾にて一分抱にて、五厘、表よりも狹くして、上着の裏と、仝様に衽を附けしむ「衽丈は表と仝様一分つむ」。

縫了りて針を點撿せしむ、布片糸屑を拾はしむ。

本科第三學年

家事科　　教諭　佐藤きん

題目

卷軸繻帶製法

教授の方法

左の事項を標本說明圖を用ゐて教授す。

繻帶の種類

通常使用する所のものは、卷軸帶なり、此の他三角帶、丁字帶、等あり、卷軸帶に、一頭卷軸帶二頭卷軸帶の二種あり。

卷軸帶製法

一、用　布

用布は主として晒木綿を用ふ、時としては「フランネル」「ガーゼ」等を用ふることあり。

用布一反の長さは、種々異りて、一丈八尺、二丈四尺、或は三丈六尺とす。

二、截ち方

幅は指趾を卷くには、一幅を十裂より、十二裂位とし、手には七八裂頭、又は上肢等には、六裂、下肢には五裂より、四裂、軀幹には、二三裂せしものを用ふるを例とす。

一反の木綿を取りて、先づ其の兩端を去り、之を適宜の幅に裂く。

フランネル、ガーゼ、等仝幅に截裂し能はざる物なるときは、剪刀を以て截るべし。而して何れも兩端の亂糸を取り去るべし。

三、卷き方

機械卷と、手卷とあり。手卷をなすに當りては、特に緊しく、卷かんことに注意すべし。然らざれば使用上不便を感ず。

手卷法のうち、最も緊く卷きうるは細長帶の一端を緊引する裝置を向ふになし、此方より絕へず緊

引しつゝ巻きゆくにあり。

然れども、普通は、圖の如く板上にて細き軸をつくり、稍太くなりたる時、軸を右手の指、及び示指の間にはさみ、左手の示指、及び中指の間より、細長帶を繰り出し、拇指の助けによりて、巻きゆくを便とす。

二頭巻軸帶をつくるには、細長帶の兩端より、中心に向つて、巻くか、或は一頭巻帶二個をとり、其の兩端を縫合せて作ることあり。

以上説明實驗の後、生徒各自に實習せしむ。

本科第三學年

理科　教諭　上條龜之助

題目

呼吸運動

教授の方法

掛圖、及模型につきて、左の事項を教授す。

肺臟は、著しく彈力を備へ、且其全面滑澤濕潤なる胸膜を被り、同じく胸膜を以て覆はれたる胸廓裡面に密接し、兩胸膜間には、毫も空氣を存せず、故に胸腔擴大するときは、兩胸膜間の壓力、其れと共に減少し、從て肺臟に及ぼす、壓力減するを以て、外氣は肺臟内に流入す、更に胸腔狹小となるや、大氣は壓縮を蒙りて、外氣中に逃竄す、而して外氣の肺臟中に流入するものを吸息と云ひ、肺臟内より大氣を外氣中に出ずる、是を呼息と名づく、胸腔の交々相擴張狹縮するによりて、吸息、呼息、相續いて來り、一分時凡十六回に及ぶ、之を名づけて呼吸運動と云ふ。

呼吸運動、吸息時は、橫隔膜、肋骨、擧筋肋間筋の作用により、胸腔を前後左右上下に擴張し、呼吸時は、胸壁の重量、及び橫隔膜胸壁の彈力により、胸腔を狹縮す、猶呼吸の際に於ては、肺臟の彈力も、之に作用するものとす。

以上述べたる尋常呼吸の外、尚異常呼吸に屬するものあり、例之咳嗽、聲咳、噴嚔、鼾息、含嗽、啼泣、笑哂、欠伸、等之なり。

咳嗽は、深呼吸をなして、聲門閉鎖したる後、俄然強劇なる呼氣營みたる時に發し、聲咳は舌根及低下したる軟口蓋間の峽口を通じて延長呼息を營む時に發し、噴嚔は、最初反覆吸息をなしたる後、軟口蓋の作用に依て、閉鎖したる鼻腔を衝破して、俄然發氣する呼氣を以て、粘液若しくは他物の迸出するを云ひ鼾息は多く、睡眠中、呼吸空氣の弛緩垂吊したる蓋帆を顫動しつゝ、開張したる口腔に由て、呼吸する時に之を來し、騒鳴伴發す、含嗽は、舌及軟口蓋間に、深く保持したる液體間呼息空氣の水泡狀に、徐々に通過するを云ひ、啼泣は、感情に依て生ずる狹窄したる聲間に於て、短深吸息、及延長したる呼息により成り、笑哂は、或は接近し、或は離して、緊張したる聲帶を透して、迅速に繼續したる短呼息を營むに依て生じ、欠伸は、開口の際、延長したる深呼息を云ふ。

本科第三學年及本科第四學年

體操科　教諭　栗木兵治郎

題目

各個演習

教授の方法

左の各項に付練習す。

運動準備として、二歩前進、二歩後進、左轉向、及右轉向、次に下翼直立姿勢にて、足の前出、側出、及後出、擧踵左右交互なさしむ。

次に、

第一、首及胸の運動として、上翼開脚、直立姿勢にて、上體を後屈せしむ。

第二、上肢の運動として、直立姿勢にて、一臂上伸一臂前伸左右交換二度の後、臂を側伸せしむ。

第三、全身の運動(調和)として、十字形(五)直立姿勢にて臂の側開、足の後擧をなさしむ。

第四、肩及脊の運動として、直立姿勢にて、上翼屈膝足の斜後出をなさしむ。

第五、腹の運動として、直立姿勢にて、臂の側上擧及上體の後屈をなさしむ。

第六、腰の運動として、歩狀(二)捻體直立姿勢にて、一臂前擧一臂側擧、左右交互なさしむ。

第七、全身の運動(跳躍)として、直立姿勢にて、臂を付け、跳躍せしむ。

第八、下肢の運動として下翼直立姿勢にて、足の側出後出、及前出擧踵、半屈膝、左右交互になさしむ。

第九、呼吸運動として、前方伸臂直立姿勢にて臂の側開及擧踵なさしむ。

後生理的訓練的の効果に付問答の上能く練習す。

縣立第一中學校行啓　縣立高等女學校を御出發あらせられ、御順路を經て午前十時縣立第一中學校に着御あらせらる、生徒は門前に(三年級以上武裝)職員は門內に整列して畏みて迎へ奉れば一々御會釋あらせられ、玄關にて御車を停め給ひ階上なる御座所に入らせ給ふ。御少憩中御寫眞を本校に下附せられ、次に校長日比野寬・教諭安岡又三郎・同草野堅藏・同高橋斯文に謁を賜ひ、學校概覽、沿革の大要及び作文・習字・圖畫・地圖・英作文・英習字等生徒成績品を御覽あらせられし後、五年生の漢文、三年生の圖畫、一年生の英語につき生徒の學業をみそなはせられ、十時三十分還啓仰出され、職員生徒奉送の裡に第一師範學校に向はせ給ふ。臺覽に供せし生徒の成績品は更に知事を經て御駐泊所へ差出すの榮を荷ふ。

臺覽を賜はりし教授要項

第五學年

漢文科　教諭　服部富三郎

題目　王者之迹熄而詩亡詩亡然後春秋作(孟子離婁下)

教授の方法　先づ生徒に指名して之れを朗讀せしめ、次に此の文を讀むるの心得を述べ次に文義を疏釋し次に大意を通解し結ぶに餘論を以てす。

此の文を讀むの心得。凡そ外國の書を讀むには先づ彼我國體の差異を辨別せんことを要す。縱令聖賢の言たりとも、御國の國體に合はざることは決して採用すべからず。但し聖人の中にても漢土の孔子の如きは、一種の特色ありて、猥雜なる國柄に生れながら、力を極めて君臣上下の名分を主張したるは、誠に殊勝なることにて、其の趣は、論語の中にも見えたれども、尤も著しきは春秋の書とす。古人も、孔子の行は、孝經に在り、志は、春秋に在りといへる如く、孔子經世の志は、全く春秋の一書にあらはれ、其の志を推窮すれば、畢竟萬世一統の國是に歸着すべし。然れども、國體既に猥雜にして、又周末の衰世に當りたれば、僅に當時の亂臣賊子を懼れしめたるに止まり、其志す所の、十が一も、天下後世に行はれざりしは遺憾の極なり。然るに、御國の國體は、開闢以來、皇統一系にあらせられ、君臣上下の名分の一定して、動かすべからざること、磐石の如くなるは、孔子の志したる所が、孔子以前より、孔子以上に實現せられたるものといふべく。殊に維新以來は、皇德宇內に徧く、皇威海外に輝き、億兆の臣民、齊しく文明の恩澤に休浴せるは、御國に於ても、千載一遇の事たり。斯る目出度御國に生れ、斯かる目出度御代に遇ひたる我々臣民は、實に無上無比の幸福なれば、我々は、骨髓に徹し、心肝に銘して、其の德を修め。其の業を習ひ、他日成業の上は、或は軍務に、或は政治に、或は教育に、或は實業に、各々奮勉努力して、洪恩の萬一に報い奉つらざるべからず。此の文を讀むに付ても、第一此處に着眼すれば、孔子が亂國の衰世に生まれ、淚を拭ひて、氣運を挽回せんとしたる心根の憐れなるを知ると同時に、我々臣民が、外國の臣民に比して、如何計り幸福を得つつあるかを知ることを得、又孔子が不幸にして亂國の衰世に在りてすら、君臣の名分を重んじたるを思へば、我々臣民は、猶以て、此の事を、常住座臥、須臾も忘るべからざることを知るを得べし。

文義　王者之迹熄、とは天子の巡行が止みたるをいふ也。漢土は、穢惡の國柄なれども、周代の盛時は、紀綱振肅し、天子が數々諸侯の國々を巡視して、政治風俗に注意せらるることありしが、其衰ふるに及びては、巡視の事も火の消えたる如く止みたるなり。詩亡とは詩の教が其の用を失ひたるをいふ也、此に三意を含む(一)天子が諸侯の國々を巡視せらるる時には政治教育等を視察するのみならず、其の土地に行はるる歌謠を考査せらるることあり。其故は、歌は心の聲にして、心のままに言にあらはるるものなれば、治國の歌は、和きて、正しく、亂國の歌は、澁しくて　淫りなる等、其の意味より、其の音調までが、風俗其のままにあらはれて、包み匿しの出來ざ

るものなるか故に、之れを考査して、風俗の眞相を觀、其の良否によりて、慶讓の典を行はるることありしが、天子が君道を失ひて、巡視せられたるに隨ひて、其の事も全くなくなりたる也、(此の歌謠の今に傳はれるもの即ち詩經の國風也)(二)諸侯より、天子に朝聘せる時、天子爲めに慰勞の宴を朝廷に張り、樂を奏し、詩を歌はしめ、善を勸め、惡を戒められしことありしが、諸侯が臣道を失ひて、朝聘せざるにより、其の事も全くなりたる也、(此の朝廷の詩の今に傳はれるもの詩經の小雅大雅是也)(三)周の盛なる時には、天子より正しき詩を選みて、國々に頒布し、一般人民に歌はせ、以て人心を和し、風俗を正されたることありしが、此等の事も、巡視の止むと共に行はれず、たとひ行ふものありとも、世人の良心痲痺せるを以て其の効なきに至れる也、(所謂正しき詩は國風の首に載せたる二南の類也)春秋作るとは、孔子春秋を筆削するをいふ也、右の如く詩の教が、其の用を失へるに由りて、左なきだに、名分の立ちかぬる國柄が、益々亂れ、益々紛れて、申すもいまはしき亂臣賊子が、天下に横行するに至れり。孔子乃ち魯史の春秋を取りて、之れを筆削し、善惡を褒貶して、君臣上下の名分を正し、之れを小にしては當時の亂臣賊子を筆誅して、懼るる所を知らしめ、之れを大にしては其の國体を根本的に改良して、猥雜の弊風を一洗せんと企てたる也。

右畢て、之れを通解し、更に餘論として、之れを我國現今の狀況に對比し、現今我國の事々物々、彼國に優れる事實を列擧して、之を 皇室の尊嚴と、國体の鞏固とに歸本し、以て我々臣民の一意專心、忠君愛國の道を盡すべきに論及す。

第一學年

圖書科　　教諭　藤田正忠

題目　林檎及蜜柑の實物寫生

教授の方法　球形にして滑面なる林檎と、粗面にして扁圓形なる蜜柑とを机上に配置し、此の二個を如何に位置せば、色彩の美觀と、明暗の適度を得るや、各自其の位置を撰ばしめ、先づ輪廓の大略を描かしむ。然るに唯均しく二個の扁圓をなすのみ、何等形狀の變化を呈せざるを以て、蜜柑の表皮を半ば剝きて、形狀の變化をなさしめ、更に其の位置を訂し、輪廓の完成を期す。而して林檎の紅色と、橙黄色と未熟なる蜜柑の綠色と、橙黄色との對色を識別せしめ、明暗に因り、色の變化を觀察し漸次明色より暗色を描かしむ、於是物体の背景、及び水平面の配色は、物体の隱起に關せば、尤も着色を考察し、美觀ならしめんとす。此等の教材を以て、自然の色彩、明暗色の對比、及び調和を授くる練習に資せり。

第四學年

英語科　　教諭　大土井源

題目　花園中の散歩を記せる英文に就き、聞取、飜譯及び讀方を教授す。

教授の方法　左記の英文を一章づつ、聽取らしめ、先づ生徒をして、譯を試みしむ、但し未だ辭書を用ひしめざるを以て、新單語の意味は、其都度之を示す。

1. Let us walk in the garden.
2. It is a big garden.
3. There are many flowers in it.
4. Do you like flowers?
5. Yes I like flowers.
6. How sweet some flowers smell!
7. Here is a big flowers, but it has no smell.
8. That flower has a sweet smell, but it is not pretty.
9. Will you give me a flower?
10. Yes, I will give you one.

先ず(1)を始めて教師の口より聽かしめ、全生徒一齊に發音せしむ。然る後、其譯を問ふ、生徒は garden の一字を未だ知らず、之を考ふる色あり、依て之が意味を示す、(但し已に知れる生徒あるときは、之を答へしむること勿論也)然るときは、其餘は既知の單語のみなるを以て、殆ど全組生徒の擧手を求むることを得、其の中一生徒を指名して、譯せしむ、甲不可なれば乙、乙不可なれば丙に宛て、全組不可なるとき始めて教師說明す。

(2)は一度之を聞かしむれば、全組共に容易に解し得。

(3)に於ては新單語 many の意を示さば、殆ど解し得。然れども前學びし There の「彼處」と譯されしを以て、there are を直譯するが故に、斯の如き例に於ける there are は我國語の「ある」の意にして「園に多くの花があります」と譯すべきを說明す、かかるとき There are many dooks on the table. 等の應用を便宜上示すことあり、されど廣く一般の應用としては全課を了へし後とす。

(4)(5)は生徒解し得るも、flowers の s に付、質疑を起すを以て、茲に名詞の複數を說明す、(6)に於ては sweet

及 some の意を示さば、譯し得る生徒あり、既知の文章なる How past he must を暗示として、彼等の記臆より喚起せしむれば、觀念聯合容易に行はれて正當の答を得べし、(7)に於ては no の用法を知らざるを以て、先づ not a smell と パラフレーズして譯せしむれば、解し得るなり、(8)(9)(10)は舊觀念よく容易に解し得、斯くして後始めて書物を開かしめ、文字を見て、讀方を練習せしめ、今三度教師飜譯をなす。而して全生徒充分意味を解するに至り、茲に應用問題を課す。例へば(3)の應用として There is a pencil on your desk.(4)(5)の應用としては Does he like a flower? yes, he likes a flower (6)以下の應用として How sweet that flower smells! I have no book. That flower has not a smell but it is pretty. will you not give me your cap? 等を和より英に、英より和に或は問を發して答を求め、種々應用せしめ、文典上の誤謬を正す。

第一師範學校行啓　恭しく校門外に整列する職員生徒の奉迎を受けさせられ　明治天皇行幸紀念の松の綠濃やかなる玄關にて御下車、直に新築の數學教室を充てたる御座所に入御あらせ給ふ。御少憩中第二學年甲組の生徒は音樂教室に於て特に當校の作に係る　皇太子奉迎の曲を奏しぬ。

かくて當校に御寫眞を下賜せられ、校長三浦渡世平・教諭和田喜八郎・同山口清治に、拜謁仰せ付けられたる後、深野知事の御先導にて第四學年修身・第三學年教育・第四學年圖畫・第三學年乙級手工の順序にて各教室に於ける授業を御巡覽あらせられたる上還啓仰出され、午前十一時御出門名古屋商業學校に向はせらる。

臺覽に供せし成績品

國語科	作文	九	冊
	習字	七	冊
歷史地理科	京阪旅行日記	六	冊
數學科	算術練習一班	二	冊
	幾何練習一班	三	冊
物理科	物理實驗報告	一	冊
	物理器械說明用圖	一	套
博物科	博物系統表	一	套
	篠島の五日間	七	冊
圖畫科	自在圖	十	套
	用器圖	二	冊
手工科	紙細工、表裝、粘土細工、木工、竹工、金工、製作圖		
音樂科樂譜		一	套

附屬小學校之部

國語科	綴り方	五	冊
	書キ方	五	冊
圖畫科		六	冊
手工科		約十	點

御下命により成績優等なる生徒の製作品を選み御旅館に奉呈す。

當日合唱したる奉迎歌

奉迎

ベリニー曲　八木教諭作歌

萬歳、々々、々々、山邊の錦、野邊の黄金、色はえて豊けき日、かしこくも此教への庭に日嗣のみこのあもりまし、その光榮、思へば吾等のみか道の光、教の榮、祝へ〳〵豊けき民も、ア、ア、ア、萬々歳。

臺覽を賜はりし教授要項

第四學年乙級

修身科　　教諭　八木幸太郎

題目　克己說

教授の方法　左の事項を講話によりて教授し、以て克己心を起さしむ。

既に授けたる快樂說の反對に立ちて、人の欲情を禁壓し、又は之を制禦し、而して理性に從つて生活するを以て、人生の目的とするものは、克己說なり。

克己說は、古來東西洋に行はれたるものにして、西洋にて、此說の創唱者は、犬儒學派と稱せられたる古代希臘の哲學者なり、其後ストア學派と稱せられたる學派に屬したる學者も、亦殆ど之と同一の學說を唱導せり。又近世に於ける極端なる克己說の主唱者は、カント氏なり、氏は至善、即ち絶對的に圓滿なる善は、善良なる意志の外に存ずるなし、善意は唯一の至善なり。而して善意とは。合理的意志、即ち理法に服從する所の意志に他ならざるを論述せり。

東洋に於ては、孔子以前に此語ありしと雖も、孔子に至りて、明に之を主張するを見るなり。

論語顏淵第十二に曰く、

顏淵問レ仁。子曰。克レ己復レ禮爲レ仁。一日克レ己復レ禮。天下歸レ仁焉。爲レ仁由レ己。而由レ人乎哉。顏淵曰。請二問其目一。子曰。非レ禮勿レ視。非レ禮勿レ聽。非レ禮勿レ言。非レ禮非レ動。顏淵曰。回雖二不敏一。請事二斯語一矣。

實に克レ己復レ禮は、孔子の理想なる仁を遂行するの根本にして、克己復禮そのものを以て、目的としたるにあらず、克己の意味には、諸解ありと雖、普通は克を勝と說き、己は私欲と見るを可とし、而して其細目は、視聽言動を愼むにあり、されば極端なる禁欲ならずして、中和なる節欲を主張し、自己修養の機に始まり、遂に天下をして、悉く仁に歸せしめんとするを見るなり。孟子も、亦寡欲を唱へしが、宋儒に至りて、無欲說を見るなり。

而して、我日本は、儒敎の精神より行はれ、人皆克己の德を修め、畏くも、上は、後光明天皇が、克己の御工夫を勉められたるあり、尋常小學第三學年修身書に於て、之を授くることは、諸子のよく知れる所なり、吾人庶民たるもの、將た

教員たらんとするものは、奮勵して、大に私欲を制し、以て德操を磨礪せざるべからざるなり。若し夫れ、克己に對して、學理上の批判は、次回に於て之を述ぶべし。

第三學年甲組

教育科　　教諭　堀田鎰次郎

題目　教材聯絡の必要及方法

教授の方法　講話式により、左の事項を教授す。

既に教授したる教材の排列論に連接して、教授は、同時に各教科目を教授せざると共に各教科目に於ては、夫々前後相次ぎて、進まざるべからず、從て其間に親密なる聯絡を保たざる時は、被教育者をして能く教材を消化し、之を活用するに至らしめ難きことを說き、進みて、其一方案たる「チルレル」氏の中心湊合法に入り其主旨の强固なる倫理的意志の發達を企圖するにあること、其心理的根據は、ヘルハルトの觀念說に基きて、倫理的意志は、倫理的觀念結合の强固なるによりて生ずとなせること、及其教材聯絡の方法としては、最も倫理的觀念に富める宗敎史、及歷史を中心科目とし、其他の一般の教科目、凡て此中心科目に隷屬せしめ、以て最も强固なる結合を計らんとしたるものなることを教授せんとす。斯て、順次回數を重ね、同氏の開化史的段階法の主旨、根據、及方法の概要を語り、而して中心湊合法及開化史的段階法を評論し、更に他の教材聯絡に關する方法一二を說き、以て教材聯絡の方法を結了せんとす。

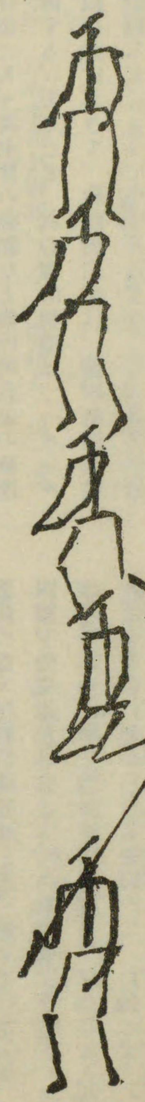
第四學年甲組

圖畫科（黑板畫）　　教諭　速水文太

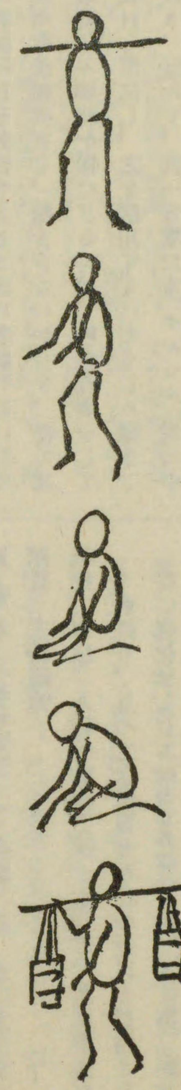
題目　人物略圖

教授の方法　人物の略畫を授くるには、基本形體により教授し、且つ之を練習せしむるを以て目的とし自在に變化せしむる練習をなさしめ、次に第二圖基本形體により、再び練習せしめ、然る後、第三圖、第四圖、の基本形體により、人物略畫法を授け、之を練習せしめ、順次進步するに從ひ、完全なる人物の略畫を自由に描かしむるを以つて、目的とす。

第一基
本形体

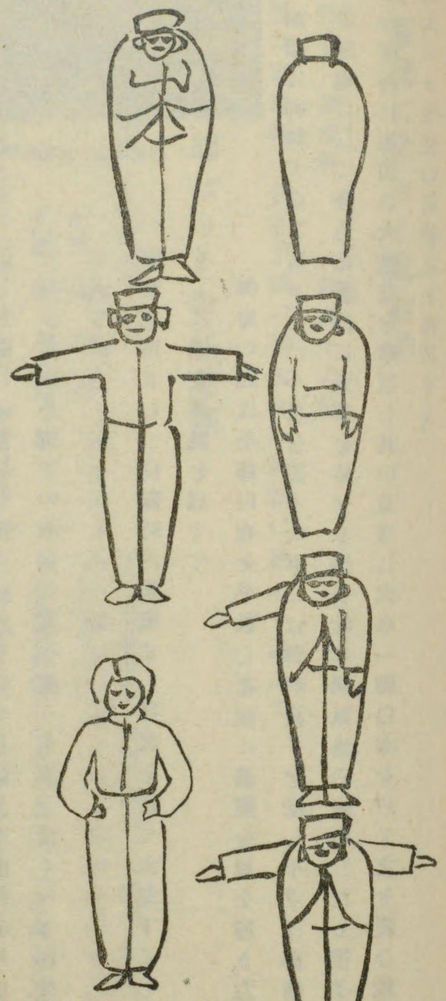


第二基
本形体



第三基
本形体

第四基
本形体



第三學年乙級

手工科（木工練習）助教諭心得　上原三郎

題目　第一部　木地器物（鉢臺）着色

第二部　工夫自由製作（繪葉書挿額縁の類）

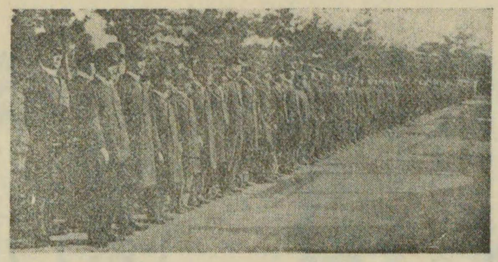
教授の方法　第一部は、下塗既に乾燥したる器物（鉢臺）を一定等色に塗らしむ、着色の後は、第二部の製作に入り、其乾燥を俟たしむ。

第二部は、生徒各自の意匠になれる工夫製作圖に準據し、九時間の豫定を以て、完製せんとする器物の實作なれば、一二部共、教師は單に机間を巡視し、個人に就き指導をなす。

なす所と同一

市立名古屋商業學校行啓　御順路、赤塚・相生・萱屋・葵の各町を經て午前十一時十五分同校に成らせらる、葵橋より同校南方正門の間に奉迎せる職員生徒の敬禮に對し一々擧手の御會釋あらせられ、講堂に設けられたる御座所に入

御、校長市邨芳樹・教諭西武雄・同山崎增二・同高橋鍵三に拜謁仰付けられたる後、御寫眞一葉を同校へ御下賜あらせられ、校長の御案内にて本科三學年の内國商業實踐科・本科二學年の商品科・本科一學年の珠算科・本科三學年の外國商業實踐科の教授の狀況、並に生徒成績品を仔細に御覽の上、再び御座所に入らせられ御晝餐を召されし後午後零時二十分同校御發同零時五十分大曾根驛發電車にて東春日井郡瀨戸町に向はせ給ふ。



名古屋市立商業學校職員生徒の奉迎

校内諸般の設備　南北兩門に大國旗を交叉し、鹵路は新に細砂を平敷し玄關には、紫幕を張り、國旗を交叉し、校舍東南部の外側は幔幕を以て掩ひ、舍内各廊下の兩側に幕を張り、玉歩を受くべき部分は悉く白布を敷き、講堂の西半部を以て御座の間に供し、其の半分を三分し一は侍從官詰所とし、一は臨時内膳職とし、殘部を以て大廊下とし、之れを區劃するに貼金屏風を以てす。

御座の間は全部白布を平敷し、北側に書簾金屏を置き、左右を無章金屏とし、南面に御料大卓を置き、右に小卓を置く、大卓には御料椅子を配し、小卓は御帽子臺とす、兩卓子は赤地錦にして金色花菱内に五彩を施せる獅子牡丹桐鳳凰の織出したる袱子を以て覆へり。御座の南西に梅菊の大生花を奉置し其の東南に大卓一脚白布を以て之を覆ひ獻上品及び臺覽に供ふべき生徒の成績品を陳列せり。

臺覽に供せし成績品

本科　豫科　速成科　　總計十六冊

内十一冊は寫眞帖一冊、商工訓一冊と共に桐箱に納めて獻上す。

臺覽を賜はりし教授要項

本科第三學年（第貳組）

内國商業實踐科　　教諭　高橋鍵三
　　教諭　寄田龍彦

第四回演習　商業實踐教室内に於て、商店、會社、銀行、等に對し、左の命令を交付し、之れに基き、各自の業務を經營せしむ。

其一、一般命令

一、書類整理。來着の書類を精査整理し、商品の註文ありたるときは、生産部より買入れ、積送の手續をなすべし。又他店より約束手形、爲替手形、小切手類の送附ありたる時は、手形は割引をなし、小切手は、其の儘銀行へ預け入るべし。其の他、照會を受けたる事項は、適宜回答をなすべし。

二、相場問合。電信にて、各地の相場を問合すべし。

三、商品註文。各地商店（二ヶ所以上）へ、商品の註文をなすべし。

右貨物到着したるときは、一は直ちに需要部に販賣し、他は一時倉庫會社に寄託入庫し、預證券を以て需要者に求むべし。

四、荷爲替附積送品。便宜の商店へ、第二回積送品を發送すべし。

但商品に、生産部より買入れ、一ヶ月後拂の約束手形を以て支拂ひ、商品は、汽船、又は鐵道便にて積送るべし。

右に對し、取引銀行に於て、荷爲替を取組み、日附後、三十日拂の爲替手形を發行し、手形金は、當座預金となすべし。

五、雜費支拂。營業稅、給料、家賃、其の他消耗品、

等の代價支拂をなすべし。

六、帳簿記入、本日中の事項を營業日誌に記載し、且諸取引を遺漏なく、帳簿に記入すべし。

其二、特別命令

一、生產部。各商店より商品買入れの註文ありたるときは、相場表により、代金及び諸掛りを計算し、仕切書を認め、商品を改め、荷造を完全にし、各商店に引渡すべし。

二、需要部。商品買入れの申込ありたる時は、時の相場に依り、代價を算出し、勘定書を製し、代金は現金又は小切手を以て支拂ふべし。

三、監督部。各商店會社より規定の營業稅、給料、家賃、及び消耗品の代價を取立つべし。

營業稅に對しては、納稅告知書、其の他に對し、受取書を發すべし。

四、東京銀行。各得意先より、手形、割引の申込ありたる時は、能く手形の性質を考へ、適當と認めたるとき、銀行割引法に依り、日數を計算し、割引をなすべし。

當座預金ありたるときは、夫々關係帳簿、及び通帳に記入し、通帳は、直ちに得意先へ返戻すべし。又荷爲替の申込ありたるときは、荷爲替申込書、及び荷爲替副證書を差出さしめ、適當と認めたるときは、原價八掛けの荷爲替を取組べし。右に付、爲替手形船積なれば、船荷證書、鐵道便なれば、貨物引換證、保險證券、等必要なる書類を受取り。日數を計算して、割引料を引去り、殘金は、申込書の當座預金とすべし。勿論右必要書類は、荷受地の支店又は取引銀行に宛て、直に郵送すべし。

五、名古屋銀行、及び東京銀行、門司支店、兩店の取引手續は、東京銀行と同樣。

六、保險會社。各商店よりの申込書に依り、保險料を算出し、保險證書を調製して、申込者に渡すべし。

七、倉庫會社。寄託申込書に依り、倉敷料を算出し、預證券、質入證券を製し、申込者に渡すべし。

八、汽船會社。出荷申込書に依り、運賃を算出し、船荷證書を製し、申込者に渡すべし。貨物を迅速に輸送すること、例の如し。

九、鐵道院。貨物運送狀に依り、運賃を計算し、貨物引換證を調製し、迅速に貨物を輸送すべし。

十、郵電局。電信は、賴信紙に依り、送達紙を製し、受信人へ送附し、郵便は、定時に配達すべし。

十一、稅關。各商店よりの輸出入申告書により、免狀を製し、輸出入貨物引取の手續をなさしめ、若し有稅品なれば、告知書を製して、規定の稅金を取立つべし。

十二、商店。各事務の分擔に依り、各商店へ註文をなすべし。貨物到着せば、倉庫會社に預入をなすべし、積送品は、荷爲替を附すべきを以て、取引銀行に至り、荷爲替申込書、及び副證書を調製し、汽船會社、又は鐵道院より、船荷證書、又は貨物引換證を保險會社より、保險證券を受取り、之れを銀行に持參し、重役と申合せの上、爲替金額を定め、日附後、三十日拂の爲替手形を發し、右書類と共に、銀行に引渡し、手取金は當座預金となすべし。

本科第二學年（第一組）

商品科　　敎授囑託　石川文治郎

題目　尾濃產陶磁器の種類、及集散の狀況。

準備　本時間講述の材料として、所要の商品見本拾數種を机上に整理す。

黑板に陶磁器集散の圖解を記す、講說の要領、左の如し。

我が邦に於ける陶磁器の產出は、廣く各地に亘り、尾濃を中心とし、西は京都、加賀、淡路、備前、伊萬里、薩摩、東は橫濱、東京、會津、等、特に有名なり。而して其の製品は、各地孰れも特色を有し、美術品に、裝飾品に、乃至日用品に、其の種類頗る多く、隨て產額亦決して尠少ならざるなり。就中、最も廣く各地に需用せられ、賣行きの大多數を占むるものは、尾濃地方の製品にして、殊に歐米向輸出品は、殆んど全く尾濃の產出に係るが故に、說明の順序として、先づ尾濃產陶磁器より始むべし。

尾濃に產出する陶磁器は、之れを細別すれば、其の種類極めて多きも、先づ大別して、內地向、及び外國向の二種となすことを得べし。而して內地向のものは、則ち諸子の日常使用する所にして、其の形狀、模樣、等は、既に實地目擊せるを以て、今は外國向のものを主とし、內地向のものを從として、講述せんとす。

元來陶磁器の製造に使用する原料は、種々あるも、茲に示すものは、即ち瀨戶產磁器の原料にして、之れを適宜に配合し、以て種々の形狀を造り、窯に入れて燒き上げを爲すなり。茲に在るものは、即ち其の燒上げ品にして、歐米輸出向のものなり。就中 Cup & Saucer. は、最も普通賣行き好き品にして、貿易品の大立物と

す。而して書付に、西洋書付と、日本書付とあり。特にHand paintedは、外人の賞讃する所のものなり。然れども、本磁器の缺點は、品質の脆弱なるに在りて、兎角實用に適せずとは、既に一般の認知する所なるを以て、近來硬質陶器製造を企圖する者、漸く多きに至れり。即ち茲に示すものは、外國の硬質陶器を模造したる內地製品なり。比の如く堅固なるものを製するに至りたるは、斯業上に於ける一大進歩なりといへども、其の海外に輸出するものは、僅々一二製造者が、試賣的に輸出するに過ぎずして、多くは內地に於て、西洋食器用として販賣するに止まり、輸出品としては、依然從來の製品を輸出せり。蓋し價格の廉なると、意匠の異なるが爲めなりといふ。（以上一々見本を示して講述す）

是より輸出貿易に就き、其の集散の狀況を圖解に依りて說明せん、（黑板に記したる圖解に依る）

名古屋は、陶磁器の一大集散市場にして、茲に集まるものは、即ち瀨戶、及多治見地方の產出品とす。斯くして、一旦名古屋に集まりたるもの、更に輸出港、神戶、四日市、及び橫濱、等を經て、海外に輸出せらる。而して輸出先の主要なるものは、北米合衆國にして、

明治四十二年の輸出總額五百貳拾五萬圓の內、貳百八拾九萬圓は、米國行きなるが故に、米國市場の景氣如何により、我邦特に尾濃陶磁器業者に及ぼす影響の多大なることを知らざるべからず。

是れより、朝鮮、淸國、等東洋向陶磁器の說明に進むべきか、尙此の他注意すべき輸出先は、佛蘭西、伊太利、和蘭、丁抹、蘭領印度、佛領印度、露領亞細亞、及埃及、等の諸國なりとす。

本科第一學年（第一組）

珠算科　教諭心得　渡邊德兵衞

本日課すべき練習の種類

書取珠算法、加法、及加減法の速算、暗算、乘除法、並に書取暗算法。

一、書取珠算法

別表第一號表の數を讀み上げ、生徒をして用紙に、之を筆記せしめ、獨算にて迅速合計せしむ、

二、珠算加法

別表第一號表の數を尺度斗量として讀上げ、生徒をして運算せしむ。

三、珠算加減法

別表第二號表の數を讀み上げ、運算せしむ。

四、珠算乘除法

金八千七百五拾六圓七拾四錢八厘を三萬六千八百七十五にて除し、次に其の商へ教師指定の數を乘せしむ。

五、暗算乘法

金九千貳百五拾圓へ五十六を乘せよ。

金八千參百七拾圓へ三十三を乘せよ。

六、暗算除法

金四百八圓貳拾錢を六十五にて除せよ。

七、書取暗算法

別表第三號表の數を讀み上げ、生徒をして用紙に之れを筆記せしめ暗算にて迅速に合計せしむ。

八、以上の諸練習終りたるときは右に類似の問題を課し練習せしむ。

（表は略す）

本科第三學年（第一組）

外國商業實踐科　教諭　山崎增二

屬　エラスタス、スペンサー、ベル

北亞米利加合衆國紐育へ麥稈眞田を輸出する取引の續きにして橫濱貿易會社より紐育東洋貿易會社へ宛たる手紙の練習。

教授の方法　別紙記載の手紙を生徒に書取らしめ更に一生徒をして之れを朗讀せしめ他の一生徒をして之れを黑板に書取らしめ衆生徒は之れに據りて相互に誤字を訂正するものとす。

Via San Francisco.

No. 6.

THE YOKOHAMA TRADING CO. PER S. S. "Nippon maru."

Yokohama. Kobe No 999 YAMASHITACHO.

Shanghae.

CABLE ADDRESS: "Yokotrad" A. 1. CODE USED.

Yokohama, Japan, Sept. 9, 1906.

The Oriental Trading Co,

112 Front Street.

New York, U. S. A.

Sentlemen.

We take the leberty of sending to your address under separate cover, a line of samples of strow Praid made in Japan, and we enclose here-with, Price-List No. 5 of the braid by pc, of 60 yds. f. o. b. yokohama in Japanese Yen, on which we have marked special code words for your use in case you favor us with your valuable orders, which we earnestly solicit.

The rate of freight from Yokohama to New York on Straw Braid via Pacific coast Ports and overland by rail, is now quoted at 200 per 100 lbs; time en route about 35 days; and vcastuez Canal, the rate is now 2416 a ton of 40 cubic feet; time en route about 70 days,

Marine Insurance to New Tork via overland is 5/8 %, and via Suez Canal, 3/4 %; both subject to a discount of 15 & 10 %,

Terms:—Draft at 4 mas, sight for ant, of Invoice against documents, To-day's outward to the Sold Yen.

The O. T. Co. 9—9—' 06. 2.

We could ship 100 to 200 Cases within 60 days, if the order were received before November Ist, and we hape that you with find the samples and prices suitable to your market.

Tromising to give your orders our best attention, and awaiting your commands,

We are. Sentlemen,

Yours res pectfully,

The Yokohama Trading Co,

By Student

砂防工事臺覽　大曾根驛より瀬戸電車に御搭乘遊ばされたる　皇太子には午後一時四十分、二十一發の烟火を合圖に瀬戸驛御着、驛前に迎へ奉りたる郡長山田正を始めとし、瀬戸町長郡内小學校職員兒童、其他に御會釋を賜ひ、直に御料人力車に召され、南新街道に出で、同二時砂防工事御覽の爲め新に設けられたる東茨なる萩の茶屋の麓にて御下車、竿田技師の御先導にて數町の曲折凹凸せる山路を意とし給はず御沓を運ばせられ、丘上なる御野立所萩の茶屋に着御、深野知事砂防工事の模樣を詳細に說明し奉れば、御機嫌いと麗はしく種々御下問あり、約三十分間四方御展望在らせられたる後、再び御車に召され陶器學校に向はせ給ふ。

臺覽所阯　瀬戸市大字瀬戸字東茨二千九百十一番地、通稱萩の茶屋と稱する所にして、行啓の當時細やかなる建物建てられしも今は無し、一本の赤松を植ゑ、其の側に西向方五寸二分、高四尺七寸の石柱を建て左の文字を刻す。

皇太子殿下臺覽記念松

（裏面）

明治四十三年十一月十七日

瀬戸町立陶器學校行啓　瀬戸砂防工事御覽の後、午後二時五十分同校に着御、生徒職員の奉迎を受けさせられ、直に新校舍内の御座所に入御、御休憩中御寫眞御下賜あり、夫れより三橋事務官及び校長塚田政雄の御先導にて轆轤科へ交へ給ふ。次いで陳列室に入らせられ生徒成績品十一點を御買上げあり當模型科・陶畫科の實習を御巡覽、種々御下問あり、御機嫌殊に麗はしく笑語をさ町及び當校よりも左記の五點を獻納し御嘉納あらせらる。かくて午後二時五十五分同校御退出、午後三時電車に御搭乘、諸員奉送裡に御機嫌麗はしく名古屋へ向け御出發あらせらる。

臺覽に供したる成績品

製品之部

磁器花瓶	九個	
磁器一輪生	十三個	
磁器掛花瓶	一個	
彫刻物	十一個	
磁器茶壺	二個	
陶器蓋物	三個	
陶器角形小皿	十個	
陶器角形蓋物	三個	
陶器小丼	五個	
陶器コップ	十二個	

臺覽に供したる瀨戸陶磁器目錄

陶器之部

高麗狗	仁治年間	加藤景正製作
黃瀨戸燒抹茶碗	文永年間	加藤基通製作
破風手茶入	建武年間	加藤政連製作
黃瀨戸釉抹茶碗	永祿年間	加藤政長製作
志野釉抹茶碗	文明年間	

古瀨戸釉葉茶壺	慶長年間	加藤春宗製作
瀨戸黑釉抹茶碗	元和年間	加藤基村製作
織部釉扇面形皿	萬治年間	加藤春久製作

磁器之部

染付山水畫水指	享和年間	加藤民吉製作
染付雲鶴畫八角花臺	文化年間	同人製作

陶器花瓶	一個	
陶器一輪生	一個	
陶器香爐	二個	
陶器茶碗	一個	

繪具之部

軸物	七本	
折木	二冊	
額面	二枚	

圖案之部

軸物	三本	
卷物	一本	

染付山水畫重箱　同　年間　加藤忠治製作
染付茶飲碗　文政年間　加藤五助製作
青磁獅子置物　同　年間　加藤閑陸製作
染付祥瑞畫水指　天保年間　川本治兵衛製作
染付祥瑞畫銘茶壺　同　年間　山本平助製作
染付丸龍畫丼　弘化年間　川本桝吉製作

御買上成績品

花活（尺五牡丹模様）
花活（尺五百合花模様）
花活（尺五藤に燕模様）
花活（尺五三笠山模様）
　此代金六拾五圓拾錢也

獻上品

大名行列玩具　三組　瀨戸町獻品
水盤（尺八楕圓形）　三揃壹組　瀨戸町獻品
花瓶（尺二松、水模様）　壹組　同　上

明治四十三年十一月愛知縣下行啓

猿置物		
狆置物		
文珠置物		
麥酒呑（十二揃水草模様）		

明治年間製作品

青織部釉香爐	外二十三點	加藤春二製作
現時製作品		
染付鷹畫尺五花瓶	外四十三點	加藤斧吉製作

皿（尺五山水畫）		
植木鉢（尺六角形花鳥模様）		
一輪立（五寸葡萄色）		

牛置物（尺　吳須）	壹個	陶器學校獻品
花瓶（佛手柑彫刻染付）	壹個	同　上

臺覽を賜はりし教授要項

第三、二學年合併陶畫科
實習教授法

助教諭　森　景
助手　井上廣吉

目的　下繪付　但呉須を使用するもの
教授の方法
（三年）　一尺五寸太口鈴杵形素燒の花瓶に秋景山水及八寸同形の花瓶に雪中の武者の圖を練習せしむ。
（二年）　七寸鐵鉢形の素燒菓子器に一葉の圖、薄に雁及結梗の模様を練習せしむ。
以上練習なさしむる際教師生徒間を巡視し批評訂正す。

第三、二、一學年合併模型科
實習教授案

助手　加藤初太郎

目的　（三年）　人物、及獸類の置物、擬物式の蓋物
（二年）　人物の置物の押型
（一年）　薄肉彫
教授の方法
（三年）　九寸魚藍觀音、一尺の洋犬六寸の達摩の置物及五寸の南瓜の蓋物を製作せしむ。
（二年）　六寸達摩の置物の製作及猪兎の玩具の押型をなさしむ。
（一年）　六寸丸形薄肉板に富士山の景を彫刻せしむ。
以上練習をなさしむる際教師生徒間を巡視し批評訂正す。

第三、二、一學年合併轆轤科
實習教授案

助手　加藤德次郎

目的　（三年）　花瓶
（二年）　輪立及茶器
（一年）　食器
教授の方法
（三年）　八寸太口瓶子形の花瓶の水引及七寸同形の花瓶の仕上をなさしむ。
（二年）　五寸細口壺形の輪立の水引及二寸六分の煎茶碗の仕上をなさしむ。

（一年）　三寸七分の奈良茶碗の水引及四寸丸形の皿の仕上をなさしむ。

以上練習をなさしむる際教師生徒間を巡視して批評訂正をなす。

私立明倫中學校行啓　橋本警視の御前驅にて村木東宮武官長以下供奉員を從へさせ給ひ、御料人力車に召され門前に整列せる職員生徒の奉迎を受けさせられ、午後四時十五分同校へ臺臨あらせ給ふ。校主侯爵徳川義親・校長森本清藏恭しく玄關へ迎へ奉りて御先導、御座所に充てたる講堂に案内し奉る御着座御少憩の後、直に教授を御覽あらせらる。最初に臺覽に供せしは第四學年歷史科なり、皇太子先づ御入室あらせ給ひ、校主後に續く、他の供奉員は廊下に佇立せり。御入室と同時に教師は教壇を下り生徒は同時に机側に起立して斜に　皇太子に對し奉り、謹んで最敬禮を行ひ、終りて教授を續行す。教材は西洋史中歐州中央集權の發達時代に於ける百年戰爭なり。　皇太子は或は黑板に御注目あらせられ、或は生徒學習の一擧一動に御注目あらせ給ひ、畏くも御意に叶ひ奉りたるが如し。かくて暫にして御帽を以て輕く校主を催かし給ひて御退室あらせらる。此時教師及び生徒は御入室と同樣に最敬禮を行ふ次は第一學年英語科なり、これは會話を主とし室は人員稍々多く加ふるに冬の日の四時過の曇天なれば、何となく陰鬱なる

教室なりしにも拘はらず、暫くは教師生徒問答の有様を御覽あらせられこれまた御意に叶ひ奉りたるが如し。これより最後の理科教室御覽あらせらる、教材は物理科蜃氣樓の實驗なり、水を透して點したる蠟燭の倒に水中に寫る有様には暫く御目を惹き奉りぬ。

授業の臺覽終るや、再び御座所に入御あり、生徒成績品御覽の後還啓仰出されれ、午後四時三十五分御出門、同四時五十分御機嫌麗はしく偕行社へ還啓遊ばされたり。

附記 (一)殿下各府縣御行啓勘からじと雖も、全國中未だ私立中學は臺臨あらせ給ひし前例なかりしも、校主並に校長より知事東宮職を經て赤誠を披瀝して臺臨の請願をなせり。殿下には十七日午前八時御旅館御出門前に於て畏くも同校へ行啓仰出され、全國に於て前例なき私立中學臺臨の光榮を得ることとなりたるなり。

(二)殿下臺臨の日には各學校共、學校の略沿革及臺覽教授案を東宮職に差出す例なるが、仄かに承る所によれば忝くも　殿下は還啓の御途次、鶴駕中にて此等文書御披閲あらせ給ひ、教授案が本縣のものは何れも大要に過ぎたるを見そなはし給ひけん、御還啓の後、深野知事御禮の爲め東宮御所に參內せし時、教授案は教師が生徒に教授する實際を記したものなれば今少しく詳細なるべき筈なるに、概してあまり簡略なりとの御錠あり、知事は　殿下が斯くまで學校に御留意あらせ給ふかと恐懼せられ、直に其の趣を縣廳に電報あり、縣廳よりは各學校に移報し、前に捧呈せる教授案を改めて稍々詳密なるものとして差出したり、然して此の書類臺覽に入りし頃と思ぼしき頃　殿下が大御心を我が明倫中學校に寄せ給ふ一事あり。

殿下は特に明倫中學校の事を　天皇陛下に奏上せん爲め書類等、自然天覽に供すべきに就き萬一の過誤なからんことを思召し給ひ校主侯爵を御前に御召しの御錠を給はりしことあり、校主此の時御病氣にて參內し得ざりしかば、更に　殿下は東宮職をして前に改めて縣廳の手を經て捧呈せし書類を一應御返付あり天覽に供すべきものなるを以て、念の上にも念を入れて誤りなきを期せよとの御錠なり。(愛知教育雜誌二百九十號)

臺覽を賜はりし教授要項

第五學年

物理科　擔任教諭　森　鑄太郎

題目　光の曲進　蜃氣樓

實驗裝置。長一尺五寸、幅一尺、高八寸許の硝子製箱に清水深さ三寸許を入れ、其靜定するを待ち、ごむ管により、脚を長く繼ぎたる漏斗管にて、濃厚なる食鹽水を靜に清水の下に注加し、(ごむ管の部分を抑へ空氣の泡に侵入して、液の攪亂せざる樣注意しつつ)全深さをして、約六七寸に達せしむ、斯くしたるものを、二時間許、靜置し、兩液の境界面附近が、擴散に由り、漸次に濃度を異にする液層たるに至らしむ。

教授の方法　光が光學的疎躰より、光學的密躰に入るときは、或は反對に、密躰より疎躰に入るとき、其方向を變ずること、並に光線の屈折の法則を復習し、次に左の諸項につき問答しつつ、教授す。

第一、我國にては、越中魚津地方の海邊にて、往々目擊すと稱せらるる蜃氣樓は、海面の溫度低く、從つて之に接する空氣の密度、大に、上方に至るに從ひ、漸次密度を減ずるが如き狀態にあるとき、船舶島嶼等より出づる光線、斜に此層を通過し、漸次屈曲して生ずるものなり。

第二、熱帶砂漠地方に出現するもの、又往々滿洲にても目擊すと稱せらるるものは、前者に反し、地

面の温度高く、之に接する空氣疎に、上方に至るに從ひ密なる狀態にあるとき、現はるるものなり。

第三、其出現の狀態は、第一の場合には、空中に倒立、或は直立の物像を生じ、第二の場合に於ては、恰も水面に映じたるが如き、倒立せる物像を生ずるなり。之を要するに、蜃氣樓と稱するものは、密度の次第に異なれる空氣が、層々相重り、此間を斜なる方向に光線の通過するとき生ずるものなり。

第四、前記實驗裝置に由り、食鹽水と清水との境界面は、其初は明に區劃を存ずるも、擴散に由りて、密度の次第に異なる液層を生ずることを說き、此兩液層間を光線の斜行するとき、蜃氣樓と同樣の現象を生ずることを述べ、實驗裝置の前、數尺の處に燭火を置き、其現象を目擊せしめ、又圖に描きて之を示す。

第五、次に右液層間を光線の進行する模樣を說明す、即光線が密躰により、疎躰に進むときは、漸次に屈折角が、入躰角より大なるが如き方向に屈折し、入躰角が一定の値に達すれば、全反射をなし、更に光は疎より密に進み、屈折角は、入射角より小となり、遂に眼に達し、光源と異なる方向に、其像を生ずることを理解せしむ。

第六、光の液中を通過するや、其屈折の多きもの、最も屈折の少きもの等により、漸次生ずる像の位置を異にし、或は倒立、或は直立の像を生じ、一般に三個の像を生ずること。

第一學年

英語科　　教諭　原田忠誨

題目　時間の話

教授の要項　黑板上に時間を異にする時計四個を畫き教科書中に就きて、時間に關する會話を主として、發音を正確に簡易なる方法を授け、時間を表はす、名詞、代名詞、名詞、働詞に伴ふ前置詞、等及 Do you see? When……? What……? 等の疑問文、の用法の活用を目的とし以て、聞き方と、言ひ方の練習をなさしむ、其會話の問答、左の如し。

問　How many clocks are there?

答　There are four cloks.

問　Do you see the face of the clock?

答　Yes, I see the face of the clock.

問　Do you see the hands of the clock?

答　Yes, I see them.

問　How many hands are there?

答　There are two hands.

問　Can you tell time?

答　Yes, I can.

問　What time is it now?

答　It is just nine.

問　What time is it now?

答　It is a quarter past eight.

問　What time is it now?

答　It is ten minutes to ten.

問　What do you get up?

答　I get up at six.

問　When does your school begin?

答　My school begins at seven.

問　When do you start for school?

答　I start for school at seven.

問　When do you came home from school?

答　I came hom from school at there.

第四學年

歷史科（西洋）　　教諭　有永眞人

題目　國家主義發生時代の各國中央集權

教授の要領及方法　左の事項を問答を交へたる講演を以て教授す（教具として百年役當時の關係地圖及中世時代封建武士の裝束を示したる繪書二面を用ゆ）

前提

羅馬法王及神聖羅馬皇帝が、理想とせし世界統一主義は、中世末に至りて、全く衰頽し、各國には、國家主義次第に發達し、中央集權行はれ、封建制度破壞せられたり。これやがて、近世の光輝ある歷史を現出する所以なり。

第一、百年の役（一三三九—一四五三）

遠因—英王 Honry II の時に於て plantagenet 家の領地は佛の大半に及びしが其の後の佛王 Philip II. の時英の領土は大に侵略を受け爾來英佛の爭は根絶することむく佛王 Louis IX. philif IV の時に及びても爭亂絶えず或は和し或は戰す。

近因—a. 佛の王位繼承問題—一三二八年佛の capet 家斷絶し一族 valois 家の sphilip VI 立つや英王Edward III. は己の母が佛國出（教科書中の系圖參照）なるを口實とし佛の王位を要求す、（この時佛には相續令ありて女系の王を禁じたりしが英王は此の法は佛國の民法にして王室に適用すべきものにあらず自分は女系に依りて Philip VI. よりも血緣近きを以て佛王位相續の權は無論自分に在り

と主張せり、然も佛にては早く既に此の法を王室にも適用しありたり）これ全く英國が佛國に向て權力を爭ふ口實と云ふべし。

b. 經濟上の爭—當時英國の東部には最良の羊毛を產し主として之を今の白耳義地方なる Elanders の諸市（Zent, Briigge等）に輸出して利を得しが佛は英とこの經濟上の爭に失敗し、爲めに佛王は此等諸市をも奪はんとす、されば英のこれを妨げんとするは自然のことにしてこれより兩國經濟上の衝突を來し實業家相嫉視するに至れり。

發端—佛は Flanders 伯を籠絡し其の後援を以て伯をして領內諸市の特權を奪ひ專制君主政を布かんとせしかば市民之に服せず一三三八年一揆を起し伯を放逐せり。

茲に於て佛王と英王、とは其名譽と利害の關係上各々一方を助けて相戰ふこととなりたり、これ實に一三三九年より一四五三年に至る所謂百年の役（Hundred year war）なり。

戰爭—(1) Crecy の戰—英王 Edward III は一三四六年黑太子と共に兵を率ゐて佛の Normandy に上陸し Parsi に向て進軍し其の近傍まで進みしが不利なるを覩て俄に北方に向ふ（略圖を黑板上に現はしつつ說明す、以下同じ）佛王 Philip 精兵を放ちて之を追擊し英王一たび、危地に立ちしが、其の Crecy の好位置を占領するや、攻城砲を野戰に應用して大勝を得次で兵を遣て calais 港の圍ましめ遂に之をも陷したり。

(2) Poitiere の戰—佛にては Philip VI. 病殆し其の子、Tohn II 位を嗣ぎしが一三五六年英の黑太子は兵を率ゐて中部國を蹂躙し、却て一旦は危かりしも Poitiere の一戰にて大勝利を得佛兵を殺すこと萬餘佛王 Tohn 及數多の貴族を虜にして振旅す、爲めに Bretigny の講和ありたり、即英王は佛王を還付し、佛王位の要求を棄て之が代償として。

1. Aquitania 全部を英に割讓し、同時に其封建的義務を除くこと。
2. 償金若干（參百萬 Ens—我が壹千八百萬圓）を英に支拂ふこと。

斯くて佛は此の償金を支拂ひて Tohn 王の歸國を許するることを得たり。（以下次の時間に接す）

東宮侍從御差遣 東宮侍從本多正復を御使として、十七日午後一時三十五分名古屋驛發列車にて縣下海東郡津島町なる縣立第三中學校、及び片岡毛織物工場へ御差遣あらせ給ふ。

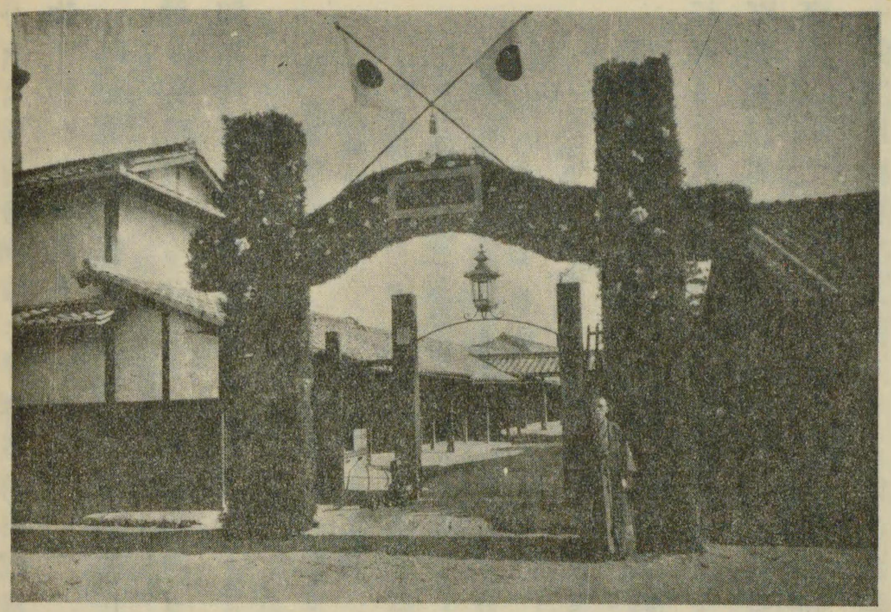
御巡覽仰出さる 皇太子嘉仁親王、明十八日午前八時御旅館御出門左記の通り御巡覽在らせらるべき旨仰出され、十七日東宮大夫村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

十一月十八日

午前八時　名古屋偕行社御出門
愛知物產組
名古屋高等工業學校
縣立工業學校
第八高等學校
縣立第五中學校

熱田神宮御參拜
宮廳（御晝餐）
縣立醫學專門學校
日本陶器會社
中村公園
名古屋停車場　御着
還御

愛知物產組行啓 十八日午前八時二十五分御駐泊所御出門、御料の人力車に召させられ、御疲勞の御氣色もなく沿道拜觀者の敬禮を受けさせ給ひ、久屋町より駿河町を經て高岳町なる合資會社愛知物產組に成らせられ、御座所に充てられたる同所書院十疊の間に御少憩の後、深野本縣知事の御案內にて第一館工場に於て工女八十八名の絹綿交織、新東館工場に於て羽二重紋織の實



行啓當時の愛知物産組

況を御巡覽の上、中庭菊花壇盆栽陳列の間を御通過、八時四十五分職員奉送裡に同所御出發名古屋高等工業學校に向はせらる。

名古屋高等工業學校行啓　愛知物産組を出でさせられたる　皇太子には午前九時十分同校へ行啓、校長以下職員生徒の奉迎を受けさせられ、學校長の御先導にて階上便殿に入御、御休憩中校長より拜謁者名簿・學校概覽・職員名簿・講義學科目及び其の要項に關する書類を捧呈し次いで校長土井助三郎・教授大久保忠敬・同岩岡保作・同吉町太郎一同鈴木禎次・同荒川郁藏・同花澤浮州同室賀德次郎・同北澤忠男・同井伊谷春平・同山中又三郎・同大串榮太郎・同伊藤禮一に謁を賜はり、畏くも御眞影を御下賜あらせられ、それより便殿に陳列せる同校生徒成績品・鐵橋設計製圖・蒸汽機關設計圖・紳士住宅設計圖、大幅タオル・セル二種・木綿紋紗織・モール織・木綿ヅック寫眞織二種・ラップット織・天鵞絨・木綿繻子・羽織裏地・窓掛地・日覆仕上・擬麻仕上木綿繻子仕上五種を御覽、製作上に關し種々御下問あり、校長一々奉答、畢つて校長御先導、本館内各教室より順次左記の通り理化學教室・機織・色染・兩科教室・工場・機械科教室・工場等洽ねく校内を御巡覽あらせらる。御巡覽中校長より本校創立以來の概況、在學生徒及び卒業生就職の狀況等に就き言上す。

臺覽要項

臺覽順次	學科及學年	臺覽要項	
		項目	概要
幾何學製圖室	土木科第一學年	幾何畫	交錯体ニ關スル投影畫
建築科三年製圖室	建築科第三學年	製圖	歐風紳士住宅設計製圖外ニ各種建築參考圖畫ヲ陳列セリ
同一、二年製圖室	建築科第一學年	製圖	アンサード小屋組製圖外ニ第一、二、三回卒業生卒業製圖及一二三年生製圖ヲ陳列シタリ
第一教室	建築科第二學年	建築史講義	擔任教官々職氏名
			建築史ニ就キ古代羅馬建築諸遺蹟ノ中羅馬浴場建築
			助教授　松浦松二郎
			囑託　中村藤一郎
			同　平塚鎗吉
			教授　鈴木禎次

建築科標本室	標本	建築装飾用石膏模型類・煉瓦・瓦・石材・木材等建築材料標本・セメント及其原料・建築装飾用金物類標本其他壁紙	助教授	佃　忠藏
土木科 三年製圖室	土木科第三學年 製圖	水力電氣水路工事設計製圖 外ニ獨逸クレフエルド停車場上屋寫眞圖・同國伯林ゲリナウ間鐵道線路擴張工事圖・壕國ノース拱橋・加奈太クエベック橋墜落光景圖・伯林市内鐵筋混凝土工事光景圖・獨逸キール乾船渠締切戸明細圖・獨國ケーニツヒカノル橋・壕國ムール橋・獨國ハンブルヒ可動橋圖面・大坂毛馬閘門工事・甲州産桂川發電水路工事・長良川架橋工事寫眞・卒業生製圖ヲ陳列セリ・	教授	北澤忠男
第三教室	土木科第二學年 橋梁講義	鈑桁橋ニ就キ 一、純經間ト支間トノ關係。 二、鐵道橋ニ於ケル開放式床盤ノ構造。 (イ)　枕木ノ配置並ニ取付。 (ロ)　脫線ニ對スル防禦裝置。 三、鈑桁ノ間隔。 (イ)　人道橋。　(ロ)　國有鐵道ノ新規定。 (ハ)　私設及輕便鐵道。　(ニ)　廣軌鐵道。 ニ關スル講義。	教授	古竹太郎一
土木科機械室	各種測量機械	トランシット・レベル・コムパス・フオトセオドライト・カレントメーター等測量機械	教授	室賀德次郎
土木科標本室	土木科各種標本	乾船渠・橋梁・暗渠・轉車臺・可動堰・砂防工事・沈床工事・聯動機等土木標本。	教授	大串榮太郎
定性分析室	色染科第一學年 化學分析	第三類鐵ニ關スル定性分析	教授	伊藤禮一
機織科教官室	機織 色染科參考品	機織科・外國織物標本・ゴブラン織匹敷・風通タオル等標本類並ニ組紐糸測長器・絲節測定器・綿糸番手檢定品・糸類強弱試驗器・等各種參考試驗機械類。色染科內外染物標本各種・人造絹糸並ニ比色計各種・糸強弱試驗器等標本及器械類	講師	柴田才一郎
試染室	色染科第二學年 試染實習	毛織物・木綿・絹布等各色試染	囑託員	木村德壽
浸染室	色染科第三學年 浸染實習	ズツク地浸染・乾燥・糊付ニ關スル實習	助教授	中岡益雄
染織仕上室	機械科第三學年 織物仕上實習	セル地巾出・洗滌・光澤出及剪毛ニ關スル實習	外國教師	マツクラーレン
捺染室	色染科第三學年 捺染實習	木綿更紗捺染	教授 囑託員	山中又三郎 高須滋

手織力織室	機械科第一學年 實習	手織・絲繰・綟糸巻ニ關スル實習	助教授	太田勤治
同	同　科第二學年 同	手織及力織實習	同	木暮謙三郎
同	同　科第三學年 同	力織實習		
木型室	機械科第二學年 木型實習	井戸唧筒・調車・萬力・鑄造ニ要スル木型製作ニ關シ旋盤及鉋作業實習	教授	大久保忠敬
材料試驗室	同　第三學年 材料强弱試驗	姫小松三寸角材ヲ試驗材料トシ之ガ撓折ニ關スル試驗	教授	井伊谷春平
鐵工室	機械科第三學年 鑄物實習	鑄鐵ノ溶解實習・風窓・軸受メタル・調車鑄造實習及鎔解爐鑄型製作	教授	大久保忠敬
機械科製圖室	機械科第一學年 製圖	木工旋盤ノ一部製圖 外ニ製作順序ノ概要及製作者ノ注意如何ニ依リ製品ニ及ス影響ヲ顯ハサン爲メ製圖器械トシテ「ユニヴアーサル・ドラクチングマシン」ヲ製作用工具トシテ「インサイド・マイクロメーターゲージ」「カリパーゲージ」「ストレートエッヂ」ヲ製作用材料トシテ、鋼鐵・軟鐵等ノ標本ヲ、製作品トシテ齒車ノ粗細各種比較標本ヲ陳列シタリ	教授	大久保忠敬
機械仕上室 同 機械仕上實習	上	定盤・軸受メタル・ヴアルヴ・段車仕上ニ關シ平削・シエーパー・スロツチンクボーリング及旋盤作業實習 外ニカツチングロール・トリル等主トシテ又物標本ヲ陳列シタリ	教授	岩岡保作
鍛工室	機械科第二學年 鍛工實習	スコヤ・丸バス・火作作業實習	教授	岩岡保作
機關室	蒸汽機關 瓦斯機關 機關操縱		助教授 講師	松浦松二郎 佐藤秀也

以上御巡覽畢つて、午前十時十分御機嫌麗はしく愛知縣立工業學校へ行啓あらせ給ふ。

臺覽を賜はりし學科目及講義概要

土木科第二學年

橋梁　　教授　吉町太郎一

題目　廣軌鐵道に於ける鈑桁橋の床盤構造の內脫線防禦裝置

教授の方法　解說圖に依りて左の事項を教授す

廣軌鐵道の開放式床盤にありては軌條の外側幷に內側に導輪材を配置す外側に用ゆるものは多く木材にして枕木數本毎に「ボールト」を以て緊結す之に依りて枕木の兩端を結束すると同時に萬一車輪脫線して枕木の一端に逸出するときは之を挫折するの恐あるが故に更に護輪材をして之を阻止せしむるものとす然れども若し軌道の兩側に步道を設くる場合には護輪材を略することを得

內側に配置する護輪材は軌條、角鐵若くは丁字形鐵材より成る而して軌線と護輪材との間隔の多少に依りて之を二種に區別す即ち本軌條に極めて接近せしむるものを護輪軌條と云ひ三吋乃至五吋程の間隔を存じて配置するものを導輪軌條と云ふ前者は豫め脫線を防備するものにして後者は脫線後の車輪の餘勢を殺き之を阻止するにありて其目的外側に配置するものと相同じ之を以て前者は脫線を豫防するの利あるが如しと雖も其間隔極めて狹隔なるが故に石片若くは其他固体の陷入せるときは爲に車体の動搖を來し護輪の目的を達せざるのみか却りて脫線を促すの恐なしとせずされば前者は必ずしも後者に勝るものと見做すことを得ず之を以て現に獨逸帝國國有鐵道にては護輪軌條を用ゆるに反し同國布魯士州州有鐵道にては導輪軌條を用ゐ亞米利加にありては又多く後者を採りつゝあり。

右講述の後解說圖に就きては米國鐵道、獨逸帝國國有鐵道、布魯士州州有鐵道墺地利國有鐵道に於ける構造規定に關して說明す。

建築科第二學年

建築歷史　　教授　鈴木禎次

題目　歐州建築歷史の中古羅馬建築の諸古跡說明の例として大浴場建築（Thermae Roman Bath）

教授の方法　口授筆記法にして寫眞、圖面、描畫及模型を以て說明を補助す。

教授の目的　大浴場建築は羅馬人の特質たる考案の大規模たる事、娛樂の公衆的なる事、勇敢なる武人的遊戲を好むと同時に音樂美術の趣味を有せる事羅馬全盛期に於ける市民の豪奢を代表し即ち建築が能く其の時代に於ける社會の狀態人心の傾向を現はす者なる事を說明し又其建築方法の特異にして千七百年前の太古に有りて甚だ進步せる建築法を了解せし事を述べ更に建築美術の好模範として美的觀念の發達せる內容と外觀とを備へ其溫水法水道築造法等に於ても亦完備せる方法を用ゐたる事を說明するにあり

說明の概要　羅馬建築諸古蹟の內浴場建築は甚だ興味ある研究物にして此の浴場は其名浴場なんとも單に沐浴を目的と爲すにあらずして此の大建築中に集會し一の俱樂部の如く公衆的の遊樂を爲すに用ゐられ市民は相集りて共に談話し論說を闘はし音樂を奏し文學者は其作を公開し政治家は時事を談ずるの所たり又羅馬人の特性たる勇壯なる運動遊戲を爲す可き競技場にして建築の結構雄大を極め此の建築を造營するに使役せられたる勞工、建築材料の無數なる事は如何に羅馬人が此の時代に於て世界の富を吸收し無數の捕虜勞工を有せし乎即ち全盛期に於ける羅馬の絕大なる勢力を知る事を得可し。

建築の內部は貴重なる材料を以て裝飾を施し其結構の美現代を凌駕する者あり今日歐州諸國の博物館を飾る羅馬古代彫刻肖像は此等浴場建築內部の裝飾として用ゐたる者多きを見て羅馬市民豪奢を極めたるを知る可く又美術的工技の卓絕せし事を見るを得べし之れ建築が其の時代文明の程度を示し又人心趣味の向ふ所其社會の狀態を代表する者と稱さるゝ所以なりとす。

浴場建築は羅馬の帝政時代に入りて大規模の建築を爲さるゝに至り諸皇帝爭ふて大建築を爲し其建築的趣味を滿足すると同時に市民一般に自由に此の建築に入りて相樂むの特權を許し以て市民の歡心を買はんとせり。

浴場建築は普通

一、沐浴部　一、遊戲部　一、集會部　一、戶外遊戲部

に分類すべく而して沐浴場は主として三種より成る即ち第一は溫氣室（チユビダリヤム Tepidarium）第二溫水槽場（カルダリヤム Caldarium）第三冷水槽場（フ

リヂタグヤム(Frigidarium)とす。

其沐浴法は先づ溫氣室に入りて悠々休息し次に溫水槽に入りて沐浴游泳を爲し終に冷水槽中に游泳を樂しむにあり猶此の部には數多の小浴室を備へ普通の洗浴を爲すに供せり。

遊戯部は諸種の遊戯設備を施し種々の球技舞踏を爲す所たり。

集會部は一般の集會場にして又詩人墨客の會合に供し或は音樂場を有す。

戸外遊戯構造部はなる廣大なる庭園にして競走場、玉拋塲鬪劍塲相撲場等を有す。

建築の構造は彼の羅馬特有の火山灰コンクリート及煉瓦石を以て築造し最大なる室は其高さ百尺コンクリートヴオールト構造に依りて半球形の天井を造れり其構造法の最進歩せる例としては青銅を以て掩へる丁字形の鐵梁を造り恰も今日丁字形鐵梁を用ゆる如くコンクリート中に使用したるが如し。

内部の壁は色彩美しきマーブル板を以て飾り種々の額板裝飾又は模樣を作り床はモザイックと稱しマーブルの小片を集めて諸種の圖案を作れり現今の伊太利國有名なるモザイック(Mosaic)裝飾は實に早く已に此の時代に於て用ゐられたるものなり。

溫水法は甚進歩せる方法にして水槽の周圍は空虛ある煉瓦石を以て築造し床下に於て燃料を燃し其熱を壁中に送り煉瓦石を溫めて以て水槽中の水を熱せしめたり其構造詳細部甚進歩したる者にして今日諸工業の發達せる時代に於て猶驚嘆に價する所なり。

水道築造に巧みなりしは驚く可き所にして羅馬市は良水に乏しきが故に遠く數哩を去る地方より煉瓦又は石造の架空溝又は池中渠を造り完全なる水道工事を爲し以て市中の用水噴水等に供給せしが浴場に要する無量の水も亦此の水道に依りて給水せられ浴場附近に大規模の貯水場を有せり。

現今浴場古蹟中の有名なる者は「カラカラ」皇帝の築造せる者にして(紀元二百十二年頃)其建築は大破し僅に舊跡を存するものなれども猶壁の一部は高く天空に聳へ其大体を想像するに足る此の浴場の全地積は三百六十ヤード四方にして建築自身の積は巾七百五十尺(二町餘)奥行三百八十尺にして即ち七千五百坪を有す溫水槽の廣さ百七十尺及八十二尺高さ百〇八尺を算す以て其結構の宏大なるを知るに足るべし。

デオクンチヤン(Diocletian)皇帝の浴場蹟も亦有名にして現代羅馬市中央大道路の交叉点の圓形の廣場は即ち此の大浴場の溫水槽にして冷水槽の一部は補修して寺院の建築を爲せり。

此の他現今の羅馬市の地下には諸種の考證に依りて數多の大浴場蹟の埋沒せるものありと信ぜらる。

縣立工業學校行啓　隣接名古屋高等工業學校を御退出、午前十時十五分同校に御着あらせらる。職員一同庭前に奉迎し校長御案内深野知事御先導にて便殿に入らせられ御少憩の後、校長より學校概覽を捧呈し、御寫眞を下賜せらる。次に校長柴田才一郎・教諭齋藤吉廣・同小室信三・同松岡音吉に便殿に於て拜賜仰付けられ、終つて生徒成績品陳列室臺覽、次に齋藤教諭の色染法早川教諭の機織法、小室教諭の特別圖案法、大崎教諭の圖案實習等の各教授を御巡覽、同十時三十分御退出、第八高等學校へ向はせらる。

臺覽に供したる成績品

轉寫石版刷	書キ友禪	染糸	織物分解表	紋タオル
色刷石版	豫科生習字	織物チヨツキ地	織物設計表	紋織テーブル掛
アートタイプ	中形染	寫眞織	繻子	
砂目石版刷	黑中形	紋絽	半セル	
寫眞石版刷	更紗染紋染	琥珀帶	絽綿交織	
アートタイプ及色刷石版	裏地染	洋服地	ホゴシ織	

臺覽を賜はりし教授要項

色染科第一學年

色染法　　教諭　齋藤吉廣

題目　鹽基性色素の各纖維に對する性質

教授の方法　教授の方法鹽基性色素は一般に色素鹽と鹽酸との化合物なり今「マゼンタ」なる一種の鹽基紅色色素を取り貝水溶液中に「アンモニヤ」を加ふれば色素中の酸を中和して無色の色素鹽基を生じ無色溶液となる更に鹽酸を加ふれば再び有色の鹽基性色素に復し紅色溶液となること且鹽酸の代りにたんにん酸を用ふるも亦同樣に紅色となり而かも沈澱することを實驗したる後更に「マゼンタ」の無色溶液中に絹及木綿の二纖維を浸せば絹は漸次紅色を帶ぶるも木綿は着色せざることを實驗して是が理由を質す斯くして絹の纖維中にはタンニン酸に類する一種の鹽酸基を含み是が「マゼンタ」中の色素鹽基と化合して纖維中に有色鹽の沈澱を生ずるが爲め直接に着色するも木綿には酸を含まざるが故に着色せざるが故に着色せざることを說明す次に如何にせば鹽基性素にて木綿を染め得べきやう質問し木綿には豫めタンニン酸の如き酸を纖維に吸收せしむるを要すること並にたんにん酸は水に溶解し且つタンニン酸と色素との化合により生ずる沈澱物は多少水に溶解し特にタンニン酸の過剩なるときは溶解し易きが故にタンニン酸を不溶解性のものに爲さざるべからざる所以を說き斯くして木綿を染むるには豫めタンニン酸を吸收せしめたる後更にアンチモン化合物等の水溶液に浸して不溶解性のタンニン酸アンチモン類を纖維上に固着せしむること即ちタンニン煤染を施したる後染むるを要することを授く次に「マゼンタ」の水液溶中に絹及タンニン酸煤染を施せる木綿を浸して兩纖維共能く染着する理由を質問し色素鹽基と鹽酸との化合力よりも色素鹽基と絹の中に含む一種の酸若くは木綿中に含むタンニン酸との化合力が大なる爲め染着し鹽酸は染液中に殘留することを說明し實地に絹及木綿を染むるには「アンモニヤを加へ」色素鹽基と爲さずして染むるものなることを說明す。

以上の理により絹及木綿の如き動物纖維は鹽基性色素に直接に染め得れども木綿及麻類の如き植物纖維は一般にタンニン煤染を施さざれば染むること能はざる所以を會得せしむ。

機織科第二學年

機織法　　教諭　早川熊藏

題目　一種の經糸と七種の緯糸とよりなる組織

教授の方法　七種の經糸の緯糸に與ふべき七種の組織と之によりて完全なる意匠圖と此組織によりて製織せる織物の橫斷面とを板書し之によりて左の事項を教授す。

一種の經糸に七種の緯糸を以て製織するは其織物の厚さ及强力を增さんが爲めの目的にして外套地の如き防寒の目的を以て厚き織物を得んとするが如き場合に應用するものにして其の組織は織物によりて種々あり今說明せんとするもの其一例なり。

既に前にも述べたる如く七種の緯に與ふべき組織は能く重り合ふべき必要あり今表に第一圖の如き一七の綾を與ふるとせば其次に與ふべき組織を(2)(3)(4)(5)(6)(7)とす即(7)は裏面より眺むる時は表面と同じく一七の綾となるなり。

今之によりて完全なる意匠圖を作れば(8)の如し即各組織は八枚綾にして七種の綾を用ひたるを以て完全意匠圖の緯糸數は8×7＝56經糸數は八本なり即完全意匠圖の第一緯を(1)の第一緯とし(2)の第一緯を(8)の第二緯とし(3)の第一緯を(8)の第三緯とし(4)の第一緯を(8)の第四緯とし(3)の第一緯を(8)の第五緯とし(6)の第一緯を(8)の第六緯(8)の第一緯を(8)の第七緯とし(1)の第二緯を(8)の第八緯とし(2)の第二緯を(8)の第九緯とす斯の如くして第五十六緯に至るものにて完全意匠圖を作り得たるなり果して此七種の緯糸は重り合や否やヽヽを附したる部の橫斷面を示さんとす即ち○は橫斷面を表はし線は七種の緯糸を表はしたるなり圖につき見るに1、2、3、4、5等七種の緯糸は凡て重り得るなり。（圖は略す）

圖案科第三學年

特別圖案法　　教諭　小室信藏

題目　意匠資料審美標號の一種凱旋標號

教授の方法　黑板上の圖書及各生に頒與したる印刷したる圖により教授す。

由來及材料　希臘の國風として遁走せる敵の戰場に委棄せる武器を收集して之を高く樹幹に懸けて戰捷を祝したりき戰捷即凱旋の際に得たる此等の武器は遂に裝飾に用ゐらるるに至れり羅馬人は亦圓柱金字塔

及此等は同樣なる建築物の形にして石材又は青銅にて造りたる美術的なる凱旋紀念物を建立設定したり此時代より以後此凱旋紀念標號は軍事上又は戰勝と關係ある多くのも例今の造兵廠陸海軍省要塞兵舍及武器等を裝飾するに用ひたるのみならず又更に現時に至る引き續き城塞の建物町役場及墳墓の裝飾にもルネサンス時代のインターシアス(嵌木の一種)にも織物にも氈類の唐草模樣にも組入して用ひられ戰時用の武器を以て排置の優美なる集合圖として純然たる裝飾の目的に用ゐられたるその建築に應用せらるるものは多く漆喰を以て陰記狀に造られたり此凱旋標號は戰時用の武器と大樣同して狩獵用の武器を以てすることあり又海軍用のものを以てすることあり。

以上の如くなれば元來戰利品を用ゐるを以て本義としたるものなれども軍事關係以外のものにも用ゐるに至りては其範圍を脫したるものと云ふべし然れども世俗の常事なるは今日に於ては亦忍容すべきものなるべし。

以上述べたる武器の外圖形を優美に緩和せんが爲に補助として索繩布帛等を用ふ。

表出の形式此種の集合圖は均齊狀と手衝狀との何れを問はざれども左右の平均を有するものなるべきは勿論にして其表出法は審美標號の構圖と異なること尤其形式の種類は圖によりて彼是比較して知るべし。

其例

1—6金屬製鉢の彫刻模樣ルネサンス時代。
7—8時計嵌板の裝飾佛國ルネサンス時代ルイ十三世紀。
9—10扉の兜小板オツトハインリツヒ城ハイデルベルグジャウマンルネサンス。
1嵌板ガレアゾバンドノ墓ネープルスイタリヤルネサンス。
2嵌板の一部イタリヤルネサンス。
3奏樂堂の嵌板ドルドトヒト、ドイツルネサンス、マーグレープ(獨逸古代の領主)の紀念物のベテシタル、ジヤマニルネサンス。
54—6嵌板　巴里。
7紀念物圖案の一部ヤーチエハーデナフオーゼ作應用我國古來の武器にして凱旋標號に用ひ得べきもの左の如し。

刀劍類各種の太刀(衞府太刀、野太刀、鞘卷太刀、蒔繪螺鈿太刀、兵庫鎖の太刀等)短刀、長刀、槍、鉾等鞘を拔きたるもの鞘を容れたるもの、
弓矢類各種の弓(白木弓、重藤弓、三處藤弓、村重藤弓等)征矢鏑矢箙鞆胡簶。
甲冑兜、袖胴腹卷、小手、脇楯、楯上げ脛當、額面等、旗類。
極類城櫓模型

（圖は略す）
圖案科第二學年
圖案實習　　教諭　大崎茂木
題目　草花寫生及二方連續圖案實習
教授の要項　適宜の草花を撰擇して寫生せしめ其草花を資料として上下の二方或は左右の二方に循環して連續する模樣を圖案法の教授に於て教へたる形式により友禪圖按皿の模樣額緣模樣等に應用する圖案を實習せしむ。

第八高等學校行啓

愛知縣立工業學校の御巡覽を終らせられたる後當年新開の郡道を北より南へと御料の人力車を運ばせたまふ。坂梨警視前驅を奉じ、村木大夫以下供奉員此後に從ふ。午前十時四十分、生徒職員の奉迎に對してかしこくも御會釋を賜ひつつ御車寄に着御、校長先導し奉りて西階段を經て西三番教室の御座所に入らせらる、侍從武官これに侍す。大夫以下供奉員は西二番の控室に、愛知縣知事以下隨員は階下の控室に入る。御座所にてしばらく御休憩あらせらるる間に御寫眞を下賜せられ、大夫より校長に下げ渡さる、校長御受けして今井教授に授け豫定に從つてやがて御座所にて校長大島義脩に謁を賜ふ。御座所は平素普通教室に使へ

る二十坪の一室なり從つて何の裝飾もなく、かねて大清潔法を行ひ、床面には白布を敷き詰め、新しき純白の窓覆をかけ金屏風二雙をめぐらし、その中央程よきところに御卓子・御椅子を備へ、右側に御帽子臺を据え、一隅に松の盆栽を置く。皇太子には陸軍の軍服に菊花章ただ一つを佩びさせ給ひ、小豆色キツド革の御手套、黒キツド革の御靴を穿かせられ、御卓子を前に御直立あらせらる。御卓子の上には東宮職持參の御菅笠・蓑盆あり、校長御前に進み出て恭しく最敬禮を行へば鄭重なる御會釋を賜ふ。一旦退出して拜謁者名簿・職員名簿・學校概覽・沿革大要・授業要目を取り揃へ、再び御前に進みて捧呈すれば御手づから取らせられて御卓子の上に置かせらる。終つて校長は次室に退き後の命を待つ。

程なく御座所を出でさせられ、校長の御先導にて中六番の室に歩を運ばせられ、左記高等官一同に謁を賜ふ。

教授	柏木好三郎	教授	石倉小三郎
教授	丸山　環	教授	山縣愷介
教授	伊藤彙一	教授	原　弘毅
教授	中村健一郎	生徒監	中野　靜
教授	櫻井政隆	教授	山内二郎
教授	赤井直吉	教授	橋本捨次郎
教授	芝田徹心	教授	今井貞臣

教授	中川芳太郎	教授	岫　道元
教授	岡部次郎	教授	藤塚　鄰
教授	伊川洗藏	教授	今澤行雄

皇太子には室の中央まで進ませ給ひ、一同の最敬禮を受けさせられ、莊重に御答禮を賜ふ。大夫と校長とは室内の一隅に侍せり、同校にては高等官の人數多く、ひとり〳〵謁を賜はる御煩勞を憚りて特に此の如く願ひしなり。それより直に左の順序にて授業を臺覽あらせらる。

中五番の教室にて、松本講師第三部一年に漢文を授く、孟子公孫丑上篇、人皆有不忍人之心の章にて、恰も一人の生徒の起立して句讀しつゝあるところなり き、一節の終るや講師と生徒との間に問答あり、三人ばかり同樣に進行し一段を終りて講師の講說にうつる。中四番にては中村教授ガライスの法學通論を教科書として第一部三年に法學通論を授く、全部獨逸語にて講義し時々生徒との間に問答を交換す、題目は法律適用論なり。東一番にては江口教授第二部の二年に物理を授く、共鳴に關する一般の現象を說明し終つて、振子の共振れと共振れに伴ふエネルギーの移動を實驗に示して居る所なり。次にウヰルバーフオースの實驗を行ふ、此の兩實驗の裝置はいづれも校内の工場にて製作したるものなり。それより音叉共鳴の實驗にかかりしとき、次へと御先導參ら

す。各教室とも極めて熱心に御覽あらせられ時々御下問あり、授業を妨げぬやうにとの臺慮なる低き御聲にて靜かに仰せらる。大夫は教室内まで隨從し、その以外の者は皆室外に控へたり、授業臺覽の時間は通じて約十五分なりき。御日程の御都合にて右の三教室を御覽の上、東階段を御降りあらせられ、北へ製圖室に入らせらる。此の室には左記の生徒成績品・器械標本等を陳列しあり、器械標本については校長より說明し奉れば、かれこれと御眼をとめさせ給ひ種々御下問あり、生徒成績品は御旅館に差出すべきやう大夫を經て御沙汰あらせらる。

ここを終らせられて中央廊下を北へ体操場に出でさせ給ひ教練を御覽あらせらる、御野立の所は假にテントを張り、中に御卓子と御椅子を設く。皇太子には御椅子にも倚らせられず御起立のままなり、生徒は各部學年混成の二箇中隊に編成し、第一中隊は稻垣講師、第二中隊は森講師の指揮の下に、体操場の北部に中隊縱隊に整列し、御出場と見るや一整に着劍捧銃の禮を行ひ直に教練に移る。ここにても臺覽の間に何かと御下問あり、十分餘り御身動きもなく御覽あらせられたる後教練終る。再び兩中隊が着劍捧銃の禮を行ふ間にもとの廊下を南へ直に玄關に出でさせられ、坂梨警視の御前驅にて御車は

靜かに門外に出づ。校長以下職員は北を上席に東面して門内にて奉送し、生徒の奉送隊は東へ道路に沿うて整列最敬禮を行ふ。時に午前十一時二十分なり

臺覽に供したる生徒成績品及器械標本

生徒成績品

一、英語作文　英語法科、英語文科第三年（第一部甲類及乙類）
一、獨語作文　醫科第二年（第三部）
一、國語作文　英語法科第一年（第一部甲類）
一、圖　書　工科第三年（第二部甲類）

器械標本

一、物　理
1 長サノ測定兼目盛器械
2 標準メートル
3 ゲーテ式直空ポンプ
4 低溫度寒暖計、高溫度寒暖計、標準寒暖計
5 デュアー氏二重瓶
6 大形寫影裝置
7 標準電橋
8 液体電氣抵抗測定裝置

一、化　學
1 元素標本
2 アルカリ金屬標本
3 講義實驗用サーモスコープ

一、動　物
1 イセエビ、アサヒガニ、マンジウガニ
2 サンゴノ一種（深海産）
3 ヤケザメ卵囊
4 ネコザメノ卵囊
5 シビレエビ
6 眞珠貝
7 眞珠の幼時（西川式標本）
8 夜光虫（西川式標本）
9 クラゲノ幼虫（エフアーイラ）（西川式標本）
10 イカノ幼時（西川式標本）
11 アヲウミガメ（卵ト幼龜）
12 コジキノボウ

一、植　物
1　大根（原色保存浸製標本）
2　ナンバンギセル（汚物寄生植物）
3　コモウセンゴケ（食虫植物）
4　タヌキモ（食虫植物）
5　ホンゴウサウ（死物寄生植物）
6　テングサ（特ニ偉大ナル種）
7　プレパラート製法順序
8　化石（文珠介及燕介）

一、地質鑛物
1　十勝石（一名黑曜石）　鳳來寺産
　信濃國和田峠産
　豊後國姫島村産
　十勝國十勝川産
　木曾御嶽産
　信濃國淺間山産
2　蛋白石　岩代國河沼郡屋敷産

臺覽を賜はりし教授要項

法學通論　獨法科第三學年（第一部丙類）
教授　中村健一郎

題目　法律適用論
教科書　ガライス法學通論

一、圖書器械
1　製圖器械
2　オルドハム氏聯軸裝置
2　反轉裝置
4　反動裝置
5　調整機
6　汽笛縱斷面
7　齒車反轉裝置

一、測量器械
1　轉鏡儀
2　水準器
3　Y水準器
4　短肥水準器
5　三稜鏡入水準
6　六分儀
7　回轉測面器
8　極測面器

教授方法　獨逸語を用ひ教師詳說し傍生徒に對し問答を爲す。

教授要目　法律適用論。

Ⅰ　事實の確定

Ⅱ　法文の內容及効力範圍
1　有權的解釋
2　學理的解釋
a　文理解釋
b　論理解釋
c　歷史的解釋

物理　工科第二學年（第二部甲類）　教授　江口元太郎

題目　共鳴

教授の順序
一、共鳴に關する一般現象の說明。
二、振子の共振及共振に伴ひ「エネルギー」の轉移を說明する實驗。
三、「ウヰルバーフォース」の實驗即ち周期同じき直線振動と回轉振動との共振。
四、同調音叉の共鳴異調音叉の唸りと其互に共鳴せざる實驗。
五、音叉の振動と其共鳴箱。
六、「メルデ」の實驗即ち電磁石を以て自動的に振動する音叉と長さ及張力を調節せる弦の共鳴振動。
七、「クント」の實驗即ち硝子棒の縱振動と管內空氣の共鳴。
八、結論。

漢文　醫科第一年（第三部）　講師　松本亦一

題目　孟子公孫丑上篇、人皆有不忍之心の章。

教授の順序
一、生徒をして句讀せしめ章句の解釋に就き二、三の問答をなす。
二、本文に係り講說す。

体操

第一中隊
工　英語法科第二年（第一部甲類及乙類）
　英語文科第二年（第二部甲類）
　理農科第二年（第二部乙類）
工　科第一年（第二部甲類）

右指揮者　稱垣善太郎

中隊密集教練
中隊縱隊の直行進。
中隊縱隊より併立縱隊の行進。
行進間併立縱隊の左方向變換。
併立縱隊より中隊縱隊の直行進。

行進間中隊縱隊の左方向變換。
停止間中隊縱隊の左方向變換。
中隊より左へ橫隊。

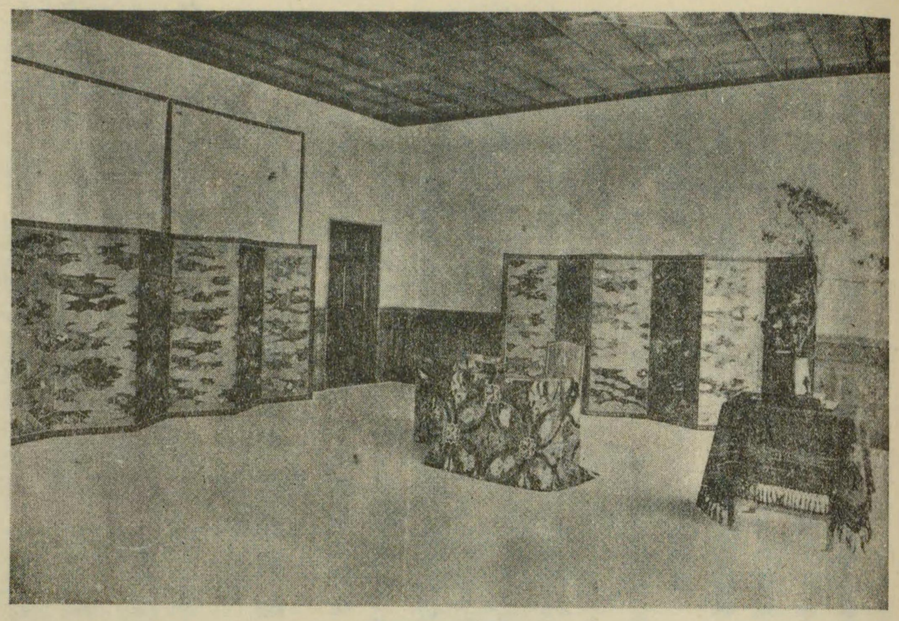
第二中隊
- 英語法科第三年（第一部甲類及乙類）
- 英語文科第三年（第二部甲類）
- 工科第三年（第二部乙類）
- 理農科第三年（第二部乙類）
- 醫科第二年（第三部）

右指揮者　森　信齋

イ、中隊密集訓練
中隊縱隊の直行。
行進間中隊縱隊の小角度左方向變換。
停止間中隊縱隊より橫隊に開き砲兵に對し立射。
橫隊より中隊縱隊に移り右轉回背面行進。
行進間小角度の左方向變換。
右轉回停止。
ロ、中隊散開教練
距離七百米突の高地に現れたる散兵（假想）に對し第一、第二小隊散開各個射擊。
前進停止各個射擊。
第三小隊伍間の增加。
追擊射擊。
集　合。

縣立第五中學校行啓　午前十一時三十分、白砂を敷きつめたる坦途御車の軋おごそかに御着あらせたまふ。生徒は門前に、職員は門内に各御通路の左側に整列し最敬禮を以て迎へ奉れば、始終御會釋をたまふぞかしこき、大塚校長の御案内、深野知事の御先導にて直に便殿に入御あらせらる。

同校は本館講堂の工いまだ成らざれば、便殿は職員室を以て之に充つ。窓掛卓子など一切を新にし、一面白布を以て床上を覆ふ。御座は室の東部に設けて西面とし前に御卓を置き、右に御帽子置の御卓を据え、立てめぐらしつる四雙



縣立第五中學御座所

の屏風、内二雙は金無地の赫奕として目も眩く、一は金地源氏繪にて畏くも九重の大奥をしのび奉るべく一は抱一の筆金地に極彩色もて四季の花鳥を描けるものなり。御座の左方に松に椿をあしらひたる一基の生花を裝置し、又室の南窓に沿うて白木の卓二脚を連ねこれに生徒の成績品を陳列す。

御少憩後、校長は學校概覽を捧呈す。やがて御寫眞を下賜せられ、校長大塚末雄、教諭山本耕造、同浦瀬七太郎に謁を賜ひ、それより成績品の臺覽あり、校長より一々說明し奉ればいと熱心に御聽取あらせらる。次に校長御案内知事御先導にて第二學

年甲組の歴史科・第三學年甲組の代數科・第四學年甲組の博物科の各教授を御巡覽の上、午前十一時五十分還啓仰出され、職員生徒は行啓の時と同例にて恭しく奉送すれば御車の列肅々として大喜新道より西の方熱田神宮に向はせたまふ。

臺覽に供したる生徒成績品

第四學年の國語作文・英語作文・圖畫第三學年より第一學年に至る國語作文・習字・圖畫すべて十二冊四帙。

成績品の佳良なるものを御駐泊所に差出すべしとの御下命あり、因て校長は生徒四十三名の成績品三冊一帙を捧呈す。

臺覽を賜はりし教授要項

第二學年

歴史科　　教諭　今　竹　男

題目　我が國と西洋との通商始まる、天主教の傳來と外交方針。

教授の方法　後陽成天皇御肖像、世界掛圖、バスココダガマ、ガマ肖像、大事年表、地球儀を準備し左の事項を教授す。

西洋人の東洋物産を運搬するや、陸路によりてせしが其途中の障碍多きと「トルコ」帝國新に起りて重税を課せしとにより新航路發見の必要起れり、ポルトガル人卒先して之を企て「バスココダガマ」は遂に印度に達することを得たり（喜望峰と名づけし所以及我が國に鐵砲傳來せしことを問答す）イタリヤ人コロンブス、マルコポーロ等の東方見聞錄を讀み又地球の球體說を信じ西方に至るは東洋に

達するの捷徑なりとしイスパニヤより發してアメリカを發見し、是によりて西洋人は亦西方航路によりて東洋に來れり、西洋人來航の目的は貿易と宣教とにあり歐洲各國の商賣續々來ると共に天主教宣教師多く至れり、サビエルは天文十八年を以て鹿兒島に着し九州四國に宣教し京都に至りて印度に歸る。

織田信長は西洋との通商を許し、天主教を保護し南蠻寺を京都に建てしが豐臣秀吉に至り通商を許せしも天主教を禁じ南蠻寺を毀てり、德川家康亦通商には開國の方針を採りしも天主教を嚴禁し德川家光酷刑を加へて天主教を禁せしかば寛永十四年島原の亂起りぬ、家光天主教の通商に伴ひ禁壓し能はざるを察し爾後固く鎖國の政策を採り以て德川氏末年に及べり。

第三學年

數學科（代數）　　教諭　大　橋　留　治

題目　二次式を含む聯立方程式中一つが一次方程式にして他の一つが二次方程式なる二元の聯立方程式及之に導かるる方程式の方程法。

教授の方法　左の例に就き其解法を教授す。

例

$$x-y=2 \quad \cdots\cdots(1)$$

$$3x^2-2xy=5 \quad \cdots\cdots(2)$$

なる聯立方程式を解くこと。

此の聯立方程式は次の聯立方程式と同値なり。

$$y=x-2 \quad \cdots\cdots(3)$$

$$3x^2-2x(x-2)=5 \quad \cdots\cdots(4)$$

(4)より

$$x^2+4x-5=0$$

$$x=-5 \text{ 或は } x=7$$

之を(3)に代用することにより次の二組の根を得るなり。

$$\begin{cases} x=-5 \\ y=-7 \end{cases} \qquad \begin{cases} x=7 \\ y=7 \end{cases}$$

第四學年

博物科　　教諭　加　來　悌　介

題目　軟躰動物門の變態。

教授の方法　模型圖により左の事項を教授す。

軟躰動物門のみ綱を比較すれば非常に其外形を異にし到底其同一部門に屬すべきものたるを信ずる能はざるが如し。

されど今其發生の狀を見れば各綱共に卵子以來幾多

の變態を經て現今の形狀となりたるものなり今變態の著しきものを擧ぐれば、

一、「トロコスフエヤ」卵より初生のものにして口の上部に纖毛を列生せる瓣膜を有し口に連れる消化管によりて躰の前後左右等に明にす。

二、「ウエリガ」次て躰の生長に伴ふて腹面の前端は突出して將來軟躰動物門固有の足となり又背上の上皮は漸く肥厚して輪狀の襞となり外套膜の起原となる。

此に時代は各綱の發生の初期に於て必ず經過すべき幼蟲の時代なればこれを軟躰動門の原躰と名づく「ウエリガ」以後其變態の進路は二方に分れて次第に各部の發達を異にして左示すが如く終に三綱今日の現狀を呈するに至る。

瓣鰓類　瓣膜は終に觸唇となりて口部は生長することなく外套膜の襞は左右に擴り全躰を蔽ひて背部との間には鰓を生じ外套膜緣よりは石灰質の介殼を分泌す。

腹足類　口部は次第に伸びて頭部を形式し瓣膜は變じて觸角等となり足は盤狀に發達し外套膜襞は次第に擴張して帽狀をなし其腔内に鰓を生じ又膜面に生じたる介殼は生長に伴ふて螺狀をなすに至る。

頭足類　瓣膜は終に消失し口を備へたる頭部は次第に發達して他の躰部と著しく區別すべく足は左右に分れて終に漏斗管を形成す。

圖は模型的のものなれば其傍に幼蟲期の牡蠣の擴大圖を示せり實物は一二「ミリメートル」位のものなり。

凡て動物は何れの種類を問はず卵子より發生し其生長する途中に於て其の祖先以來進化し來れる徑路の大要を繰り返すものなり而して變態は其著しき時代なりとす。

故に此三綱ともに始めは一種類のものより變形分派して今日の如く分れたるものなりこれを軟躰動物門と名づけ一門として親族的に見做す所以なり。

熱田神宮御參拜　神宮神苑附近に整列奉迎せる南區各學校生徒職員、並に沿道兩側に拜觀せる市民に對し、一々御會釋を給ひ、正午神宮に御着あらせらる、御列の神苑に入り正門に面せし神橋を渡れる時、樂官は東西樂所に於て奏樂、第一鳥居下には黑田・大原兩主典、第二鳥居下には田島禰宜・平岩主典冠木鳥居下には松岡權宮司、各衣冠を正して奉迎す。皇太子には冠木鳥居外にて御下乘、松岡權宮司の御先導にて第三玉垣御門より正殿階下に御參進、角田宮司の參らせる玉串を捧げられ御拜を了へさせ給ひ御退出冠木鳥居より御乘車神橋を渡りて西へ旗屋町通りなる同神宮宮廳に成らせられ、勅使の間に於て御晝餐を召さるる。御晝餐の御準備は豫め大膳職より出張、權宮司室を調理所に御使用相成、御器具類一切御持參あらせらる。

御少憩中、角田宮司より神宮に關する傳說其他を聞召され、午後一時二十五分御出門、南大津町通りより廣小路を經て、天王崎町なる縣立醫學專門學校に向はせらる。

縣立醫學專門學校行啓　正門前に整列せる各生徒及び門内に奉迎せる教諭以下校院・職員の敬禮を受けさせられ、午後二時五分御便殿の玄關に御着、校長の御先導にて圖書館樓上の御座所に入御あらせらる。校長は直に本校概覽、職員名簿・教授學科目及び其の大要・拜謁者名簿等を捧呈す。御少憩後東宮大夫の手を經て畏くも御眞影を下賜せられ、續いて左記一同に拜謁仰付けらる。

校長　熊谷幸之輔　教諭　森田資孝　教諭　岡田鶴也
教諭　奈良坂源一郎　教諭　舟木重次郎　教諭　葛谷貞二
教諭　小川三之助　教諭　林直助　教諭　中村豊
教諭　多田學三郎　教諭　北林貞道
教諭　賀古桃次　教諭　淺井猛郎

夫れより校長の御先導にて供奉の諸員を從へさせられ、第三教室に於ける奈良坂教諭の第一學年生徒に對する解剖學の授業を御覽あり、講壇上には圖畫・酒精漬貯藏標本・及び顯微鏡標本を陳列して臺覽に供へ奉りぬ。次いで第一教室に玉歩を運ばせ給ひ、小川教諭の第三・四兩學年に對する外科學の授業を御覽あらせらる、教室内には參考品として繃帶用材料・創傷部有害黴菌外傷標本・手術標本等を陳列し臺覽を仰ぎ奉りぬ。やがて豫診實習室に於ける標本模型陳列場に成らせられ、次記の通り内科學教室四點・外科學教室二十七點・眼科學教室九點・産科學教室四點・衞生細菌學教室九點・病理學教室十四點・生理醫化學教室五點・解剖學教室六十二點を御巡覽あらせ給ふ。

皇太子教室内に臨まさせらるるや、教諭生徒の敬禮に對し必ず御答禮あらせられ、又御不明の事柄は校長に質したまひ、其の陳列場に在ましては各個の標本・器械等に就て必ず説明を校長に求めさせられ、殊に教室内にて低聲御下問を賜はる事の如き、其の教育を重視し給ふこと甚深なるに至りては、感激に禁へざるところなりき。かくて午後二時四十分御巡覽終らせらるるや、直に還啓仰出され校長以下各職員生徒の奉送を受けさせられ、御機嫌麗はしく日本陶器會社に行啓遊ばされたり。

臺覽に供したる標本模型器械陳列品

内科學教室
一、ヒルシュマン氏電氣裝置　壹具
二、顯微鏡寫眞機　壹具
三、フランクリンザチオン電氣裝置　壹具
四、電氣按摩器導子
外科學教室
一、尿道結石
二、X光線寫眞
三、身体中ヨリ摘出シタル異物
四、背部脂肪瘤
五、乳　癌
六、黑色肉腫
七、轢斷傷
八、複雜骨折
九、爆發傷
十、卵巢囊腫
十一、後頭部脂肪瘤
十二、股關節結核
十三、胸椎骨瘍
十四、胃　癌
十五、網膜脫
十六、皮膚ノ肉腫
十七、乳　癌
十八、蔓性神經腫
十九、手部ノ骨肉腫
廿、臀部粉瘤
廿一、腰部懸垂纖維腫
廿一、上顎肉腫
廿三、腸狹搾
廿四、腸重疊
廿五、膀胱結石
廿六、膽　石
廿七、皮　角
眼科教室
一、ツアイス氏角膜顯微鏡
二、ジャワールジャツワ氏角膜彎曲計側器
三、トルネル氏檢眼鏡
四、眼球模型
五、眼球模型
六、眼球模型
七、眼球及保護器模型

九、トラホーム及結膜病模型

産科學教室

一、子宮筋腫
二、姙娠子宮癌腫
三、畸形兒
四、卵巢囊腫

衞生細菌學

一、サイフオン晴雨計
二、フオルチン晴雨計
三、ウエーベル氏光度計
四、自記寒暖計
五、自記晴雨計
六、直視分光鏡
七、顯微鏡
八、シヤンベランド高壓濾過器
九、アネロイド晴雨計

病理學教室

一、日本住血虫　二、腦出血
三、篦形肝蛭　四、卵巢腫囊
五、恙　虫　六、脂肪心
七、トリバナゾム　八、乳　癌
九、胃圓形潰瘍　十、原發性肝臟癌
十一、大動脈硬變症　十二、睾丸梅毒
十三、胎兒(五ヶ月)　十四、胃欝血加多兒

生理醫化學教室

一、描畫裝置　二、筋肉攣縮裝置
三、半陰旋光器　四、血球算定器
五、懸鏡電流計

解剖學教室

顯微鏡標本目錄

一、毛根及毛囊ノ横斷
二、腎臟ノ毛細血管

酒精浸標本目錄

一、姙娠第五週ノ人胎兒
二、姙娠第貳ヶ月ノ人胎兒
三、姙娠第四ヶ月ノ人胎兒
四、姙娠第五ヶ月ノ人胎兒
五、姙娠第六ヶ月ノ人胎兒
六、姙娠第六ヶ月雙生兒
七、姙娠第七ヶ月ノ人胎兒
八、姙娠第九ヶ月ノ人胎兒
九、人体上半身縱斷

十、人体腦脊髓ヲ後方ヨリ現シタル者
十一、人体腦髓上面
十二、人体腦髓下面
十三、雞胎兒發育順序

人体頭骨

一、離間セル人体頭骨
二、人体初生兒骨格

蠟及石膏模型目錄

一、ナメクジ魚發育模型
二、胎生心臟發育模型
三、胎兒發育模型
四、胎兒外陰部發育模型
五、胎兒聽器發育模型
六、雞胎兒發育模型
七、雞胎兒發育模型
八、姙娠九ケ月ノ子宮及胎兒
九、動物眼球發育模型
十、カイベル氏豚胎兒模型
十一、人体尿生殖器發育模型
十二、人体兒發育模型
十三、心臟發育模型
十四、齒牙發育模型
十五、雞胎兒發育模型
十六、人体顏面ノ外形發育模型
十七、卵分裂及小腹形成模型
十八、人胎兒腦發育
十九、脊椎動物腦髓模型
二十、婦人腹部
二十一、女体斷面
二十二、男子骨盤正中斷
二十三、女子骨頸正中斷
二十四、頭及頸左半部臟器
二十五、顏面及舌骨諸筋
二十六、會陰諸筋
二十七、女子骨盤内臟器
二十八、胸腹内諸臟ノ位置關係ヲ示シタル者
二十九、胸腹内諸臟ト軀幹骨ノ關係ヲ示シタル者
三十、分離臟器
三十一、軀幹ノ前壁ヲ後方ヨリ見タル者
三十二、人体斜斷
三十三、横隔膜筋
三十四、顏面及頸部ノ解剖模型

三十五、男性ノ腹部及骨盤諸臟
三十六、腦脊髓ヲ後方ヨリ開キタル者
三十七、胸部ノ後壁ヲ取リ氣管分岐狀態
三十八、橫隔膜筋
三十九、腦髓構造廓大模型
四十、可解性中耳模型

臺覽を賜はりし教授要項

第四及第三學年

外科學　教諭　小川三之助

題目　機械的損傷、創傷。

教授の方法　亞爾個保兒貯藏標本及び顯微鏡標本を示し學術上の辭は獨逸語羅甸語等を交へ左の事項を教授す。

器械的損傷とは種々の器械的作用に因り組織通常の連繫を斷たるを以て主要の害因となすものを云ふ又一に之を外傷と云ふ輕重難易限り無き階級あり此れを總皮膜の破れると破れざるとに由り二種に區別す甲を開放的損傷又創傷と云ひ乙を膜下損傷又挫傷と云ふ是實地病床に臨みては嚴に別たざる可らざる必要の區別なり皮膚にして破壞せざるとき例へば彼の皮下骨折の如きにありては比較的危險少なく良經過を取りて治癒するものなるは常に目擊するところなり之に反し皮膚一度破るるときは外界の有害黴菌体内に侵入し所謂傳染を來たして危險測る可らず毫末の微傷よりして終に命を殞すの大事に陷ることあり過つて縫針を指頭に刺入し不幸病毒の傳染を破り死を致したるが如き例一にして足らず予は曾て某醫の消毒を等閑にして皮下注入を施したる針口より傳染して重症劇烈の破血病を惹起し數日にして鬼籍に上れる一例を目擊せり戒めざる可んや。

創面に於いて有害作用をなす黴菌多々ありと雖も通常創面に於いて危險とし虞るるところの化膿の原因を爲すもの數種あり總て之を釀膿菌と云ふ黄金葡

萄狀釀膿菌、橙黄色葡萄狀釀膿菌、白色葡萄狀釀膿菌、連鎖狀釀膿球菌、青膿黴菌等は其主なるものなり（各試驗管培養及顯微鏡標本を示す黴菌に關する詳細は創傷傳染病篇に讓る）皮膚は鞏靭にして彈力に富むが故に鈍なる物体の衝突打擊に遇ふも破れずして在下の組織破壞して所謂皮下の損傷を來たす然れども外襲の力强大なるときは共に破壞を免れず其處に陳列しある（標本を示す）標本を見ば破壞作用如何に慘劇なるかを想像するに餘りあらん該標本は汽車若くは運送荷車に挽かれたる創即ち轢傷及び火藥の爆發に因る爆發傷等なり皮肉は破壞滅裂し筋及び腱等は挫られたる如くとなり骨は破碎し襤褸狀の皮膚零片を附着し慘酷の狀見るに忍びず慘然たる禍は猶之に止まらずして汽車の轢傷砲彈の爆發等に至りては四肢滅裂胴首處を異にするを多しとす此れ等は素より絕命するが故に普通醫師若しくは病院に來りたる稀なり故に此等極悲の標本を得る難し斯の傷者に附いてビルロート氏の書に言へるあり曰はく鐵道の工事隧道の工事等に於て從來幾多の勞働犧牲者を出したるを思へば輓近文明の築造には啻に勞力汗水のみならず幾多貴重なる血液の注がれたる悲慘の歷史を有するものなりと是同情に富る至言と言ふ可し。

又鈍体と雖ども進徹が强大なるときは皮肉と骨とを問はず破壞するものなり例へば銃丸の如し。

前者に反し銳利刀鎗の如きものは必創傷を生ず創傷を其の成立の因、傷器の種類、創面の性狀等により左の數種に類別す。

（一）切創、打創（又割創）
（二）刺創
（三）挫創、裂創
（打擊傷、馬蹄傷、咬傷、轢傷、器械損傷、埋沒傷、爆發傷）
（四）銃創

切創はナイフ、剃刀、短刀の如き銳利の器物により生じ創緣正にして平滑銳利なり外科醫の作る手術創は多くは之に屬す。

打創は打擊により重力加はり組織を割斷するものを云ふ例へば太刀を以て切り掛けるか又は斧鉞を以て打ち下したる際生ずる創の如し。

刺創は細長の物体刺入により生じたる創を云ふ小にしては針竹木片、硝子片、等大にしては刀劍鎗等の

刺入の如し後者は極めて危險なり刺創にありては傷器の破片創内に貽留し異物となりて伏在し害をなす屢あり切創と合併するときは剖創となる挫創は鈍体例へば瓦礫の衝突等により生ず多くは不正形にして創緣參差錯雜間々襤褸狀をなし周圍腫脹(挫傷)し癒合不良なり最恐るべきは轢傷也其の慘狀前述の如し挫創に似て小異なるは裂創なりとす挫創にありては組織壓縮の爲め破壞するも裂創にありては牽引によりて生ず牽引組織の彈力界を超ゆるときは斷裂す創面は不正にして哆開大なり是各組織其の抵抗と彈力を異にするが故に假令同一の力の作用を享くるも離裂の瞬時相異なり且裂斷後に彈力に由る收縮の度相異なるが爲なり。

鏡見上破裂離開は細胞間質に於ても細胞は比較的害ならざるを以て挫創に比すれば癒合良なり最重症なるは器械損傷(工場、器械に捲き込まるる如き)に多しとす例へば全上肢を肩押と共に離斷せるが如きものあり又毛髮衣服等の卷絡に由り間接に作用するものあり例へば婦女子の毛髮を器械に卷き込まれ全頭皮剝離創を生ずるが如し爆發創砲彈創銃創等にありては多く挫創に裂創を兼ぬるものとす。

銃創は他の章に讓る。

咬傷は人及び動物の齒に因る創なり一の挫創に外ならず齒痕を留むるを特異とす最危險なるは毒蛇毒蟲等の咬傷とす此の如きは特に毒創と云ふ以上の如く種別すと雖も實際に於てはまま中間に屬するもの若くは二種以上合併し來るもの少なしとせず。

症候、創傷必發の症候三あり、

(一) 創緣の哆開

(二) 出血

(三) 疼痛

此の三のものは創あれば必存す即ち必發なり。

創緣の哆開は概して創大にして深ければ愈々甚しと雖ども大に纖維の方向に關す纖維を橫斷するときは哆開大なり例へば四肢に於ける橫創は彈力により縮退し哆開著明なり故に外科醫の手術的に作る創は肢軸に平行するを常規とす。

出血の多少は主として傷きたる血管の大小と其の動靜脈なるとに關す(出血に關する詳細は出血の篇に讓る)るや論を俟たずと雖も又大に創傷の種類に關す銳利なる切創には出血比較的多量にして挫創裂創には少なし曾て全上肢を器械にて裂斷したるも腋窩

動脈の出血は直ちに死を致すに至らざりし例あり是血管壁挫滅裂斷し內膜は卷縮し中膜之に附隨し鞏靱なる外膚は牽不正捻轉壓迫を被むる管腔を狹小閉塞せしむるが故なり又此れに由りて凝血の形成容易となり且周圍の溢血及其の壓迫等も此れを助くるものなり、疼痛は創の大小種類及び解剖的部位に關す創大なるときは愈大なる知覺神經枝多數傷けるを以て疼痛も從つて大なるは論を俟たずと雖ども又大に解剖的部位に關す即ち顏面生殖器紅圍等は知覺殊に過敏にして背部臀部等には鈍し痛覺の銳鈍は大に個人の特性に關するものにして幼稚者殊に鈍く高齡者亦然り乳兒の手術には通常麻醉を要せず余は高齡者にして半ば鈍麻の狀態にあるものに大手術を施すも毫も痛を訴へざるもの屢々之あるを實現せり又壯年者にありても稀には生來痴鈍にして更に痛みと云ふものを知らざる如きものあり然れども多數の人にありては意志的壓抑即ち忍耐に由りて此の疼痛刺激に抵抗するものなり此抵抗力即ち忍耐力は個人の特性に由り大差ありと雖ども余輩の見るところを以てすれば又大に教育の有無に關す無教育下流の輩は小手術にも號泣喧噪し天眞爛熳にして毫も抑制忍耐ということを知らざるも教育のある者にありては傍人を憚り態度を顧みるが故に忍耐の念從つて生ず。

然れども誰か知らん此の忍耐は卒倒失神を促すものたることを是余輩の每に實驗するところなり知覺神經の强刺激は每に心働の緩慢衰弱を來たし爲めに腦貧血を惹起し失神に陷らしむるものなり之に對して號泣喧噪は一の豫防とも言ふ可くして之に由りて心臟は肺より多量の血液を輸られ其の力を强め從つて腦に又充分の血液を供給せらるるに至る多數の人及び小兒等の號泣喧噪し全身の筋肉を緊張せしめ(拳を握り力を入れる)齒を喰ひしめる等皆是インスチンクトにして自然の妙なり(自然の理に適ふ)又精神の興奮驚愕意志の或る一方に傾注する(夢中になる)等は皆大に痛覺を減退せしむるものなり例へば喧嘩の際負傷し强盜に脅かされ及傷を被り又は兵士の戰場に於いて負傷せる場合の如きにありては殆んど全く痛を感ぜず强盜の爲め負傷せるもの當時の感覺を問へば唯ヒヤリとしたる冷たき感覺ありたるものにて出血に由り初めて負傷せるを知れりと又兵士の戰場に負傷するや出血を認め若くは或る運動の不如意に由り又傍の戰友の注意に由り初めて負傷した

るを知るを多しとす又小兒の手術に當り一喝之を驚し其瞬間に刀を刺すときは無痛狀態なることあり。

又疼痛は大は創傷形成の器械的作用に關す銳利にして快乎に手術を行ふときは疼痛鮮少なり前述せる兵士の負傷の强盜の爲め及傷等に於いて大に痛を感せざるは一は精神の興奮に由ると雖ども又大に銃丸の速度の大なる刀及の銳利創傷形成の神速なるに因らずんばあらず刺創は切創に比し痛少なし疼痛の性狀は言辭を以て之を現はすこと難し灼くが如く刺すが如く或は裂くが如く等と云ふも其實相を名狀する難し只創傷痛（キズノイタミ）と言ふの外なし後に至りては空氣の接觸に由り大に痛を感ず故に縫合するか又は適當の繃帶を施し其接觸を絕つときは全く痛を忘るるに至る然れども若し知覺神經枝壓迫牽不正當を被るときは神經痛樣の痛み持續することあり以上は當日講義の案なり而して創傷の處置に要する繃帶品其の他の材料參考として陳列供覽せしめたり。

第一學年の教授案

解剖學　教諭　奈良坂源一郎

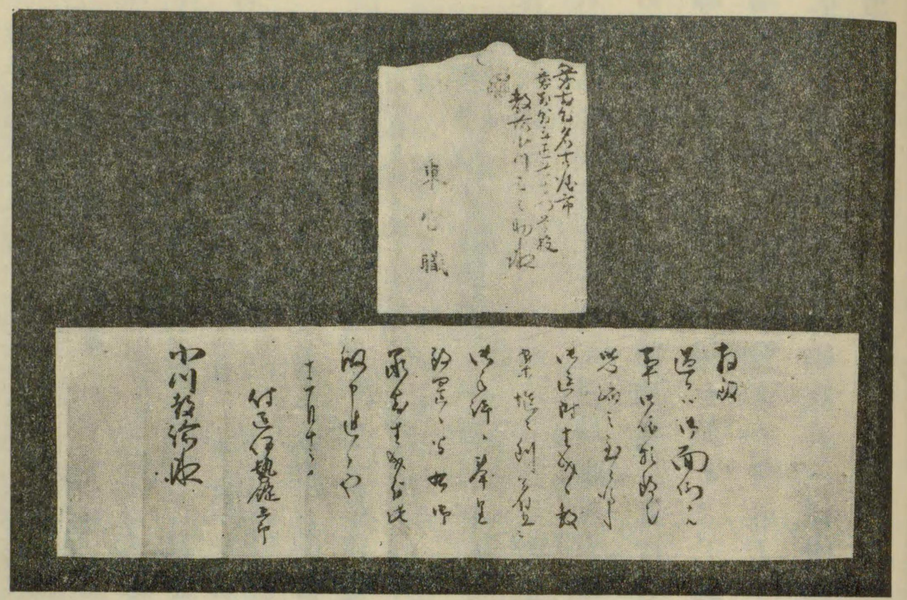
教授方法　圖畫、酒精貯藏標本及顯微鏡標本を示し學術上の辭は獨逸語、羅甸語等を交へ左の事項を敎授す。

視器總說

視器は即ち眼にして複雜神識器の一に屬し其構造複雜なるに從て其効用も甚だ微妙なり其全部は正器副器の二大部より成立せり正器は即ち眼球にして副器は正器を保護し且補助するものなり。

眼球は視神經を分解せしめ是に據て光線を感受するなり左れば眼球は前面の一部無色透明ならしめて光線射入せしめざる可らず故に眼球の透明部は常に濡潤にして乾燥せしめざるを必要とす之が爲には日常水液を塗布して以て其乾燥に備ふるなり此の水液は即ち淚液にして是を出す物を淚腺と云ふ既にして一回使用したる涕淚は細管を以て鼻腔内に輸送し去るなり此全裝置を名けて淚器と云ふ淚液を眼球に塗布するには眼瞼なる者ありて其瞬動に依て遂行すると同時に眼球の面を洗滌するなり又眼珠は視線を總ての方向に轉變せしむるの必要あり又目的の爲には數號の眼筋ありて眼球自在に運轉し以て視線をして意の欲する所に隨て如何なる方位と雖ども達せしむることを得る者なり。

以上述べる所の淚器眼瞼及び助筋は即ち眼珠の副器



東宮侍醫伊勢錠五郎書翰

にして而して眼球を補助し且保護して以て視覺器の目的を全ふせしむる者なり故に副器を亦一に保護裝置又は補助裝置と云ふ。

夫れ眼球の構造は光學的の暗箱と全く同一なり今より試みに是を總說せんとす。

眼球には其外形を保つ所の厚膜あり是を眼球纖維膜と云ふ其後方約六分の五部は性質剛直にして白色不透明なり是を剛膜と云ふ其前面に一大孔を穿ち茲に透明なる膜を箝挿したる如き部分あり是より光線の射入を許せり此透明膜を角膜と云ふ角膜は纖維膜全体の約六分の一を領せり剛膜の裏面黑色の膜を布けり是を眼球血管膜と云ふ角膜以外の部分より射入する光線を防ぐが爲めにす此膜も亦前部に一孔を穿てり是を瞳孔と云ふ蓋し此孔は光線の强弱を調節する者なれば光線の强弱に從て孔の大小を隨意に變更するの必要あり此變更を行ふ者は此孔を圍むだる遊離の薄膜にして所謂障光器なり是を虹彩と云ふ卽ち血管膜中の前部より血管膜の内方には視神經を布きたる半透明の膜あり之を網膜と云ふ卽ち視神經の在る所にして眼球の腦髓なり故に一朝網膜に微恙ある時

は假令他は健全なりと雖も視器全体は無能と爲るなり蓋し此の膜の視覺力は後方の大部分に限りて存在し前方は無能なり其境界緣の著明にして爾も出沒鋸齒狀なるが故に鋸齒緣と云ふ以上三葉の膜は皆な後面の中央に一孔を穿ち視神經を通せしむ網膜より內方は空洞にして透明なる物質なり是を硝子体と云ふ網膜の全內面を內より平等に壓迫し以て網膜をして血管膜より剝脫する等患せ莫らしむ硝子体の前面には血狀の陷凹ありて固形質より成れる漣珠狀の透明兩凸体を容る是を水晶体と云ふ卽ち光線を集合する者にして光學上の漣珠なり水晶体の周緣は微細なる纖維に據て血管膜の前部に結合す此の纖維を毛樣小帶と云ふ是と水晶体の二者の爲に眼球內は前後の二小區に分る後區は全部硝子体の領する所と爲り前區は虹彩の爲に更に前後の二小區に分る前區を前房と云ふ角膜は虹彩の間に在りて廣し後區は虹彩と水晶体及び毛樣小帶の間に在りて甚だ狹し是を後房と云ふ前後俱に水樣稀薄にして透明なる流動物を蓄はへり是を水樣液と云ふ。

日本陶器會社行啓　午後二時五十五分愛知郡中村大字則武なる日本陶器會社へ御着門內に奉迎せる職員其他に御會釋を賜ひ、直に階上なる御座所に入御、當社經營者貴族院議員森村市左衛門に拜謁を賜ひ、營業狀態に付御下問あり。夫れより玉歩を陳列場に運ばせられ、次いで大倉・田中・廣瀨・各部長の御先導にて日陶製造部窯場を始めとし、錦窯畫付部・仕上窯場より森村檢查場・輸出場に涉り隈なく御通覽あり。會社よりは本金腐蝕模樣紅茶具一揃を獻上し、また皇太子よりは染付珈琲具一組・同高付三個・轉寫盃付紅茶具一組の外、花生錦壺・額面等御買上の命を蒙りぬ。

臺覽終つて暫時御休憩の後、午後三時二十五分御退出、御機嫌麗はしく中村公園に向はせ給ふ。

臺覽工場

一、水　シ　場　　四、三號細工場
二、一號細工場　　五、四號細工場
三、二號細工場　　六、五號細工場
七、窯　　場
八、畵　工　場
九、金付窯場
十、畵付品檢查場
十一、荷　造　場
十二、箱　詰　場

中村公園行啓　御列は公園街道を一直線に午後三時四十五分中村公園に着御あらせらる。沿道兩側には中村村民及び各小學校職員兒童等整列して奉迎し、且烟火を放揚して敬意を表す。

皇太子には公園西北なる紀念館玄關に御車を駐め給ひ、奧の間にて御少憩內務部長高橋要次郎より同公園の由來、秀吉及び淸正誕生地の說明を聞召され、同部長の御案內にて園內を御徘徊あらせられ、花壇中央の丘に二年生黑松を御手植あり、それより東方なる木下屋敷の阯と傳ふる竹林の前に立ち止まらせ給ひ、しばし過ぎし昔を追憶あらせられたる後、豊國神社前より御車に召させられ、明治天皇御着輦に付奉迎の爲午後四時二十五分、名古屋驛に向は

せ給ふ。

御奉迎　明治天皇を御出迎ひあらせられし　皇太子には鹵簿の漸く本町廣小路角にさしかかりし頃、御列正しく鳳輦の跡を慕はせ給ひ、午後五時二十五分名古屋離宮に御着、父君　天皇に御對顏三十分間餘御對談遊ばされ、同五時五十分御退出偕行社へ還御あらせ給ふ。沿道には夕闇のほの暗きにも拘はらず奉迎人堵をなしぬ。

東宮侍從御差遣　此の日田内東宮侍從を御使として愛知縣農事試驗場・官祭招魂社・愛知育兒院・南山寮・帝國撚糸株式會社へ御差遣あらせ給ふ。

御巡覽仰出さる　皇太子嘉仁親王明十九日午前八時三十分御出門、左記の通御巡覽在らせらる可き旨仰出され、十八日東宮大夫村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

午前十時　名古屋停車場御發車
同　十時四十二分　安城停車場御着車
縣立農林學校
同　十一時四十五分　安城停車場御發車
同　十一時五十七分　岡崎停車場御着車
第二師範學校
御晝餐
午後
三龍社製絲場
縣立第二中學校
午後三時三十分　岡崎停車場御發車
同　四時十分　豊橋停車場御着車
御泊　豊橋偕行社

名古屋偕行社御發　御豫定の如く三河地方御巡啓あらせらるべく十九日午前八時二十五分偕行社御出門、御順路を名古屋驛に成らせられ貴賓室にて御休憩、父君　明治天皇の御着輦を御待受け遊ばさる。斯くて名古屋離宮より天皇の鹵簿同驛に着するや、プラットホームにて親しく御對顏、御召車の扉口まで奉送あり、鳳車の軋り去りて後も偕行社へ引返し給はず、跡田運輸事務所長の御案内にて運輸事務所樓上に於て御休憩、左の寫眞等を臺覽の上種々御下問あらせらる。

箱根附近水害線路破損の實況寫眞。各驛白蟻被害の模樣寫眞及び實物。軌道斷面・枕木斷面等の寫眞實物・模型。

かくて午前十時梨本中佐宮と御告別あり、直に宮廷列車にて碧海郡安城町に向はせらる。德川侯爵其他の文武高等官・婦人會員等の奉送者に一々御會釋を賜ひ、御機嫌いと麗はしく御發車あらせらる。市民は此の日朝來より　天皇の鸞輿と　皇太子の鶴駕とを奉送せんとて沿道に堵を爲したり。

縣立農林學校行啓　沿道の奉迎を受けさせ給ひ十時四十二分安城驛に御着、驛に整列したる脇屋碧海郡長始め、碧海郡各町村長及び名譽職等に御會釋を賜ひ、直に人力車に召させられ路傍に堵を爲す奉迎者に擧手の禮を賜ひつ

つ縣立農林學校に成らせらる。

農林學校に於ては校長山崎延吉・日英博覽會視察の爲め、渡歐中なるより校長代理教諭大森謹平專ら事に當り、行啓一週間前より學科授業を休止して實習とし、此間先づ安城停車場より學校迄約十町の道路及び校門の左右等すべて生徒の手にて修理をなし、續いて校内の大掃除を行ひ、講堂の天井は白布にて拭ひ壁は塗換へ、玄關より講堂に到る廊下及び臺覽教室に到る廊下等には白布を敷き、又實習農圃の御通路には新薦を敷き準備し奉る。時刻となるや職員生徒を引率して校の内外に奉迎する程に御着あり、直に御座所に充てまゐらせたる講堂に入御、其處にて教諭大森謹平・同秋山保・同加藤範次郎に拜謁仰付けられ、次いで御寫眞の御下賜ありより、それより大森校長代理の御案内、知事代理内務部長高橋要次郎の御先導にて生徒の成績品及び地方産物を御覽あり次に教諭内藤乾藏の豫科の英語科・同秋山保の農科の農産製造科・同加藤範次郎の林科の造林科の教授を臺覽ありより、それより步を農園に運ばせ給ひ、教諭多胡覺郎擔任の農科生の果樹剪定・同佐藤喜太郎擔任の同蔬菜收穫・同久保信次郎擔任の同麥蒔・同志村權三郎擔任の林科生の林産製造(樟腦)同中尾橋擔任の同苗の撰別の實習を御覽の上、午前十一時三十分頃同校御發、岡崎へ向はせら

れ、職員生徒一同校門前に整列奉送せり。

臺覽に供したる成績品

(豫科生) 作文、習字、英習字、自在書。

(林科生) 木炭、粗製樟腦、樟腦油、醋酸石灰、粗製醋酸、醋酸曹達、人工播種椎茸。

(農科生) 澱粉、綠茶、味噌、米、大豆、藁細工、柑橘類、日本蠶繭青熟種、清國大圓頭と日本青熟の掛合、伊太利黃石丸日本青白種。

この内作文・習字・自在書・木炭・醋酸石灰・醋酸曹達・清國大圓頭・日本青熟掛合・伊太利黃石丸を御持歸り相成り又臺覽に供せし地方産物明治村字根崎小山松三郎の生産せし溫州蜜柑一籠を獻上御嘉納あらせ給ふ。

臺覽を賜はりし教授要項

豫科甲組

外國語科 (英語) 教諭 内藤乾藏

題目 文部省會話讀本第一卷五十一課に就き讀及び解釋を教授す而て同課の全文左の如し。

Lesson 51.

Must we go to school? Yes.
Must I stay at home? Yes.
Must I be careful? Yes. of course.
Must I be very careful? Yes. of course.
Must he be more careful? Yes. he must.
Must he study hard? Yes.
Must he study harder? Yes he Must.
You must go to school.
You must stay at home.
You must be careful.
You must be very careful.

She must be more careful.
She must study hard.
She must study harder.

教授の方法　此課に於て初めて現はれたる語 careful. course. hard harder. なる文字に就き發音及び解釋を教授し更に全文の讀方及び解釋を教へたる後生徒をして之を試ましむ。

農科三年

農產製造科　　教諭　秋山保

題目　葡萄酒の釀造法。

教授の方法　左の事項を口授筆記せしむ。

一、葡萄酒の產地　葡萄酒は葡萄の果液を自然に醱酵せしめたる者にして日本酒麥酒の如く酵母を加へて醱酵せしめたる者に非ざるなり近來葡萄酒の需要著るしく增加し本邦に於ける產額も稍や增加せる如しと雖ども普通坊間に販賣する者には十中の八九酒精の稀液に「アニリン」色素其他色々の香料を加へ贋造せる者にして衞生上有害なる者あり此事實は東京衞生局試驗所の報告によるも明なり注意せざる可らず。

世界に於ける有名の產地は佛國の「ボルドウ」市を最たる者とし伊太利獨逸の「ライン」米國及び葡萄芽の「ポルト」酒等之に次ぎ、本邦にては山梨、新潟、札幌、栃木、長野、青森、福島等より之れを產するに至れり。

二、白葡萄酒と赤葡萄酒製造法の差違　葡萄酒に二種あり赤葡萄酒及白葡萄酒之なり赤葡萄酒は黑色葡萄にて造り其色赤し白葡萄酒は主として白葡萄にて造り無色なり尙ほ原料の採收及び醱酵法等にも異る處あり。

赤葡萄酒用の葡萄は房の全部充分に成熟し果液濃厚にして甘味强く果梗赤變じたる頃晴天の午後に於て採收し叮嚀に果梗を分離すべし是れ單仁を含有し葡萄酒の澁味を過大ならしむるを以てなり又雨天の日に採收したる者は水分房間に停滯して果液を稀薄ならしめ或は果實を腐敗せしむる恐れあり白葡萄酒釀造用の葡萄は全熟して皺を生ずるを度とし赤葡萄酒用の者より十日乃至十五日後れて採收するを要す。

醱酵法の異るところは赤葡萄酒にありては原料を壓搾し得たる果液を果皮と共に桶に入れて醱酵せしめ酒色適度に達し芳香を發するに至れば果皮を除き去り其液を樽に移し第二の醱酵を起さしむる者なれ共

白葡萄酒にありては果皮を混ずることなく果液のみを取り醱酵桶に入るることなくして直ちに樽に入れ除々に醱酵せしむるにあるなり。

林科第三學年

造林學科　　教諭　加藤範次郎

題目　「かし」の造林、一、かし類の種類及び効用。

教授の方法　種子、圖譜及び材幹の標本を示し左の事項を教諭す。

かし類は其種類頗る多く我國普通用材中最良木材の一なり材質美にして密、堅牢群を拔き他樹の企て及ばざる特色を有す。

堅硬なる用材には朱檀あり黑檀ありと雖ども獨り輸入材なるのみならず喬材なく產額少きの缺點あり又樟樹ありと雖ども多く製腦用に費消せられ且つ鐵を腐蝕するの缺點あり「ツゲ」又大材なく、欅は產額少く其他「カシハ」樺類等は產額及材質に缺點あり之れカシ類が堅牢用材中の王と稱せらるる所以なり。

カシ及シヒ類は日本內地に存するもの十一種に及び暖帶の主林木たり「アラカシ」「シラカシ」「アカヾシ」「ウバメガシ」「イチイガシ」「ウラジロガシ」「ツクハネガシ」はカシ類として良材を產す、又彼の「コルシガシ」は「コルク」製產用として輸入殖林の必要を認めらる、カシ類の用途は各種類大差なしと雖ども殊に、(一)「シラガシ」は粘靱にして彈力に富み古來槍柄として貴重せられき近時は體操器具、梶棒、檐棒、銃槍等其他一般の儲材として使用し又生籬樹として最も適當なり、(二)「アカガシ」は割合に工作を施し易く又彈力靱力共に大なれば極めて劇烈なる力を受くる所に使用せらる、磨滅を好まざる工場の器械、車輪材艫材として又油の締木、下駄材、及び農具として重用せらる(三)「ウバメガシ」はカシ類中堅度最大にして艫臍艫頭は此材に限ると稱せられ又槌、杵を作るに適す、最も薪炭に適し炭材として之れが右に出づるものなし紀州其他より產出する備長炭卽ち是れなり、其他「イチイガシ」は九州南部より良材を產し槍柄及槌材として之れに優るものなく「ウラジロガシ」は炭材として價値あり「ツクバネガシ」は一般の樫材として「アラガシ」は効用「アカガシ」に同じと雖ども稍劣等に且つ挫折し易き缺點を有す。

第二師範學校行啓　午前十一時四十五分安城停車場御發車、同十一時五十七分岡崎驛に御着車あらせられ、同驛プラツトホームに奉迎せる子爵本田忠敬・陸軍大將土屋光春・額田郡長田中從義・岡崎町長千賀又市其他名譽職有位有勳者等に御會釋を賜ひ、垣なす沿道庶民の奉迎を受けさせられつつ、縣道足助街道を岡崎郵便局前に、夫れより國道を右折大字籠田を經て郡道岡崎街道を御通過、零時十分第二師範學校に成らせらる。同校にては坂道より玄關御車寄までは細かなる白砂を一面に敷き詰め、講堂を以て御座所に充て參らせ、床上には純白の布を敷き詰め、講堂内には拾雙の金屏風を立て廻はして隅々隈なく之を圍ひ、御座席は西側にしつらひ、東に面せらる。御座所の一部には生徒の成績品を陳列して臺覽に供することとなし、講堂の他の一部には宮内高等官縣高等官及び當日特に拜謁を賜はるべき本多子爵・土屋大將の控所となし、其の一部には更に額田郡並に岡崎町よりの獻上品を供へ置き、又當地在住の高等官・在鄉軍人のためには職員室・會議室を以て之が控席に宛て、地理教室を以て拜謁室となし、湯呑室を以て新聞記者室に充て、音樂教室には當日臺覽に供へ奉るべき本多子爵所藏の本多平八郎鹿角の兜・蜻蛉斬の槍・名刀正宗及び額田郡大樹寺々寶門大明神等を陳列し、階上の臺覽遊ばさるべき教室の御通路は大巾三尺の白布を以て敷き詰めたり。

御座所には御大卓子・御椅子御帽子臺等あり、正面の講壇には巨松に菊花を添へたる大挿花を据え、其他二ケ所に盆栽を配し、ここに室内の裝飾は整ひて莊嚴なる講堂は一入の神々しさを覺えしめぬ。

當日男生徒は校門外右側に、次は女生徒、次は附屬小學校男女兒童、門内向つて左側には男女職員整列し、校長は玄關御車寄に直立し、同じく右側には松浦判事・後藤代議士を始め當地方高等官・在鄉軍人等威儀を正して奉迎す。

皇太子には警護の伊藤警部を前驅として村木武官長・馬場東宮主事・知事代理高橋事務官等を隨へさせられ、諸員の最敬禮裡に校長の御先導にて御車寄より御座所に入御、御晝餐の御事ありて後、御寫眞の御下賜あり、次に本多子爵土屋大將に謁を賜ひ、更に校長後藤嘉之・教諭榛澤常人・同松岡竹雄・同佐藤充に拜謁仰付けらる。續いて御座所の一部なる生徒の成績品、習字圖畫・手工品等一々臺覽あらせられ、それより別室に於て當地方高等官・在鄉軍人等四十餘名に拜謁仰付けられ、校長の御案内にて階上なる教室に親臨あらせらる。男子第四學年佐藤教諭の數學・男子第三學年榛澤教諭の教育・男子第二學年松岡教諭の英語・女子第三學年千田教諭の修身の授業を臺覽あらせられ、次に別室なる本

多子爵家及び大樹寺の寶物を臺覽あり、高橋事務官、及び土屋大將一々御明し奉る所あり、種々御下問ありて後、午後一時二十分同校御出門岡崎公園に向はせ給ふ。

御嘉納ありし成績品

地理歷史　四點

額田郡岡崎町の歷史地理　楷書三河男子
岡崎地圖（平面圖縮尺二萬分ノ一）　楷書千字文
同上斷面圖（南北）　細楷千字文
同上斷面圖（東西）　題常磐抱子之圖

習字　六點

草書千字文　靜物
行書天草灘（賴山陽）　同上
　室內

圖畫　六點

石膏
風景
同上

手工　四點

寫眞掛
花瓶敷
同上

組紙（眞心）　附屬小學校

臺覽を賜はりし教授要項

男子第四學年

數學科（代數）　教諭　佐藤充

題目　公式によりて二式の積を求むること。

教授の方法　左の事項を說明問答によりて教授す。是より講述する所は簡單なる二つ或は二つ以上の整式の積を求むるに當つて實際掛け算の算法を用ひずに公式によつて其結果を求むることを練習するのであるから此部分を學習するに大切なことは、公式を求むる道筋を能く注意すること、公式の形を能く觀察して十分確實に記憶すること、及び其適用に習熟することである先づ次の積、$(x+a)(x+b)$を掛け算によつて求めやう。

$$\begin{array}{r} x+a \\ x+b \\ \hline x^2+ax \\ \quad bx+ab \\ \hline x^2+(a+b)x+ab \end{array}$$

此演算は生長をしてなさしむ。

故に $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$ なる公式が得らる、さて公式を言葉にて陳述することは之を記憶する爲めに有力なる助けとなるものであるから、之を言葉にて述べてみやう、先づ此公式の左邊はxについて一次の因數二つであるから右邊は二次なることは明かである、依て唯右邊の係數が如何にして作らるるかを注意するがよい（以下生徒をしていはしむ）右邊のx^2の係數は1である、xの係數は左邊のxを含まざる項の和である、左邊のxを含まざる項の積である。

男子第三學年

教育科　教諭　榛澤常人

題目　講話式の意義。

教授の方法　口授によりて左の通り教授す。

教授形式の一つなる講話式とは如何なるものであるかといふに、標本を示すとか、實驗を行ふ時に唯實驗を行ひ標本を示すといふだけでは十分ならざるがために、其示すところの標本其行ふところの實驗に關して着目すべき點、注意すべき部分を話して兒童の觀察を助けたり或は文字文句の意義を明かにするとか、事物の間に存する道理を說きて兒童の理解を勸めたり或は修身●地理●歷史などの事實を語るに、單に、一通りの事實を述ぶるといふだけにては效果少きがために其說話を巧にして記憶想像を働かし以て兒童の感情を促すといふやうな時に用ふるところの形式であつて、之を要するに教師が兒童に物事を教授するに當り主として其教授事項に對する生徒の觀察を助け理解を勸め感情を促すなどのために使ふところの教授作用である。

男子第二學年

外國語科（英語）　教諭　松岡竹雄

題目　ロビンソン、クルーソー漂流譚の一節。

教授の方法　左の個處について先づ生徒をして音讀せしめ其誤りを訂正し次に他の生徒をして解釋せしむ

When Robinson Crusoe was nineteen years old, he wished to do what many other boys have done: he

wanted to go to sea. He was tired of his quiet, peaceful home, and thought it would be a fine thing to trovel all over the world.

次に左の説明を與へ終て教師更に模範的音讀と解釋とを示す。

nineteen years old は又 nineteen years of age とも言ふこと to go tosea は to become a sailor と言ふ熟語にして卽ち水夫となると譯すべきこと。

：の符號は說明句を導く爲めに用ふるものにして卽ち此の：以下の句は前の句 what many other boys hane doneを說明したるものなること tired の次に前置詞 of を用ひたるときは精神上の疲勞を表はし之を厭くと譯すべく with を用ひたるときは身體上の疲勞を表はし之れを疲るると譯すべきこと、例へば次の例に於て(1)は步むことに厭きたるを言ひ(2)は步めるが爲めに疲れたるを言ふが如し。

(1) I am tired of walking.

(2) I am tired with walking.

all over the world は世界中と譯すべきこと。

女子第三學年

修身科　教諭　千田仁和野

題目　我が國民の愛國心に富める事情。

教授の方法　口授によりて左の通り教授す。

我が國民は最も愛國心に富んで居るのであるが其由來する所は何處にありやと云ふに澤山ありますが其重なるものを擧げて見ますれば。

第一、我が國体は人情として最も慕ふべき家族制になり居ることは皆さん歷史上より御分りでせう。

第二、御代々の大君が臣民を赤子の如く御慈み給はつた事も歷史上甚だ明かなことで其の二三を申せば仁德天皇の「民の富は朕の富なり」と宣はりて宮殿は荒れ御衣は破れ給ひても御心にかけさせられず、一意民の富まんことに御心を注かせられたる事又醍醐天皇には寒夜に御衣を脫がせられ民の苦を思召されて有難き御言葉を賜はりたる事そして現代の大君には畏れ多くも歷代天皇の御仁德を兼ねさせ給ひて日々有り難き御事のみうかがひ申すことなどであります。

第三、國民の性質眞心深きに上の御惠は自然と歷代の臣民をして益々上の爲めに眞心を盡すべく實行を確實ならしめました。

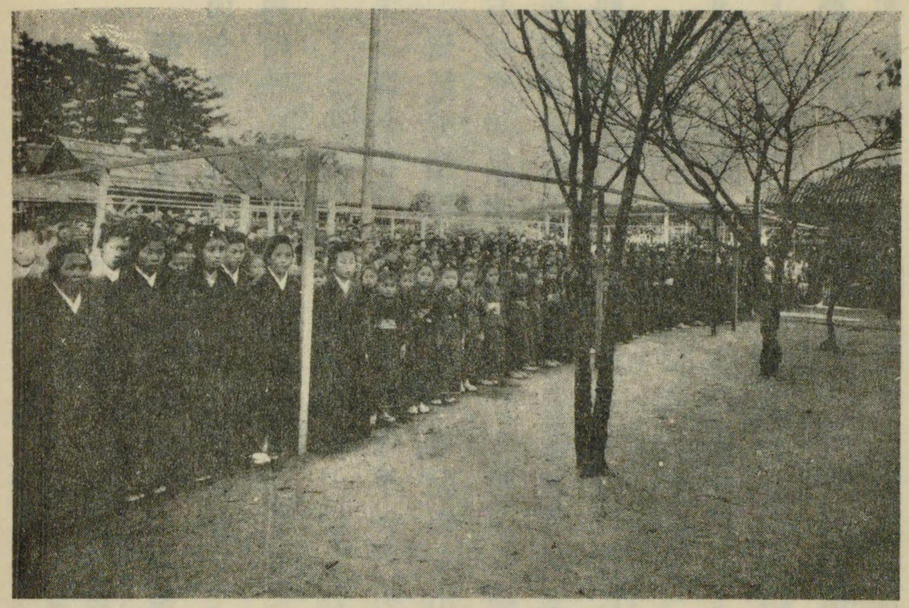
第四、我が國の風土氣候が萬國に勝れて居ることは

地理學上から分つて居らるる通りであります以上の如き事情の下に生活する國民誰れでも自分の幸福であると思はざる人はないでせうされば幸福なる此國を人情として義務として愛せざることは出來ませんこれが卽ち我が國民の愛國心の强き理由なのでございます。

岡崎公園行啓　御往路を岡崎郵便局前に、夫れより國道を御西進、岡崎公園內巽閣に入御、御少憩の後御徒步にて本多子爵・土屋陸軍大將の御先導により岡崎城阯天主臺上に成らせらる。(茲に紀念碑を建て「東宮殿下御野立所」と刻す。)ここより各方面を御展望あらせられ、町民が御旅情を慰藉し奉らんとて放揚する烟火を御觀覽あり、忠魂碑御拜の後、合資會社三龍社に向はせらる。

三龍社製絲場行啓　岡崎公園を出させられ御往路を殿橋南端に、夫れより右折、男川堤防御通過午後一時五十五分三龍社に着御、門內左側に奉迎せる社長田口百三・社員茂木良太郎・勝野又三郎・勝野吉兵衛及び社長家族に御會釋を賜ひ、橋本本縣技師の御先導にて直に御座所に入御御休憩あらせらる。

御座所は事務所奧十疊の間を以てこれに充て、軒先には紫縮緬の幔幕を張り、南と東は各二ケ所宛白總の紐にて絞り上ぐ、天井は白羽二重を張り床は白天竺を敷きたる上、白繻子を以て敷詰めたり、床の間には景年筆日の出の圖を懸け、向て右に靑竹籠に寒牡丹紅白五輪を生け、左に杉の盆栽を置く、花臺は白木を以て作り白地竹模樣の朱珍を以て覆ふ。床の前に御椅子・テーブル・御帽子



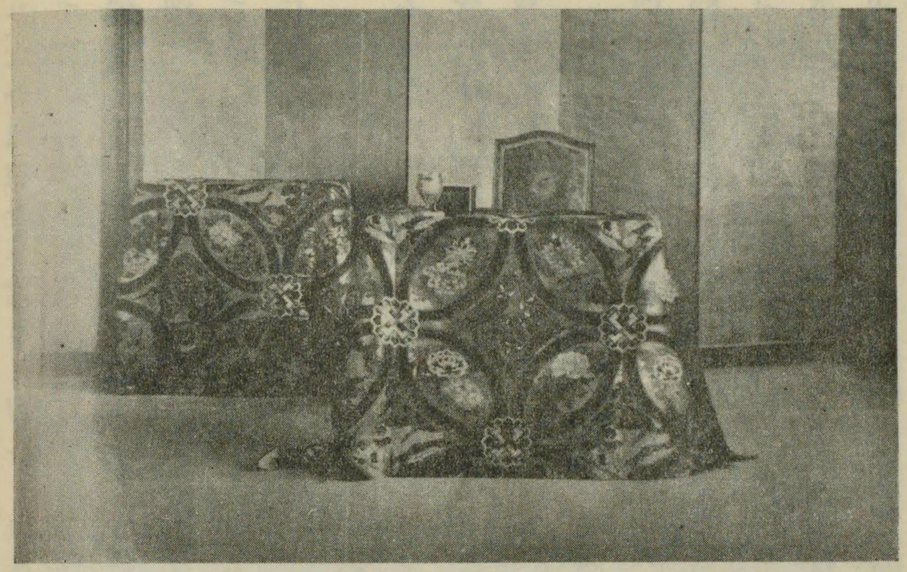
三龍社分工場職工の奉迎

臺を置き、御椅子脇に御手爐を、其の屏風際に獻納臺を置く、御テーブル及び御帽子臺には共に白地菊模樣織出しの朱珍地に兩側に桐貳個宛前後鳳凰を刺繍したるものを掛け獻納臺には白無地琥珀の掛をなす御テーブルには三龍社概要一册を硯蓋風の白木の盆に載せ右に、左方には東宮職御持參のマツチ貳個、銀製御灰落し一個、金梨子地菊御紋章高蒔繪御烟草筥を置かれたり。

臚て皇太子には田口社長の御案內、高橋內務部長の御先導にて工場を御巡覽あり、乾燥器模型陳列場にて玉歩を停めさせられ、夫れより第一部第二部と順次玉歩を移させ給ひ、大枠編絲掛の處にて御停立御熟視あらせられ、第五部西端を通御、座繰場にて御停立、次いで四部三部を通御、廊下を御通過の際、分工場職工一同の奉迎に御目を留めさせられ臨時臺覽、結束場にて稍暫く御停立、成績品陳列場にて仔細に御覽あり、殊に女學會成績書方淸書帳に玉手を觸れさせ給ふ。御巡覽終つて直に玄關に出御、御車寄に奉送する社長に優渥なる御言葉を賜ひ、御機嫌殊に麗はしく午後二時十五分御發駕第二中學校に向はせ給ふ。

同社は知事を經て白色黃色生絲二括の傳獻を請願したりしに御嘉納の榮を賜ひ、尙陳列場に陳列の成績品を一纏として御手許へ差出すべき旨、侍從武官長より內務部長を經て御下命に接し、翌日箱に納めて獻納品と共に豐橋御旅館に提出す。

縣立第二中學校行啓　午後二時三十分御車は交叉せる國旗の靜に飜る校門を入らせられ、敷き詰たる白砂の上に轍の痕を鮮に印して御車寄に着かせ給ふ。校長の御先導により武官長、知事代理其他本多子爵、土屋大將等を從へさせられて第五學年の教室をしつらひたる御座所に入御、暫時御休憩の後、御寫眞を下賜せられ、校長杉浦要太郎、教諭七種泉三郎、同櫻井幸作、同繁野政瑠に拜謁を賜ひ、陳列せる作文、圖畫、習字、地圖等の生徒の成績品を臺覽の上、教室に臨



縣立第二中學校に於ける御座所

ませられ、順次第五學年小山教諭の國語教授・第四學年松本教諭の英語教授第三學年梅村教諭の生理教授・第二學年大橋教諭の地理教授を御覽あらせらる。教室に在らせらるや時々高橋内務部長を顧みて御言葉を賜ひ、折々御微笑を浮べさせられて熱心に臺覽あらせられ、午後三時五分職員生徒奉送裡に岡崎驛へ向け還啓あらせ給ふ

翌二十日生徒成績品並に學校一覽拝謁者名簿教授學科目等の書類を携帯して書記山田末次郎豊橋偕行社に出頭せり。

臺覽に供したる成績品

作文　二綴　習字　四綴　圖畫　四點
圖畫　九點　英習字　五點　地圖　四點

成績品中若干點御持歸り遊ばされたり。

臺覽を賜はりし教授要項

第二學年

地理科（外國地理）　教諭　大橋熊藏

題目　西伯利鐵道「ガイダロボ」驛以西の線路につき

「バイカル」湖並に湖畔迂回線路の情況。

教授の方法　地圖及參考圖を用ひて左の事項を教授す

大連に上陸し我南滿州鐵道に乘り長春にて露國の東清鐵道に乘換へ「ハルビン」を過ぎ更に西して「カイダロボ」驛に於て西伯利鐵道本線に合したることは已に教授したれば更に此により其以西につき教授すべし乃ち「カイダロボ」驛より變化なき無味の原野を西行すること數日にして渺茫たる水面を望むべし是れ即ち有名なる「バイカル」湖なり此湖は海面を抜く一千五百尺餘にして深さ約四千尺世界最深湖なり湖畔は土地卑濕なれば鐵道工事の困難なること西伯利線中第一と稱せられたる所なるを以て最初は湖上に汽船を浮べ冬期は世界最大の碎氷船を使用して航路を開き東西線路の接續を保ちしが露國は東亞の形勢不穩なるを慮りて急遽迂回線路の工事に着手し彼の日露開戰前漸く完成し接續直通するに至れり即ち今日に於ては湖上の汽船と迂回線との二者によりて交通を便にせりと云ふ此迂回線により湖西に出づれば「イルクック」の一大停車場に達すべし「イルクック」は西伯利中央の一大市場にして東西伯利總督茲に駐在し東方の兵備の策源地たり。

第三學年

博物科（生理）　教諭　梅村甚太郎

題目　循環系統の疾病。

教授の方法　繪畫標本を用ゐ左の事項を教授す。

一、興奮性飲料の循環系統に及ぼす害。

茶、珈琲、酒類等を興奮性飲料と云ふ茶は古より吾邦人の一般に飲料に供せる品にして珈琲はもと「アビニシア」の產なれども今は熱帶各地に移植せらるる茜草科植物にして其種子を焙煮し粉末となして飲料に供せらる近頃盛に吾邦内に輸入せらるるに至れり

而して茶には Thein 珈琲には Coffein と稱する主成分と僅微なる芳香性物質とを含む共に精神或は身體を勞働したる後之を少量に飲用するは神經系統を興奮して疲勞を回復し執業を持續するの利ありと雖も神經過敏なる人にして濃厚なる茶又は珈琲を飲むときは心臟の博動昂進し或は頭痛を感じ容易に眠ること能はざるに至る次に酒類は「アルコール」性分を含める爲に有害なるなるものが日本酒には別に「フェーセル」油を含めるを以て其害更に大なり酒類の身体に影響する順序は左の如し。

イ、諸器管を興奮せしむ。

ロ、筋肉衰弱し勞役に堪へざるに至る。

ハ、精神衰弱し智力及び意志の作用衰へ感情のみ旺盛となる。

ニ、無神の情態に陷り前後を辨へざるに至る。

而して過度の飲酒は心臟を肥大ならしめ其筋壁を脂肪性に變質せしめて固有の彈力を滅失し内部の瓣膜も亦屢其機能を失ふに至る加之腦膸の脈管壁を變質せしめ遂に血管の破裂を來し爲に血液は腦の組織中に流出して恐るべき卒中症に罹ることあり斯の如く飲酒は生理上有害なるのみならず道德上往々罪惡を誘致し易きものなれば精神身体共に發育變化の盛なる學生時代に於ては大に注意すべきことなるを忘るべからず。

二、貧血症の原因及其豫防。

貧血症とは通常全身に血液の分量少なるものを云へども亦往々血球中に多くの血色素を有せざるものに向つて附する病名なり抑血液は身体の養液にして必要なることは猶田園に灌漑の必要なるが如きものなれば貧血は最も憂ふべき病症なり其原因は遺傳よりするものの外に衣食住の不良、運動休息の不足等より起るものなれども亦種々の疾病より誘發することあり例へば間歇熱、十二指腸蟲の寄生等なり故に人は濕氣少なき土地に住し、日光に富める空氣に浴し衣服を清潔にし滋養ある食物を資り且つ適度に運動し休息し特に精神を勞したる後は充分に安眠をなして血液の補充を計らざるべからず而して十二指腸蟲は人体の十二指腸部に吸着し盛に人血を吸收して生活し以て人を衰弱せしむるものなり此の蟲の卵は水に混じ蔬菜等に附着して人体に入り孵化するものなれば飲料水蔬菜等は充分に清潔なる保證なきものは必ず一度之を煮沸して使用するを安全なりとす。

外國語（英語）　教諭　松本　環

題目　或る一書店の主人が一少年の正直なるに感じて賞與を送りし談話。

教授の方法　問答式により讀方解釋及會話を教授す。

先づ甲生徒をして左記の文章を音讀せしむ。

"What is your name?" inquired mr Harris "Edward Delong" Have you a father living?" "Yes" Sir, But my father went to a far, country when I was a infant."

乙生徒をして之れを邦語に譯せしむ。

お前さんの名は何と申しますかと「ハリス」さんは聞きました。私は「エドワードテイロング」と申すものです。父上は生きて居らつしやゐますか。生きて居ますが私の幼少の時遠國へ行きました。

次に、

教師問 inquired の同意異語を述べよ。

生徒答 asked

教師問 infant の同意異語を述べよ。

生徒答 baby

第二節に進み一生をして左記の文章を音讀せしむ。

"Where do you reside?" "in the town of Linwood, about fifty miles from this city." "Well, my boy, what are the books which were forgotten?" Tacitus and a Latin Dictionary."

他生をして左の通り邦語に譯せしむ。

お前は何處に住んで居りますか、此の市より五十哩程あります「リンウッド」町に住んで居ります。して、受取に書き落した書物は何と云ふ書物かね。「タシタス」と羅典語の辭書とです。

次に教師 reside の發音及「アクセント」を教へ其意義を示し次に教師は Tacitus 羅馬の有名なる歷史家の名なるが此處にては同人の著書なることを教ふ。

次に教師は第三節なる左の文章を音讀す。

"Let me see the bill. Ha! signed by A. C, morley. I will see to that. Here, mr. morley!" called mr. Hanis, but the clerk was busily engaged in waiting on a customer at the opposite side of the store. bowing and smiling in the most attentive manner.

次に生徒をして音讀せしむ。

教師問 Let me see the bill は如何なる意味なりや英譯せよ。

生徒答 please show me the bill.
教師問 Ha! とは如何。
生徒答 I see! なり。
教師曰く之を和譯せよ。
生徒答の成程と云ふ義なり。
教師 sign の意味を談話し日本 にては受取り捺印すべき所を西洋にては姓名を自署して證據となす旨を告げ左の受取の書き方を教授す。
Beceived the sum of five yen from
T. Ito
A. Hooper.
教師 wait on の同意異語を問ふ。
生徒答 attend on.
教師生徒をして第三節を左の通り邦語に譯せしむ。
「受取を見せて下さい成程 A.C. morley. と署名してある、私はそれを調べよう、此處に來れ mr. morley. よと主人の「ハリス」が呼びました併し番頭の「モーレー」は店の向側で極丁寧に禮をしたり笑つたりして御客樣に應接して忙はしくして居りました。
第四節に進み教師は左の文章を音讀す。
"Edward," continued mr Harris, "I am not going to reward you far what you have done; but I wish to manifest my approbation of your conduct in such a manner, as to make you remember the wise and excellent precepts of your mother."
生徒をして之を本邦語に譯せしむ。
「ハリス」さんは續いて申しますに「エドワード」さん私はを前さんが今日までになした事を賞する積りではないがお前さんのお母さんが教へて下さつた賢明卓絶なる教訓をお前さんに長く心に留めさするやうな方法でお前の行狀に對し賞賛の微意を現はしたいのである。
教師問 I am not going to を英譯せよ。
生徒答 I do not intend to
更に第五節に進み教師先づ音讀す。
"Select from my store any ten books you choose, which, in addition to the two you had before, shall be a present to You; and hence forth, as now, my boy, remember, and not despise the day of small things. If ever you need a friened, call on me, and I will assist you."
The grateful boy thanked his kind benefactor, and,

with tears in his eyes, bowed and left the store.
更に生徒に音讀せしむ發音を正し他生徒をして邦語に譯せしむ。
それ故お前の好きな本を何れでも十冊此店より選び出しなさい前のつけ落しになつて居た二冊も一所にお前に贈物とする今後は「小事を忽にすな」と聖書にある句を忘れぬ樣になさい、又相談に相對を要するやうな時があつたら私の所へ來なさい、何時でも助けてあげるからと「ハリス」さんが申しました。
此子は有り難たがつて親切なる恩人に涙ながらお禮を述べて其書店を立ち去りました。
教師 in addition to の同意異語を問ふ。
生徒答 beside.

第五學年

國語科（講讀） 教諭 小山治吉

題目 藤田東湖が寺門政二郎に答ふる書中の一節。
教授の方法 問答式により講讀を授く。
生徒をして左の文章を讀ましむ。
申すまではこれなく候へども、學問は實學にこれなくては、却つて無學にも劣り申し候。弘道館記中に、「忠孝無レ二文武不レ岐學問事業不レ殊二其效一」と遊ばされ候儀、實に學者立志の模範は志士報國の根本に御座候はんか。
教師問 實學とは何ぞや。
生徒答 實學は學びしものが社會の用に立つ學問なり。
教師曰 然り實學とは生きた學問なり所謂活學なり實用に立つ學問なり例へば紅葉を觀るの記を作らしむれば隨分面白く書き得るがさて端書を書かすれば文章をなさぬと云ふが如き或は幾何學三角術を學びたりと云ふも米相場の勘定を誤るが如きは實學をなしたりと云ふべからず。
教師問 忠孝無二とは如何なる意ぞ。
生徒答 忠孝一致し二ならず君に忠を盡すは親に孝なる所以、親に孝なるは卽ち君に忠なる所以なりとの意なり。
教師曰 然り忠孝一致忠孝一本と云ふことは我國民道德の根本にして又我國民道德の特色なりとす然らば何故に我國は忠孝一致なるか。
生徒答 我國は君と臣民との關係が外國と異りて皆其祖先を一にし、皇室は國民の大宗家に當らせられ國民は其支家にして國民は皆眞の同胞なり此の如き

關係より忠孝一致の美風ありと。

教師曰　然り我國は家族制度にして祖先の尊ぶ國風なることは皆の知れる所の如し我國全體が大なる一の家族にして一家は小なる國とも云ふを得べし故に畏きことながら今君臣の關係を樹木に譬ふれば其根幹は云ふ迄もなく君にして臣民は其の枝葉なり卽ち我等の父母祖先は皆其枝葉に當る而して根幹に盡すはやがて枝葉の繁榮を來し枝葉のためにするは是れやがて根幹の爲めに盡すことなるなり君に忠なるは汝等の父母祖先の志なり希望なり、汝等能く君に仕へ忠を盡して父母の志をなす此れ大なる孝道にあらずや汝等が其父母祖先に孝なるは　陛下の嘉し給ふ所なり教育勅語にも父母に孝にと仰せらる聖旨に從ひ孝道を盡すこと是れ君に忠なる所以なり。

教師問　文武不レ岐とは其意如何。

生徒答　文を講ずるものは武をも兼ね修め武を學ぶものは又文を兼ね修めざるべからず文と武と偏廢すべからざるを云ふ。

教師曰　良し文を修めて武を講せざれば流れて文弱となり國家の用に立つ人となり難し武を講じて文を修めざれば徒に粗暴となり社會の益を增すこと難し

汝等三河武士の子孫たるものは學問を修むると同時に大に武術を研き祖先の遺風を發揚すべし。

教師問　學問事業不レ殊二其效一とは如何。

生徒答　學びたる學問を事業の上に施し學問が空論に流れず能く事業と一致して其效をなすことを云ふなり。

教師曰　然り此は隨分むつかしきことにて東湖先生もなか〳〵難物なりと申されし程なれども男子學をなす常に茲に期せざるべからず。

教師問　志士とは如何。

生徒答　愛國の人なり。

教師曰　良し國を愛し國を思ひ常に國家の事に志ある者なり。

茲に於て教師一生徒に命じ全節の解釋をなさしむ。

生徒曰　言ふまでも無いことであるけれども學問と云ふものは實際の用に立つ卽ち實學でなくては却て學問のない者にも劣ります烈公のお書きになつた弘道館記の中に忠と孝とは一致して二つに分れることなく君に忠を盡せば親に孝となり親に孝行すれば卽ち君に忠となり文武は岐れて一つ一つに偏らず文を修むるものは武を講じ武を講ずるものは文を修め學

問と事業と其效績を別にせないで學んだ學問が直ちに事業に施されるやうにとあることは實に學問をなす者の志を立てる手本であつて志士が國恩に報ゆる根本でありませうと東湖先生が書かれました。

岡崎に於ける奉迎送　殿橋南端に一大綠門を建設し、御道筋の各所に大國旗を交叉す。當日天氣快晴にして西北の風强かりし爲街路の淸掃撒水等に留意し、御道筋の兩側には幔幕を張り詰め、全市街の各戶には國旗球燈を揭揚して敬意を表す。奉迎團体たる、在鄉軍人・赤十字社員・愛國婦人會員は岡崎驛前柵に沿ひて整列し、第二中學校職員生徒及び額田郡各町村靑年會員代表者は該校附近、町村立小學校職員兒童は縣道葦池橋の北側より殿橋南坂下迄、公職者・赤十字社員・愛國婦人會員は岡崎製糸會社前空地に、第二師範學校職員生徒は該校入口上り坂に、在鄉將校及び岡崎在住高等官は同校入口兩側に各整列し、其他一般公衆の市の內外に參集するもの實に拾萬以上を算したるも、何れも靜肅に奉迎送をなしぬ。

本多子爵は數日前より來岡して家寶を臺覽に供し、土屋陸軍大將は前日來岡鹵簿に隨從せり。

同町獻上品　岡崎町より綿布拾五反を、大字八帳早川休右工門・太田彌治右工門より味噌各五樽を獻上し御嘉納の榮を賜ふ、尙烟火百餘發を放揚して臺

覽に供す。岡崎公園に行啓あらせられし際、舊城阯全般に渉る寫眞獻納方御下命あり謹製の上獻納す。

豊橋偕行社御泊　岡崎の御巡覽を終へさせられたる　皇太子には午後三時三十分岡崎停車場御發車、同四時十分豊橋驛に御着あらせられ、プラツトホームに奉迎する内山第十五師團長・大口豊橋市長・其他有位有勳者等に一々擧手の御答禮を賜ひつつ、御料の人力車にて直に師團偕行社に入御あらせ給ふ。

御旅館御着後、内山第十五師團長・深野知事・大口市長等御前に伺候して御安着の御祝詞を言上すれば、いと御滿足に思召され有難き御詞を賜ひ、尚新山歩兵第十七旅團長・豊邊騎兵第四旅團長を始め、當地駐屯各隊の上長官以上に拜謁を賜ふ。當夜豊橋市に於ては御旅情を慰め奉らむ爲三河烟火を打揚げ御觀覽に供し奉る。

御巡覽仰出さる　皇太子嘉仁親王明二十日午前八時三十分御出門、左記の通り御巡覽在らせらる可き旨仰出され、十九日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達せらる。

十一月二十日　日曜

午前八時三十分　豊橋偕行社御出門
第十五師團司令部
野砲兵第二十一聯隊
輜重兵第十五大隊
騎兵第二十六聯隊
騎兵第二十五聯隊
騎兵第十九聯隊
歩兵第六十聯隊
還御

午後一時　御旅館御出門
歩兵第十八聯隊
工兵第十五大隊
縣立第四中學校
還御

第十五師團司令部行啓　風寒き霜夜の一夜を豊橋偕行社樓上に過させ給ひ、二十日早朝御目覺あり御衣更の後御朝餐を召され、行啓の準備全きを待つて午前八時三十分偕行社御出門あらせらる。

前日と同じカーキ色陸軍中將の軍服を召させられ、豊橋警察署長・警視國宗鹿太郎の御前驅にて御料の人力車に召され、村木東宮武官長・原東宮侍從・伊勢侍醫・深野愛知縣知事等各供奉員を隨へさせられ、土屋大將其他列外に扈從し奉り、御順路正門より第十五師團司令部に成らせ給ふ。師團長内山小二郎は御車寄に奉迎、階上御座所に案内し奉るれば茲にて御休憩の後、内山師團長・各上長官・豊橋區裁判所判事松原久之・豊橋稅務署長細谷忠男・渥美郡長木原勝太郎豊橋市長大口喜六・豊橋市會議長福谷元次・其他師團將校・同相當官・地方官衙高

等官・同待遇者・在鄉軍人等に拜謁を賜はり、內山師團長より師團の近況を聞召されて後、九時十分同所御出門野砲兵第二十一聯隊に向はせ給ふ。

野砲兵第二十一聯隊行啓　現役兵は右翼、當日の除隊兵は左翼に整列して奉迎する中を九時十二分御着、直に第一中隊及び第四中隊の兵舍を御巡閲あり、營庭に於て第五中隊の操砲教練臺覽あり、其の際山本聯隊長に對し兵卒の狀態並に患者兵其他に就き種々御下問あり、それより第一中隊の砲廠を御巡視の上、九時二十五分同隊御出門輜重兵第十五大隊へ向はせらる。

輜重兵第十五大隊行啓　午前九時三十分同隊御着、神谷大隊長の御案內にて將校集會所內貴賓室に御休憩、將校團へ銀盃一個御下賜あり、大隊長より同隊の近況を御聽取の上、第一中隊の兵舍及び馬廠を御巡覽あらせられ、同四十五分御出門、騎兵第二十六聯隊へ御車を進めさせらる。

騎兵第二十六聯隊行啓　輜重兵第十五大隊の御巡覽を終へさせられ續いて同隊御着、第一中隊兵舍及び第二中隊廐舍を御巡視あらせられ、御寫眞並に銀盃一個を御下賜の後、九時五十分同隊御出門、騎兵第二十五聯隊へ成らせ給ふ。

騎兵第二十五聯隊行啓　午前十時同隊御着、加瀨聯隊長の御案內にて將校

集會所に入らせられ、御少憩の上、第一中隊廐舍・第二中隊兵舍御巡視營庭に於て毬子軍曹以下六名の軍刀術試合、及び幸村大尉指揮の下に丸山曹長以下五名の輕乘を臺覽あり、御寫眞一葉を聯隊に、銀盃一個を將校團に御下賜の上騎兵第十九聯隊へ向け發御あらせらる。

騎兵第十九聯隊行啓　午前十時二十分同隊御着、野崎聯隊長の御先導にて第一中隊兵舍及び第二中隊廐舍を御巡視あり、器械体操場に於て和崎中尉・井上少尉並に下士一組の軍刀術を臺覽あらせられ、將校集會所に銀盃一個聯隊長野崎少佐に服地一着を賜ひたる上、步兵第六十聯隊に成らせらる。

步兵第六十聯隊行啓　午前十時四十二分同隊に御着、新山旅團長・竹島聯隊長の奉迎を受けさせられ、將校集會所に入御、御休憩の後、營庭に於て兩宮大尉監督の下に下士以下四十名の集合試合を臺覽、終つて第一中隊の兵舍を御巡視の上、十一時三十分同隊御出門、再び偕行社に還御あり、同所に於て御晝餐を召させられ御休憩あらせ給ふ。

步兵第十八聯隊行啓　午後一時三十分再び偕行社御出門、午前と殆んど同樣の供奉にて、步兵第六十聯隊前の新道路より小池に出で、柳生橋を渡り松山中柴・新川・新錢・花園・魚町・橫町・札木・大手・八町通りを經て、午後二時步兵第十八聯

隊に成らせらる。現役・除隊兵一同の奉迎を受けさせられつつ、直に將校集會所貴賓室に入御、井口聯隊長より同隊の近況を聞召され、終つて同隊東衛門北側丘上に設へたる御野立所に成らせ給ひ、市内八ケ小學校尋常四年以上の女子千二百六十三名外・樂手男子十五名の演技する櫻花遊戲を臺覽あらせらる。

參加兒童は全部白襟黑紋付・白紙緒の草履・着袴にて二列正五邊形に整列して御野立所に向ふ。合圖によりて一同最敬禮の後、奏樂につれて直に行進にうつり花瓣を造り始む、それより順次演技し更に始めの隊形に復して最後の最敬禮を終るまで九分三十秒。皇太子には始終の敬禮に對し擧手の御答禮を賜ひ、御觀覽中御機嫌いと麗はしく高らかに御談笑あらせらるる御聲さへも洩れぬ。

櫻花遊戲臺覽後玉歩を營庭に進めさせられ、酒保南側に於て將校の擊劍及び下士の銃劍術を御覽あり、それより第四・第五中隊兵舍階上御巡視の後、午後二時四十分御出門、工兵第十五大隊に向はせらる。同夜　皇太子御寫眞一葉を同隊に下し賜ふ。

工兵第十五大隊行啓　歩兵第十八聯隊を出でさせられ八町・大手・吉尾町を經て、龍拈寺前に出で、夫れより新川橋を渡りて午後三時御着あり、佐々木大隊長の御先導にて第一中隊の兵舍御巡覽の後、將校集會所内御座所に於て暫時御休憩、次いで兵器庫臺覽の旨仰出され直に隊長御先導にて御巡覽あり、右終つて、午後三時三十分同隊御出門、第四中學校に向はせらる。同日隊長に服地一組將校團に銀盃一個を下し賜ふ。

縣立第四中學校行啓　工兵第十五大隊御出門、從前の供奉員の外陸軍大將土屋光春・第十五師團長陸軍中將内山小二郎等を隨へさせられ、午後三時四十分同校に臺臨あらせらる。校門前道路の右側には同校生徒(第五學年・第四學年武裝整列奉迎し、職員は校門内右側に校長は御車寄に奉迎す。

皇太子には校長の御先導にて講堂なる御座所に入御、暫時御休憩仰出されて後御寫眞を御下賜あり、次に校長山崎新太郎・教諭藤林東太郎・同市原重吉に謁を賜ひ、直に御座所を出でさせられ、校長の御先導にて生徒の成績品を臺覽夫れより教室に臨ませ給ひ、教諭岩上勘藏の第三學年甲組生理學皮膚の組織の教授・教諭高橋譽四郎の第四學年甲組外國地理パナマ運河開鑿に就ての教授・教諭市原重吉の第五學年甲組英語彼得大帝に就ての會話教授を御巡覽の上、午後四時十分還啓仰出され、職員生徒の奉送裡に御氣色麗はしく同校御出

門同三十分御旅館偕行社へ還御あらせ給ふ。校長は臺臨の御禮言上の爲、直に御旅館に伺候せり。

臺覽に供せし生徒成績品其他

同校寫眞帖　一帖
訓育に關する施設を記せしもの　二幅
作文　一冊
圖畫帳　一帖
圖畫　三葉
習字　一帖

臺覽を賜はりし教授要項

第四學年

地理科　教諭　高橋譽四郎

題目　パナマ共和國、パナマ運河開鑿工事並に開鑿後の影響。

教授の方法　左の事項を地圖標本を用ひて教授す。

パナマ共和國は中央アメリカの最南に位し首府パナマ太平洋岸にありコロン（太西洋岸にあり）鐵道を通ず。

有名なるパナマ運河は佛人レセップ氏の設計によりパナマ、コロン間四十六哩の地を開鑿せんとし明治十四年資金七億七千フランを以て工事に着手せしが資金缺乏の爲中止せり、明治二十七年新會社起りて工事繼續せしも明治三十六年アメリカ合衆國は、貳億フランにて之を讓り受けコロンビヤに交渉せしも拒絶せられしかば同年パナマ一州を助けて獨立せしめ之と交渉し運河の兩側五哩の地を永久使用するの

御手許に差出せしもの

學校一覽　一通
實地授業教案　一通
圖畫帖　一帖
圖畫　三葉
作文　五題

權を得目下工事中なり。

明治四十七年頃竣工の豫定なるが閉鑿の上は世界の交通貿易軍事上等に至大の影響を與ふるに至るべし

産物として珈琲バナマ帽（歐洲にてはグソヤクイル帽と云ふ）等を産す。

右說明の後運河竣工の上我國の貿易軍事上等に及ぼす影響に付問答す。

第三學年

博物科（生理）　教諭　岩上勘藏

題目　皮膚の組織　一表皮の組織

教授の方法　模型及描畫を以て左の事項を教授す。

皮膚は主に結締の組織より成るも外面に現はれずして其表面は相連接する上皮一層にて被はる皮膚の結締組織部を稱して眞皮と云ひ上皮膚を表皮と云ふ。

表皮

表皮は明かに境界を有する二層あり、深層卽ち「マルピギー」氏層は眞皮乳頭の間に存す凹陷部を塡充す。

外層卽ち角層は深層卽ち「マルピギー」氏層の上部をなす層是れなり。

「マルピギー」氏層角層共に上皮細胞より成るも層の異なるに從て種々の外觀を呈す。

「マルピギー」氏層の內最も深部の眞皮に接する所の細胞は膜を有せず圓柱狀にして楕圓形の核を有するも其上にある數層の細胞は球形にして多數の棘を有する細胞となるが如し。

此「マルピギー」氏層に於ては細胞分裂によりて絕えず細胞を新生するものなり。

角層は其構造に二樣あり卽ち手掌及足蹠の如き厚き表皮に於ては「マルピギー」氏層に連接せる細胞は甚しく光輝ある顆粒を有する顆粒層にして其上には透明層を存す此透明層顆粒の液化して細胞中に普く浸潤したるが爲めに平等に光輝ある透明層となれるものあり。

而して此透明層は更に幅廣き固有の角層により被はるるものとす而して此角層は素と透明層の細胞は更に鞏固に角質化したるに因るものとす。

然るに手掌及足蹠の皮膚を除ける他の菲薄なる表皮に於ては顆粒層前者よりも薄く又全く透明層を缺き角質化せる固有の角層を以て組成せらるるものとす

此固有の角層を組織せる細胞は甚しく扁平となり內部の原形質は乾固し核も消滅し隣接せる細胞との結

合力乏しく最外部より漸次剝離するものとす。
以上の如く表皮は上皮細胞のみにて組織するも表皮に局限すれば出血又は痛みを感ぜざる所以にして身體擁護の旨に適ふものとす。
又皮膚の色彩を生ずるに專ら「マルピギー」氏層の細胞間及細胞内に色素の沈着するに因るものとす而して其色素の發生は眞皮結締組織内若しくは表皮内に於てするものなり是れ各人種の皮膚に種々なる色彩を呈する所以なり。

第五學年

外國語科（英語）　教諭　市原重吉

題目　露西亞皇帝ペテロ大帝の略歷に就き聞取及會話を教授す。

教授の方法　左の事項を英語にて之を聞取らしむ。

露西亞皇帝ペテロ大帝は露國の父と見做さるこれ大帝が貧弱にして野蠻なる露國をして歐洲最大强國の一となさしめたるが故なり、千六百八十九年位に即くや年僅かに十七歲なりき當時露國には常備兵なく海軍なく商船なかりきペテロ親ら陸軍練兵をなし其未熟なる兵隊を操練して以て陸軍を完備せしむ又造船學を學ばんが爲僞裝して和蘭及英國に遊び親ら大工となり造船所に於て勞働したり露國に歸るや歐洲西部の美術及科學を自國に輸入し瑞典と交戰するや黑海に添へる大州を攻め取り其他數度の捷利を得千七百二年新たに首府を造り彼の名に因みてペテルスベルグと稱す千七百二十七年崩齡五十二其性格を見るに一面野鄙殘忍の點ありしにも拘はらず其偉大なる功績は以て彼の名を聞く者をしてよく畏敬の念を生ぜしむ。

右の略歷を述べ終るや左の會話をなす。

問　Why is peter the great considered the father of his country?

豫期の答　Because he found it poor and barbarous, and left it one fo the most powerful states of Europe.

問　How old was he when he assumed the crown?

豫期の答　He was seventeen when he assumed the crown in 1687.

問　Tell me some of the things which Russia lacked at that time?

豫期の答　She lacked a regular army, a navy, and a mercantile marine.

問　How did peter begin the formation of an army?

豫期の答　That he wagged, several successful wars, and conquered vast provinces from charlse XII king of Swedon.

問　What did he do in the year 1700?

豫期の答　He laid the foundations of st. Petersburg, the new capital of Russia.

問　How old was he when he died?

豫期の答　He died in the year 1725, when he was fifty years of age.

問　And how did he learn ship building?

豫期の答　By travelling incognito to Holland and England and working in the dock yards there as a common carpenter.

問　What did he do on his return to Russia?

豫期の答　He commensed the work of introducing there the arts and sciences of the West.

問　What can you tell me of his wars?

豐橋に於ける奉迎送

豐橋市にては今回行啓の御沙汰に接するや當市空前の光榮とし、奉迎準備をさ〳〵怠りなく、御順路の修理・橋梁の架替・水路の修繕等七千餘圓を出費して面目を一新し、驛前には高さ四十尺・幅二十四尺の大綠門を建て、夜間は之れに三百五十燭のイルミネーションを點し、五色の電球を以て奉迎の二字を表はし、各戶國旗球燈を掲げ、御路筋には各所に大國旗を交叉し、官民それ〴〵所定の位置につきて靜肅に奉迎奉送す。

御駐泊の第一夜には午後七時より偕行社營庭に於て、大筒一本・手筒二百本花車二十本を打出し、更に新練兵場に於て仕掛建物烟火一臺・亂玉二百發を打

揚げ臺覽に供し、二十日夜も午後六時より種々意匠を凝したる三河烟火を放揚して臺覽に供し奉りぬ。

又當市小學校にては二十日午後西八丁練兵場に於て女生徒約千三百名の櫻花遊戲を臺覽に供し、夜に入りて市内八小學校・高師村四小學校兒童職員約二千名は、午後六時高師村小池縣道交叉點に集合、それより提灯行列を行ひ樂隊を先登として唱歌三河男子を歌ひつつ偕行社前に進み、萬歲を三唱して御旅情を慰め奉れり。

尙當市より市の特産品たる玉糸二括・生絲二括を、渥美郡より鮮鯛五尾・伊勢蝦七尾を獻上、御嘉納あらせ給ふ。

東宮殿下御駐泊（豊橋偕行社記錄）

東宮殿下御駐泊

東宮殿下には明治四十三年十一月尾參の野に於て施行の第三・第十五師團對抗演習御覽後引續き愛知縣下御巡視の爲め同月拾九日豊橋へ行啓の際當社を御旅館に充てさせられ拾九・貳拾の兩日當社に御駐泊貳拾壹日東京へ御還御あらせられたり。

設備其他の景況左の如し。

一、檢分十一月十一日　東宮殿下當社に御駐泊のことに御治定相成りたるに付檢分の爲め馬場

東宮主事は屬官一名を從へ同日午前來社社の内外を詳細に檢分し設備の概要を指示し同日午後歸還せらる。

一、設備の概要

當社内外の諸設備に付ては左表の通り擔任區分を定めたり。

監督	主任	副主任	助手	擔任事項
齋藤主計正	池田幹事		平松書記	一、偕行社負擔に屬する諸調度品の新調備付但直接工事に連繫するものを除く。 二、偕行社内各室及室外道路庭園等の掃除手入但工事を實施する各室及通路等を除く。 三、偕行社内外電燈設備及幕張。
	江田主計正	村田主計		一、御座所御寢室御召換所御浴室御厠其他臣下以下各室に屬する諸調度品の新調借入備付。 二、豊橋市と交涉を要する事項。
	中島主計		福井技手 武井技手	一、御座所御寢室御召換所浴室厠其他臣下用居室事務室並之等各室の渡廊下通路欄壁等に係る諸工事實施。（掃除手入を含む） 二、直接工事に屬する諸調度品の新調備付。
	芝田主計正	佐藤主計	大庭計手 和田計手	一、中島主計池田幹事擔任に屬する各室工事出來方及各室内外掃除手入の監視。 二、各主任間の相互連絡に關する事項。 三、前各主任に屬せざる事項。

備考　一、前各項の如く主任を定むと雖も各主任は互に繁閑相助け協力一致して設備の完全を期することを要す。
二、師團司令部に於ける室内外の掃除手入等は本表の擔任外とす。

一、室内其他消毒
室内厠等消毒事務は師團軍醫部擔任す。
一、當社事務所
當社事務所は自十一月十四日至同月二十日師團司令部被服庫内へ移轉す。
一、當社に屬する諸物品移搬
當社に屬する諸物品中不用のものは悉く師團司令部被服庫へ移搬せり。
一、御寢室
御寢室は第一號室内を模樣替をなし其中央より稍南方の所を東西に間仕切をなし其南方の一室に疊十四疊新調して敷込み御寢室に充つ。
一、御召換所
御召換所は第一號室内前記間仕切の北方の一室を以て之れに充つ白布を以て床上を張る。
一、御浴室及御厠
御浴室及御厠は第一號室の西方に接續し臨時に新築し御召換所より御出入出來得る如くに設備す。
一、御座所
御座所は階上大廣間の入口より稍西方に當る所に南北に間仕切をなし其西方の一室を御座所に充つ但其室内には絨氈を敷く。
一、侍從候所
侍從候所は階上御座所の隣即ち東方の一室を之れに充つ。

一、調理所
調理所は湯沸所と雜物庫の間に調理所一棟を新築す。
（現在の第三雜物庫之れなり）
一、供奉高等官室
供奉高等官室（寢室共）は階下各室（御寢室及御召換所を除く）を以て之れに充つ。
一、侍醫室
侍醫室は書記社宅を以て之に充つ（渡廊下を新設し本館へ連絡す）
一、供奉判任官以下事務室及寢室
供奉判任官以下事務室及寢室は師團司令部被服倉庫の一部を以て之れに充つ。
一、地方官の事務所
地方官の事務所は師團司令部被服倉庫の一部を以て之に充つ。
地方官の事務所は師團司令部被服倉庫の一部を以て之に充つ。
一、御座所御寢室及御召換所には金屏風を立て盆栽書畫等を陳列す。
一、偕行社前庭馬車廻の所に電柱を立て百燭光を後庭の東西二ヶ所に電柱を立て各千二百燭の弧光灯（アークトウ）を點火せり。
一、御用品の上納
御用品の上納は左の商人に師團經理部より指示せらる。
魚類　市内魚町　瀧崎安之助
野菜類同　丸一河合商店
供奉諸官料理　千歳樓

一、殿下の御着

十一月十九日午前名古屋御發車途中安城・岡崎に御立寄りあり午後四時十分豊橋停車場御着車直ちに腕車に召され午後四時三十分當社へ御着社内に駐泊あらせらる。

一、殿下御巡視

十一月廿日午前八時三十分當社御出門第十五師團司令部及高師屯在の各隊御巡視の上正午前に一旦當社に御歸着御晝食の上更に午後一時三十分御出門歩兵第十八聯隊其他御巡視午後四時御歸着あらせらる。

一、御寫眞下賜

殿下には本日當社へ御寫眞下賜

本御寫眞は師團司令部に保管す。

一、御下賜金

殿下には本日當社及今回の設備に從事したる各官へ左の通り御下賜金あり。

金五百圓　當社へ　設備費補助として當社へ

金壹封宛　齋藤主計正以下設備に從事の高等官へ

金千圓　白斜子一反及金參千疋　池田常置幹事へ

金壹封　武井技手以下設備從事の判任官以下へ

金參千疋　居宅移轉に付平松舍監へ

一、寫眞獻上

當社に於ては當社及師團司令部其他各部隊の風景を撮影せしめ美麗なる寫眞ブックに貼付し殿下に獻上せり。

一、殿下御出發

殿下には十一月二十一日午前七時四十五分當社御出門東京へ還御あらせらる。

一、御駐泊中の御警戒

御駐泊中の御警戒は專ら地方警察官及憲兵之に當り當社表門内の側方に天幕を張り詰所となす。

一、軍隊の警戒

軍隊に於ては師團司令部被服倉庫入口の門に衛兵を配置し警戒せり。

一、提灯行列及烟火

十一月二十日夕市内小學校生徒は提灯行列にて唱歌しつつ當社の周圍の道路を一巡し又當社後庭に於て手烟火を揚げ御覽に供したり。

一、電話架設

豊橋郵便局に於て當社に臨時電話を架設し殿下御駐泊中供奉諸官の使用に供したり、其電話番號は六〇〇番にて當社は其後電話に加入し右番號を其儘襲用し以て殿下御駐泊の記念たらしむ。

一、御座所跡拜觀

十一月二十一日殿下御出發後午後一時より御座所拜觀旁將校婦人會例會を開く出席者百餘名。

十一月二十二日（自午前八時頃至午後四時頃）同地方官民（人民は相當身分ある者）に御座所跡を拜觀せしむ拜觀者四百餘名。

十一月二十三日前日同樣地方官民に拜觀せしむ拜觀者五百餘名。

一、御駐泊諸費

今回東宮殿下御駐泊に關する諸費は總て當社に於て負擔支出せり其金額左の如し。

一金貳千九拾圓八拾錢

內譯

金額	摘要
四、三六〇	衛兵所同便所 設備費
三六、二三〇	御調理所附庇 同
一九、三一〇	臣下用浴室 同
一二、三〇〇	同居室間仕切 同
八九、〇七〇	渡廊下 同
四七、五一〇	地方官控室 同
九七、三〇〇	臣下用厠 同
一七七、二〇〇	庭園 同
三八一、一八〇	御浴室御厠 同
一三二、七六〇	御寢室御召替所同
二七、八七〇	御座所間仕切 同
一四三、八七〇	調理所 同
四、六〇〇	御浴湯煮沸用品修理費
四九六、二五〇	御座所敷物窓掛等購入費
五九、八三〇	御椅子卓子掛等同
一一、七八〇	火鉢及鐵瓶等 同
六、九二〇	火鉢等同
一二、六〇〇	國旗同
五、八〇〇	大工及人夫賃
一、六〇〇	盆栽運搬人夫賃
九、九四〇	香水購入代
〇、一二〇	燭臺運搬費
一三、六四〇	御召換所廊下等に使用天竺木綿損料及張賃
六、五〇〇	急用人力車賃及屏風等運搬費
三七、〇〇〇	獻上寫眞代
四〇、一〇〇	御座所用等煖爐購入費
六〇、九四〇	雜品購入及修理費
二七、八五〇	雜役人夫賃
三五、〇八〇	電燈料
一二、〇〇〇	生花謝儀
四、六五〇	盆栽謝儀
一二、三五〇	庭園手入費

三、四六〇	東宮職員接待用晝食代
三、九〇〇	接待用菓子代
五、二六〇	御座所其他記念撮影寫眞代
〇、五〇〇	茶購入費
四八、〇〇〇	雜役人夫賃
四、六八〇	常置幹事名古屋行旅費
〇、六〇〇	燭臺運搬費
一、〇〇〇	同上及荷造箱代
二、六〇〇	行燈運搬費
一、三〇〇	同上

還啓仰出さる　皇太子嘉仁親王、明二十一日豊橋御發東京へ還御在らせらる可き旨仰出され、二十日東宮大夫男爵村木雅美より愛知縣知事深野一三宛通達あり、追て御微行の事申添へらる。その御發着割次の如し。

御發着割

十一月二十一日

午前七時四十五分　豊橋偕行社御出門
同　八時十五分　豊橋停車場御發車臨時汽車
午後四時　新橋停車場御着車
還御

還啓　去る六日御着駕以來十五日の長きに亘りての御旅行に何の御恙もなく御見學を給らせ給ひ、御豫定の如く二十一日午前七時四十五分豊橋偕行社御出門、同八時十五分豊橋驛發宮廷列車にて還啓の途につかせ給ふ。

豊橋驛構內には、內山第十五師團長・新山步兵第十七旅團長・豊邊騎兵第四旅團長・松原區裁判所判事・細谷稅務署長・大口市長・木原渥美郡長等を始め、文武高

一、尾三婦女善行錄　壹冊　名古屋市　愛知縣立高等女學校
一、三ッ組水盤　壹組　東春日井郡　瀨戸町
一、花瓶　壹本　同　同
一、花瓶　壹本　同　同
一、大名行列玩弄品　三組　同　同
一、花瓶　壹本　東春日井郡瀨戸町　町立瀨戸陶器學校
一、牛置物　壹個　同　同
一、野菜（石刀柏・野蜀葵・胡瓜／メロン・蜜柑・梨・柿）　壹籠　愛知縣立農事試驗場
一、名古屋交趾（去勢雄壹羽／雌壹羽）　同　林小傳治
一、七寶燒金銀線模様手匣　壹個　海東郡七寶村　津島町
一、籠　壹籠　海東郡　安城町
一、梨　壹籠　碧海郡明治村　小山松三郎
一、蜜柑　壹籠　額田郡　岡崎町
一、三河白木綿（丸紡長尺／半紡長尺／三白短尺）　各五反　額田郡岡崎町　合資會社三龍社
一、白色生絲　二括　碧海郡大濱町　石川八郎治
一、味淋　四合壜　壹折　丹羽郡布袋町　杉本伊右衛門
一、岡木綿　壹反　額田郡岡崎町　早川林右衛門
一、八丁味噌　五貫匁入　五樽　額田郡岡崎町　大田彌治右工門
一、八丁味噌　五貫匁入　五樽

等官五十餘名、各種婦人會員等多數整列し、又驛前より御道筋の兩側には縣立第四中學校・豐橋市立高等女學校、其他豐橋市及び渥美郡の各小學校生徒整列し其の列後には拜觀者山の如く堵列奉送する中を村木侍從武官長・一條侍從長以下供奉員・土屋大將・深野知事其他の隨員を從へさせられ、御會釋を賜ひつつ通御、早風驛長の御先導にて御料列車に召させらる。二十一發の烟火の未だ消えざる間に列車は徐々として進行を始め、御機嫌いと麗はしく還啓あらせられぬ。深野知事は東園警察部長と共に濱松迄扈從奉送す。

獻上品　深野愛知縣知事より海東郡甚目寺村產方領大根・海西郡立田村產蓮根・中島郡祖父江町產獨活・海西郡八開村產薯蕷・海東郡甚目寺村產大薑・丹羽郡千秋村產胡蘿蔔・西春日井郡新川町產胡瓜以上壹籠、西春日井郡春日村產宮重大根・同白菜・愛知郡荒子村產甘藍・西春日井郡清洲町產里芋以上壹籠、及び日本種眞鯉二尾・獨逸種鏡鯉二尾・鰻十尾を獻上し、名古屋市長加藤重三郎より鼈壹籠を、豐橋市長大口喜六より生絲二括・玉糸二括を、西加茂郡長井深基より富士柿・梨・シメヂ以上壹籠・野菜四籠・鴨壹番・果物貳籠を、渥美郡長木原勝太郎より鯛壹籠を、各獻上し、左記を知事より傳獻す。

一、明治三十七八年戰役實話 精神教育資料 壹冊 名古屋市東區京町 山田十造
一、清酒 壹折 愛知郡笠寺村 廣瀨合名會社
一、シツホン、スカーフ 五枚 西春日井郡金城村 帝國撚絲織物株式會社
一、縞シツホン 婦人肩掛用 壹本 同 同
一、野菜（蓮根・白菜・獨活・牛蒡・大根・欵冬・里芋・蜜柑・林檎） 壹籠 西春日井郡西枇杷島町 青物問屋業組合
一、野菜（宮重大根・獨活） 壹籠 西春日井郡 清洲町
一、優美セル 壹反 名古屋市東區高岳町 合資會社 愛知物產組
一、此花御召 壹反 同 同
一、ケーフ 壹着 同 同
一、被布地セル 貳反 海東郡津島町 片岡毛織物合名會社
一、縞セル 參反 同 同
一、紅茶具 壹揃 愛知郡中村 日本陶器合名會社
一、七寶製卷烟草入 壹個 名古屋市中區矢場町 荒谷性顯
一、野菜（宮重大根・薯蕷・獨活） 壹籠 西春日井郡清洲町 辻梅次郎
一、國民必讀 日本臣道 壹部 名古屋市中區南久屋町 日比野寛
一、日本臣道教科書 壹部 同 同
一、味淋 五升入 壹樽 西春日井郡西枇杷島町 山下新一郎
一、白酒 五升入 壹樽 同 同

一、蜜柑 壹籠 渥美郡高師村

御下賜品 今回の行啓に付き畏き御思召を以て左の通り夫々御下賜あらせらる。

一、銀盃三組 壹 愛知縣知事 深野一三
一、白縮緬 壹疋 酒饌料 金五拾圓
一、斜子白地 壹 內務部長 高橋要次郎
一、袴地 壹疋 酒饌料 金五拾圓
一、斜子白地 壹 警察部長 東園基光
一、袴地 壹 酒饌料 金參拾圓
一、白羽二重 壹 事務官 三橋得三
一、酒饌料 金貳拾五圓
一、白斜子地 壹 事務官補 高橋福三郎
一、酒饌料 金拾圓
一、白斜子地 壹 事務官補 伊藤喜平
一、酒饌料 金拾圓
一、白斜子地 壹 警視 井澤眞民
一、酒饌料 金拾圓
一、白斜子地 壹 技師 竿田秀靜
一、酒饌料 金拾圓
一、白斜子地 壹 技師 種田戌次郎
一、酒饌料 金拾圓
一、袴地 壹 警視 橋本久樹
一、酒饌料 金拾五圓
一、白斜子地 壹 西加茂郡長 井深基
一、酒饌料 五千疋
一、酒饌料 金六拾圓 技師 橋本定吾外五人 試補 大塚惟精へ
一、金參百圓 縣屬 技手 警部 巡査部長等 行啓關係員一同へ
一、酒饌料 金貳千疋 警視 熊谷嘉七
一、酒饌料 金貳千疋 警視 坂梨雄藏
一、酒饌料 金拾五圓 警視 國宗鹿太郎
一、酒饌料 金參千疋 渥美郡長 木原勝太郎
一、金五千疋 渥美郡書記以下關係員へ
一、金貳拾圓 渥美郡高師村長山上俊藏以下關係員へ
一、金參百圓 豐橋市へ
一、白斜子 壹 豐橋市長 大口喜六

一、金拾五圓	豐橋市助役以下關係員へ	永野武三
一、金五百圓	名古屋市へ	
一、白袴地 壹 壹	名古屋市長	加藤重三郎
一、金參拾圓	名古屋市助役榎戸利吉以下關係員へ	
一、酒饌料 金貳千疋	額田郡長	中從義
一、金貳拾圓	岡崎町長以下關係員へ	
一、酒饌料 金貳千疋	碧海郡長	脇屋義純
一、金五千疋	碧海郡書記以下關係員へ	
一、金五千疋	碧海郡高岡村長以下關係員へ	
一、酒饌料 金參千疋	愛知郡長	笹原辰太郎
一、五千疋	愛知郡書記以下關係員へ	
一、金五千疋	高針村長以下關係員へ	
一、金五千疋	平針村長以下關係員へ	
一、酒饌料 金貳千疋	東春日井郡長	山田正
一、金貳拾圓	瀨戸町長以下關係者へ	
一、金五千疋	鈴木三好村長へ	
一、金拾五圓	西加茂郡三好村役場員一同へ	
一、金拾圓	三好村厩舍假建地御用達醫王院へ	
一、金貳千疋	加藤三好小學校長へ	
一、金拾五圓	西加茂郡書記以下關係員へ	
一、金貳千疋	乳牛飼養人鈴木榮吉へ	
一、金貳拾五圓	瀨戸電氣鐵道會社長以下運輸關係員へ	
一、金五拾圓	瀨戸電氣鐵道會社へ	
一、金貳百圓	西加茂郡三好村へ	
一、金八百圓	御旅館設備費へ御補助トシテ西加茂郡三好村へ	
一、御紋章付銀製卷煙草入	德川侯爵へ	
一、酒饌料 金三千疋	遞信管理局長	杉精三
一、酒饌料 金二千疋	名古屋郵便局長心得	初見五郎
一、金五千疋	名古屋郵便局員配達夫	

名古屋偕行社幹事副長西川虎三郎は御召によりて豐橋へ出張左の金品を拜受す。

一、金五百圓	偕行社へ御下賜	一等主計 奥田元吉
一、金千五百圓	偕行社修繕費中へ	一、同
一、軍服地及酒饌料	幹事長	黑澤源三郎 一、同
一、同	幹事副長	西川虎三郎 一、同
一、酒饌料	幹事	青山寬 一、羽織袴地並ニ酒饌料
一、同	同	野口寅一郎 一、酒饌料
		社番給仕三名

同年十二月三好第一尋常高等小學校に對し畏くも　皇太子御寫眞御下賜相成、十五日三好村長鈴木新次郎・小學校長加藤富士男縣廳に出頭拜戴せり。

第十二章　特別騎兵演習及び海軍聯合

小演習地へ行啓

明治四十四年十月

行啓日御治定　明治四十四年十月十二日東宮職庶第一五五號を以て　皇太子嘉仁親王來る十五日東京御出發、特別騎兵演習及び海軍聯合小演習地へ行啓在らせらる可き旨仰出され、御發着割御治定の事、東宮大夫男爵波多野敬直より愛知縣知事深野一三宛通牒あり、追て御微行の事申添へらる。其の御發着割左の如し。

御發着割

十月十五日

午前八時三十五分　東宮御所御出門
同　九時　新橋停車場御發車　臨時汽車
午後五時五十五分　名古屋停車場御着車
御泊　名古屋離宮

十月十六日
同　十七日
同　十八日
名古屋御滯留

十月十九日

午前七時二十分　名古屋離宮御出門
同　七時五十分　名古屋停車場御發車　臨時汽車
午後五時　岡山停車場御着車
御泊　後樂園

十月二十日

午前七時二十五分　岡山後樂園御出門
同　七時四十分　岡山停車場御發車　臨時汽車
午後零時五十五分　宮島停車場御着車
御乘艦　軍艦富士
演習地へ向け御發艦

十月二十六日

午後　神戸港御着艦
御假泊

十月二十七日

午前八時　五　分　神戸御上陸
同　八時十　五　分　神戸停車場御發車　臨時汽車
午後五時五十五分　靜岡停車場御着車
御泊　靜岡御用邸

十月二十八日

午前九時五　十　分　靜岡御用邸御出門
同　十　時　靜岡停車場御發車　臨時汽車
午後三時　五　分　新橋停車場御着車
還御

供奉人名

親任官	勅任官	奏任官	判任官	等外	小者
東宮大夫男爵　波多野敬直	東宮武官長男爵　村木　雅美	東宮主事子爵　錦小路在明	文書係東宮屬　谷脇虎之助	仕人	高森金太郎
	東宮侍從　田内　三吉	東宮侍從　原　恒太郎	同　永田　虎尾	使夫	中野新次郎
	同	同	同　角　秀壽		吉野老之助
		東宮武官　甘露寺受長	主膳掛東宮屬　大西德三郎		關根清次郎
		同　山岡　豊一	內廷掛雇　守城　虎三		山崎　傳
		同　大內　義一	會計掛雇　植　萬吉		津川　政次
		同子爵　田村　不顯	用度掛東宮屬　加藤　堯敬		山田龜太郎
		侍醫學博士　土屋　岩保	東宮內舍人　齋藤　義法		吉見　虎稚
		藥劑師　千葉　武同	伊地知榮輔庖丁		伊藤莊一郎
			廣田　豐吉曳夫		村越松之助
			佐藤　倉吉雇		今泉　適
			東宮武官附海軍屬　岩田　義治藥丁		茂呂　良二
			今關　安藏		參　人

小計	一	二	八				
	供奉主馬寮		内藏寮現金取扱方	貳	人		
			一二				
		主馬寮技師 清岡眞彦					
小計			一			一〇	
			宮内屬 渡邊美雄	鐵工	喜多川五郎	磨方	貳人
			同	主馬寮技手	金子藤三郎	馬丁	拾壹人
			同	同	上田政次郎	省丁	壹人
			同	同	堀岩五郎		
			四				
							一〇

供奉員旅館

丸文（上園町 五〇）

東宮大夫	男爵	波多野敬直	
東宮武官長	男爵	村木雅美	
東宮侍從	左ノ三名ノ内一名		
勅任		田内三吉	
奏任		原恒太郎	
同		甘露寺受長	
東宮武官	左ノ三名ノ内一名		
奏任		山岡豊一	
同	子爵	田村丕顯	名
内藏寮現金取扱方		貳	
主馬寮技師		清岡眞彦	
同屬		渡邊美雄	
同技手		四	名
同小者		一	名
鈴木屋（東外堀町二丁目二）			
蹄鐵工一名、磨方二名、馬丁十一名			

奏任 大内義一

行啓に付準備 明治四十四年度特別騎兵演習施行に際し 皇太子當縣下へ行啓の事、豫て九月二十八日騎兵監秋山好古より知事宛内報あり、十月十二日に至り波多野東宮大夫より電報を以て來る十五日午後五時五十五分名古屋御着車の旨通信あり、依て直に左記委員を設け事務を分掌し苟も遺漏なからしめんことを期せり。

行啓臨時委員

委員長	事務官	深町錬太郎	屬
委員	事務官	三橋得三	同
同	事務官	東園基光	同
同	事務官補	高橋福三郎	視學
同	技師	伊藤喜平	屬
同	技師	竿田秀靜	同
同	試補	有光兎茂喜	同
同	屬	今井俊彦	同
同	視學	大島德太郎	技手
同	屬	林喜江太郎	屬
同	屬	河野省一郎	同
同	同	吉川一太郎	同
同	同	山本武五郎	同
同	同	安井作太郎	同
同	同	根來長太	同
同	同	石田甲太郎	同
同	同	村手喜多治	同
同	同	石川林之助	同
同	同	伊藤爲憲	同
同	同	堀江貞二	同
同	同	津金胤義	同
同	同	岡本信久	技手
同	同	大木盛三郎	同
同	土木技手	杉山熊吉	同
同	警視	舟橋鉾吉	同
同	同	日下部鏡次郎	同
同	同	宇野鏟太郎	同
同	同	小山高重	同
同	同	足立彌四郎	同
同	同	小出芳太郎	同
同	同	青山奥次郎	同
同	同	神谷俊次郎	同
同	同	水谷兼次郎	同
同	同	福村彌三郎	同
同	同	内藤二郎	同
同	同	雛田正作	同
同	同	伴政照	同
同	同	關兵治	同
同	同	坂梨雄藏	同
同	同	橋本久樹	同

警視　井澤眞民　警部
技師　種田戊次郎　同
警部　森民重　同

行啓關係員

前驅　警視　坂梨雄藏　御用乳牛係　技手　鳥羽源篤
後驅（十六日）　警部　河合誠　同　同　安井嚴彦
交代（十五日）　同　伊藤一己　同　同　海谷喜助
（十七日十九日同）　黒柳辰次郎　同　同　小島角太郎
離宮構內警戒　同　直井辰之助　健康診斷係　警察醫　吉川壽次郎
同　巡査部長巡査　貳拾五人　同　檢疫委員　鈴木滋
御膳水係　技手　勝田源次郎　消毒係　技手　古川友次郎
同　檢疫委員　岡崎龜彥　同　巡査　二人

名古屋市行啓委員

委員長　書記　河合誠　青木治郎吉　技手　瀧川鍊矢
助役　榎戸利吉　同　伊藤一己　吉田繁太郎　同　鈴木庄三郎
委員（庶務係）　同　同　伊藤一己　佐藤彥次郎　同　櫻井武彥
書記　犬飼道三郎　事務員　黒柳辰次郎　高岡重次郎　同　加藤光春
同　奥村輝刀　委員（道路係）　直井辰之助　同　同　岡崎守猷
同　神谷吉五郎　書記　健康診斷係　仁村俊德　同　董村定

同　山田幸吉　掃除監督
委員（衞生係）　同
書記　富山泰造　同
同　森井幸三郎　同
同　林光林　委員（物產係）
同　高野孟　書記
掃除監督　堀田銀太郎　同

演習地郡關係者

愛知郡長　笹原辰太郎　葉栗郡長　木村德五郎　書記　遠藤鑛十郎
外郡書記　同　久保忠量　同　河合清太郎
東春日井郡長　山田正　演習地所轄島警察署長　蜷川鎭次郎　委員（生徒、兒童泰送迎係）
外郡書記　安藤千萬吉　書記　伊藤曜
警部　橋本晃　同　岡田明德　同　青山六太郎
演習地所轄瀨戶警察署長　同　渡邊萬吉　同　山口辨之助
警部　後藤桝吉　高木良輔　增田養作
外郡書記　雇

行啓・名古屋離宮御着　皇太子嘉仁親王には陸海軍中將の御資格を以て特別騎兵演習及び海軍聯合小演習御見學の爲、豫ねて仰出されたる如く十五日午前八時三十五分靑山東宮御所御出門、村木武官長御陪乘、波多野東宮大夫・田內侍從、山岡・大內兩武官・錦小路東宮主事・原侍從・田村武官・土屋侍醫・甘露寺侍從清岡主馬寮技師・千葉藥劑師の各供奉員を從へ御巡路を新橋停車場に成らせられ、平井鐵道院副總裁・高橋驛長の御先導にて直に御召列車に乘御、午後五時

五十分名古屋驛に御安着あらせらる。

同驛には渡邊第三師團長・西川參謀長・深町内務部長・阪本名古屋市長を始め其他文武高等官・愛國婦人會員等整列、最と靜肅に御着車を待ち奉る。宮廷列車の除々として驛内に進み來り陸橋西方にて停車するや、東京より列車監督として陪乘し奉りたる古川中部管理局長御召列車の御扉を開き參らすれば、御機嫌殊に麗はしく西プラットホームに降りさせられ、渡邊師團長に擧手の禮を賜ひ、古川管理局長・飯田驛長の御案内にて陸橋を渡御、東プラットホームを南へ貴賓出入口より待合室に出で給ひ、兩側に整列せる文武官及び婦人會員新聞記者等に一々擧手の禮を賜ひつつ玄關に出でさせられ、御料の人力車に御乘車遊ばさる。

驛前より本町御門前に至る間一寸の餘地なく輝き渡る電燈の光を浴びて奉迎せる學生と、一般民衆の堵列せる中を、鹵簿は肅々として二騎の警部を前衛とし、御前驅警視・宮内官・東宮武官・御車・東宮武官長・侍從・東宮主事・深野知事・渡邊第三師團長・後驅警部の順序にて廣小路通りを一直線に本町角を北へ午後六時二十五分名古屋離宮へ着御あらせ給ふ。

行啓仰出さる　皇太子嘉仁親王、明十六日岐阜縣稻葉郡各務原方面へ行啓在らせらるべき旨仰出され、十月十五日波多野東宮大夫より深野愛知縣知事宛通達せらる。御發着割次の如し。

御發着割

十月十六日

午前六時三十分　名古屋離宮御出門
同　七時　名古屋停車場御發車
同　七時四十五分　岐阜停車場御着車

十月十六日

午後三時四十五分　岐阜停車場御發車
同　四時二十八分　名古屋停車場御着車
還御

岐阜縣各務原へ行啓　十六日各務原方面に於ける騎兵演習を參觀はせらるる爲め、波多野大夫・村木武官長以下供奉の各員を從へさせられ午前六時三十分離宮御出門、深野知事・渡邊師團長・西川參謀長・東園警察部長・阪本市長其他の奉送を受けさせられ、七時發列車にて岐阜縣に向はせらる。前日奉迎の爲め來縣の薄岐阜縣知事・松村警察部長は渡邊師團長・東園警察部長等と共に御召列車に陪乘扈從し奉る。午前七時三十分岐阜驛御着、御降車の後御愛馬藤園に召され、中仙道を經て三里の行程を御乘馬にて演習地に向はせ給ひ、午前九時各務原尾崎山麓にて御下馬、御徒歩にて同山中腹なる御野立所に御安着、東西兩軍の戰況を御觀覽の上、同所に於て御晝餐、午後一時四十五分再び御乘馬にて

岐阜に向はせられ、午後三時四十五分岐阜驛發の列車にて御機嫌麗はしく名古屋に向け御出發、夕刻名古屋離宮に還啓あらせ給ふ。

行啓仰出さる　皇太子嘉仁親王、明十七日葉栗郡木曾川町方面へ行啓在らせらる可き旨仰出され十月十六日波多野東宮大夫より深野愛知縣知事宛通達せらる。御發着割次の如し。

御發着割

十月十七日

午前五時二十五分　名古屋離宮御出門
同　五時五十五分　名古屋停車場御發車
同　六時二十九分　木曾川停車場御着車

木曾川方面へ行啓　昨日の長途の御騎乘に些の御疲もあらせられず、十七日東天猶明け遣らぬに、御豫定の如く午前五時二十五分名古屋離宮御出門、波多野東宮大夫村木武官長以下各供奉員を從へさせられ、渡邊師團長・深野知事三橋事務官・東園警察部長等陪乘し奉り、名古屋驛御發、木曾川驛着御、同所より騎馬にて葉栗郡北方村大字北方字上寶江に向け御順路を進ませられ、御路筋に堵列せる在鄉軍人・愛國婦人會員を始め、黑田・木曾川・葉栗・淺井・瑞穗・宮田・北方

草井の各小學校兒童職員等の奉迎を受けさせ給ひつつ、笠松對岸木曾川堤なる寶江の御野立所に御着轟々四隣に鳴り渡る砲聲を聞召されつつ、靜かに卓上に地圖を開かせ給ひ、御後に侍りし淺田敎育總監に種々御下問、前方に砲列を敷きたる東軍砲兵陣地及び騎兵の行動を一々御指點相成り、時折深き御微笑を兩頰に湛へさせ給ひつつありしが、やや暫くありて兩軍戰機漸く熟し猛烈なる機關銃の音、木曾の河上に轟き渡り、北方村一帶の地點は恰も一大戰野と化するに至るや、午前八時三十五分秋山統監兩軍休戰の命を宣し、四方より起る喇叭の響にて互に干戈を退くに至り、八時四十分還啓仰出され、各供奉員以下隨行の人々を從へ、御愛馬藤園に召させられ、福羽大尉の御先導にて御順路を經て木曾川驛に向はせられ、午前九時同驛御發宮廷列車にて、名古屋に還啓あらせ給ふ。

上寶江御野立所　葉栗郡北方村大字北方字上寶江十八番ノ一地の東に添ひたる木曾川堤上にあり、當時御野立の御足跡の所に直に植ゑ付けし黑松生育し、今目通り周圍二尺七寸餘に達す、其の西に方七尺の地面に、高四尺の石垣を積み上げ、東南に面して高八尺・方一尺の石柱を建て左の文字を刻す。

皇太子殿下御野立所

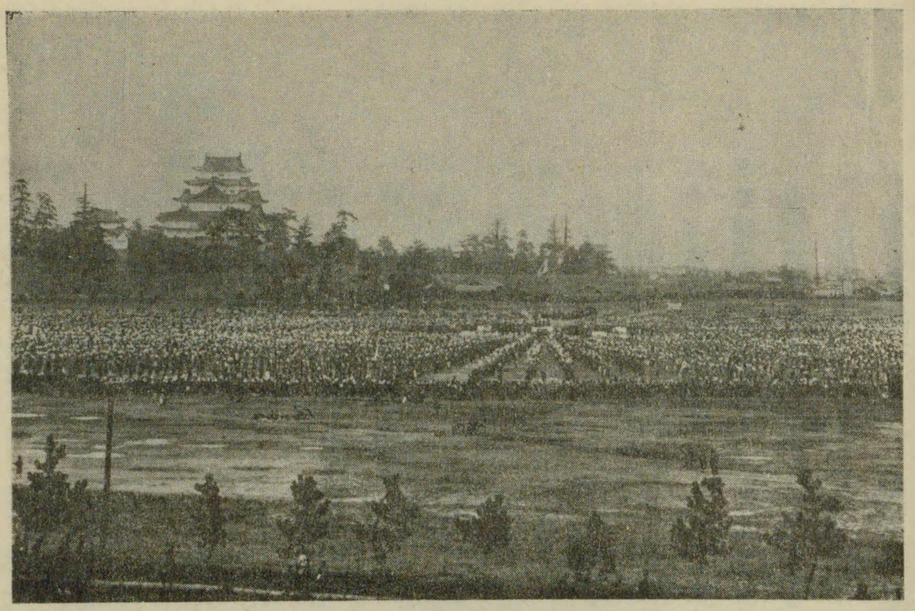
（向つて右）　尾西鐵道株式會社長
衆議院議員　高木益太郎謹書

（向つて左）
彫刻　笠井定市

（裏）
明治四十四年十月十七日特別騎兵演習

物産御臺覽及賜謁　演習より御還啓後名古屋離宮表書院御納戸に陳列の縣下物産一百五點を臺覽あらせられたる後、午前十一時より知事以下縣高等官・阪本市長・井上市會議長・市内在住の高等官各有資格者に拜謁を賜ふ。

名古屋市小學校聯合運動會臺覽　名古屋市内五十一校の各小學校兒童二萬三千餘名は、十七日午後一時半第三師團北練兵場に集合、同二時より左記規定により紀念聯合運動會を擧行し、畏くも臺覽の光榮に浴す。右は明治三十九年十月十八日當時名古屋離宮御駐泊中の　皇太子の親しく天主閣上より御見物あらせられたる紀念の運動會にて、爾來名古屋市は毎年當日を期し聯合運動會を開催するの例となれり。今年再び期を同じうして　皇太子の御駐泊あらせらるる事とて、一日を繰上げ十七日の佳辰を選びて之を擧行し臺覽を仰ぐ可く阪本市長より御取次を介して言上し、御嘉納あらせられ、御觀覽の榮を賜りたるものなり。臺覽中は特にありがたき御令旨ありたる旨拜承す翌日伊藤學務課長は離宮に伺候して同運動會寫眞二葉を捧呈せり。



名古屋市小學校聯合運動會實況

明治四十四年十月愛知縣下行啓

明治四拾四年拾月

名古屋市小學校紀念聯合運動會規定

第壹　紀念聯合運動會參加兒童ハ高等小學校男女全部尋常小學校第參學年以上男女全部トス

第貳　會場ハ第三師團北練兵場トス

第參　拾月拾七日午後壹時參拾分所定ノ位置ニ到着シ同貳時參拾分開會スルモノトス

第四　會場ノ中央ニ司令臺ヲ設ケ信號旗ヲ掲ゲテ合圖ヲナス

第五　本會ニ會長副會長ヲ置キ左ノ腕章ヲ附ス

會長名古屋市長　紫色腕章中央ニ白線ヲ附ス

副會長名古屋市第貳部長及學務課長紫色腕章

第六　本會ニ委員六拾名ヲ設ケ委員長壹名ヲ置キ其ノ他ヲ左ノ參部ニ分チ各部ニ部長壹名ヲ置ク其ノ腕章次ノ如シ

壹　委員長　青色腕章

貳　庶務部（庶務・會計・接待）　拾壹人　白色腕章

參　運動部（會場・運動）　參拾九人　赤色腕章

四　衞生部　九人　赤十字腕章

但各部長ハ綠色布ヲ腕章ニ附加ス

第七　會ノ順序

壹　開會　青色信號旗ヲ揭グ

次、最敬禮　紫白色信號旗ヲ揭グ

次、君が代吹奏　黃色信號旗ヲ揭グ

次、運動擧行　赤色信號旗ヲ揭グ

壹　男兒菊花形旗体操

第壹運動　臂ヲ平ニ高ク動カス運動

第貳運動　臂ヲ左右ニ擧ゲ前方ニ重ネ動カス運動

第參運動　踵ヲ擧ゲ臂ヲ高ク圓形ニ動カス運動

第四運動　旗ヲ頭上ニ交叉シ體ヲ前方ニ屈ムル運動

第五運動　脚ヲ前ニ臂ヲ高ク曲ゲ動カス運動

以上五運動ヲ貳回行フ

貳　女兒圓陣旗体操

第壹運動　臂ヲ側方ヨリ高ク動カス運動

第貳運動　臂ヲ前方ヨリ高ク動カス運動

參　方陣編制丸八表出

次、市歌合唱　白色信號旗ヲ揭グ

次、萬歲參唱　紫色信號旗ヲ揭グ

次、紀念旗ニ對スル敬禮　青黃色信號旗ヲ揭グ

次、最敬禮　紫白色信號旗ヲ揭グ

次、閉會　赤白色信號旗ヲ揭グ

次、退場　白青色信號旗ヲ揭グ

以上

備考

參加兒童　貳萬參千貳百八拾六人

內譯

高等小學校四校全兒童　貳千四百拾人

行啓仰出さる　皇太子嘉仁親王、明十八日午前七時御出門、東春日井郡本地原方面へ行啓在らせらる可き旨仰出され、十七日波多野東宮大夫より深野愛知縣知事宛通達せらる。

本地原行啓　御豫定の如く十八日午前七時名古屋離宮御出門、御乘馬にて東區長塀町より出來町に入らせられ、數日來掃き清められたる愛知郡東山村猪高村・東春日井郡守山町、約三里の御順路を演習地なる本地ケ原に進ませられ、午前八時四十五分同地山麓に御安着、雜草道を埋むるに拘はらず鞍上御勇ましく手綱を把らせられ、御英姿堂々福羽大尉の御先導にて豫て、設けられたる東春日井郡旭村大字稻葉地内、本地ケ原南方の御野立所に入らせ給ふ。

是より先、騎兵特別演習第三會戰の情勢は、今や東西兩軍、原の西端に起伏せる樹木及び丘陵の間より漸く出沒し、騎砲の響四圍の山岳に轟き渡り、戰機漸く熟せんとし、西軍騎兵は機關銃隊及び砲列を御野立所西北方に敷き、猛烈なる戰鬪を開始せしが、東軍も又同時に後方及び右手の高地より之に應じて砲聲を原頭に轟かし、東軍騎兵隊は前進して御野立所の前方を西軍陣地に向つて進軍し來り、壯快極りなき襲撃をなし、更に防禦陣地に退却し西軍の追撃を

待たんとするものの如く、西軍騎砲隊及び機關銃隊は陣地を進め、將に敵の陣地を占領せんとするの形勢に在りて原頭轉た凄慘の氣に充たされたる頃しも休戰の命下り嘹喨たる喇叭の響にて戰鬪を休止するに至る。

皇太子には戰端開始以前より休戰に至るまで、親しく地圖を御前に開かせ給ひ、活躍する兩軍の有樣を具に御見學あらせらる。御側に侍したる淺田教育總監及び渡邊第三師團長は御下問に答ふる所あり、當日の激戰は十六日各務原御見學以來最も壯快なるものにて、いとも御滿足の思召なる旨を宣はせられ、休戰後約一時間餘に亘る間備えの御椅子にも倚らせられず、ひたすら當日の戰狀を御研究あらせられ、秋山中將・遠山少佐は具に戰鬪の始終を言上に及びしが、更に傍に在りし淺田中將にも御下問あり、渡邊師團長また演習に關する種々の物語を言上すれば、殊の外御滿足に思召され、御聲高らかに笑はせられ、其時負傷はなかりしか、危險であつたなど御下問あり、傍の他の將校にも一々御言葉を給ひ、乘馬のことなど御下問あり、かくて午前十二時頃、兩軍茲に平和なる分列式を行ひたる後、秋山中將は當日の戰況に對する講評を御野立所の傍にて行ふ。皇太子には、一般將校と共に親しく之を聞召され、終つて還啓仰出させ給ひ、午後一時御出馬名古屋離宮に還御あらせ給ふ。

當日旭村長久手村守山町の青年團員・小學校兒童職員等は守山町字四軒屋に整列奉迎送す、猪高村に於ては大字猪子石及び猪子石原を御通過あらせられ在鄉軍人・青年團員・小學校兒童等路傍に整列奉迎送せり。還啓の砌り大字猪子石原字大田、香流川堤塘上一本松を御休憩所と定められ村民打喜び擧りて堤を修理し、眞砂を敷き、幔幕を張り、誠意をこめて迎へ奉りしに、俄然時雨空の模樣となりし爲、御少憩の御事は御取消となり、右個所を御顧みさせられつつ御歸還あらせらるるそれより村民其松を御見返松と呼びなせり。

本地原御野立所　旭村大字稻葉地内、本地ケ原の東西の中央、南に片寄りたる地點にて愛知郡長久手村に隣接す、今御野立所阯に北面して高三尺五寸・方五寸の石柱を建て左の文字を刻す。

皇太子殿下御野立ノ地

（西側面）

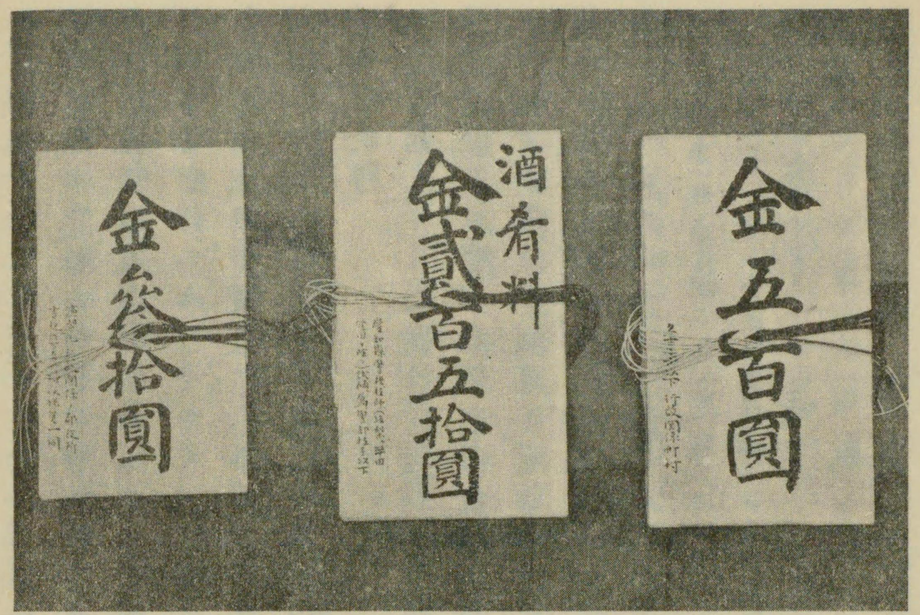
明治四十四年十月十八日特別騎兵演習ノ際

岡山へ向け御發　三日に亘り尾濃の野に執行せる特別騎兵演習の御見學も事なく終へさせ給ひ、十九日午前七時二十分、御料馬藤園に召され波多野大夫・村木武官長以下各供奉員を隨へさせられ、名古屋離宮御出門師團廓内より御順路を本町通りに出で廣小路通りより停車場にと向はせ給ふ。

師團廓内には駐在の各隊將卒整列し、奉送の喇叭の離宮の松に響き渡る間に馬蹄憂々として進ませ給ひ、兩側に堵列せる學生民衆に擧手の禮を賜ひつつ、七時四十分名古屋驛に御着あらせらる。是より先き德川侯爵・深野知事・淺田教育總監・渡邊・內山兩師團長等は玄關に其他文武高等官は待合室の兩側に、各整列御着を待ち奉れり。かくて玄關にて御馬を捨てさせられ奉迎の諸員に御會釋を賜ひつつ、貴賓出入口より東プラットホームに玉歩を進ませ給ひ御召列車に御乘車、打揚ぐる奉送の烟火の秋空に轟き渡る裡に、西に向け御發車遊ばされたり。

獻上品　十月十五日愛知縣知事深野一三より、野菜（大根・蓮根・獨活・松茸・里芋甘藍）壹籠及び葡萄壹籠を、名古屋市長阪本彭之助より鼈壹籠を、侯爵德川義親より御肴壹籠及び御菓子壹折を獻上し、十六日名古屋控訴院長藤田隆三郎・同檢事長手塚太郎より鮮魚壹臺を、十八日東春日井郡長山田正より松茸壹籠を各獻上す。尙左記の通り獻納願出ありたり、依て知事より傳獻す。

一、大根	澤庵漬	壹樽	愛知郡御器所村　加藤和助
一、鯱	おこし	壹箱	名古屋市中區門前町　水野廣吉
一、活動人形オーライ		壹個	名古屋市西區玉屋町　長谷川與吉
一、古今中	京書談	壹冊	名古屋市東區鍋屋町　田部井鉚太郎
一、梨		壹籠	東春日井郡守山町長　谷口島五郎



御下賜金（明治四十四年十月十九日御下賜）

御下賜品　今回の行啓につき係員の勞を思召され左の通り御下賜あらせらる。

一、酒饌料二萬疋　知事　深野一三
一、酒饌料六千疋　事務官　深町錬太郎
一、酒饌料六千疋　事務官　三橋得三
一、酒饌料六千疋　事務官　東園基光
一、斜子　一　事務官補　高橋福三郎
一、同　伊藤喜平
一、同　警視　坂梨雄藏
一、同　技師　竿田秀靜
一、同　種田戊次郎
一、酒饌料二千疋　東春日井郡長　山田正
一、同　愛知郡長　笹原辰太郎
一、同　葉栗郡長　高木良輔
一、金參千疋　牛乳納人　鈴木榮吉
一、金貳千疋　豫備牛乳納人　柴垣太三郎
一、酒肴料金貳百五拾圓
愛知縣警視、技師（坂梨・竿田・種田ヲ除ク）試補、屬、警部技手以下
一、金貳百圓　名古屋市
一、金六拾圓　東春日井郡守山町
一、金參拾圓　同　旭村
東春日井郡演習地行啓關係郡役所書記以下及町村役場吏員一同へ
一、金拾　圓

一、金參拾圓　愛知郡猪高村
一、金參拾圓　同　東山村
一、金六拾圓　同　長久手村
一、金拾　圓　愛知郡演習地行啓關係ノ郡役所書記以下及町村役場員一同へ
一、金參拾圓　葉栗郡木曾川町
一、金六拾圓　同　北方村
一、金拾　圓　葉栗郡演習地行啓關係ノ郡役所書記以下町村役場員一同へ

213
587

大正天皇愛知縣聖蹟誌卷一 大尾